

SYLLABUS

2025 年度 春学期

3年次

青森公立大学

経営経済学部

目 次

科目群	授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ
A C B	ACB演習	(4)	選必	エシアナ ベネス	1
				江連 敏和	3
				香取 真理	5
				神山 博	6
				丹藤 永也	7
				成田 芙美	8
				深田 秀実	10
教 養 科 目	仏教の思想	(4)	選必	松本 知己	12
	メディアとジャーナリズム	(2)	選必	河田 喜照 ほか	16
	生命の科学 注 1	(2)	選必	永長 一茂	20
	民法	(4)	選必	小林 直樹	23
	教養演習	(4)	選必	大森 史博	27
				小林 直樹	29
				下村 育世	31
				鈴木 郁生	33
				西村 吉弘	35
				本田 明弘	37
				横手 一彦	39
キャリア 教育科目	事業論Ⅱ	(1)	選必	小田切 勇治 ほか	41
経 営 学 科	グローバル経営論	(2)	選必	グエン・チ・ギア	43
	会社法Ⅰ	(2)	選必	白石 智則	46
	組織学習論	(2)	選択	長谷川 直樹	49
	監査論Ⅰ	(2)	選択	紫関 正博	52
	租税法	(2)	選択	金子 輝雄	55
	財務戦略	(2)	選択	長谷川 美千留	58
	経営情報論 注 2	(2)	選択	古賀 広志	61
	商業実習	(4)	選択	砂場 孝一郎	64
	地域企業論Ⅰ 【他学科展開科目】	(2)	選択	生田 泰亮	68
	地域社会論Ⅰ 【他学科展開科目】	(2)	選択	佐々木 てる	71
	環境経済学 【他学科展開科目】	(2)	選択	青山 直人	75
	地域経営論 【他学科展開科目】	(2)	選択	足達 健夫	78

目 次

科目群		授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ
専門科目	経営学科	経営演習Ⅱ	④	必修	池田 享誉	81
					金子 輝雄	83
					紫関 正博	85
					中川 宗人	87
					長谷川 美千留	89
					藤沼 司	90
					行本 雅	92
	経済学科	金融経済学Ⅱ	(2)	選必	山本 俊	94
		地域経済学	(4)	選必	樺 克裕	97
		産業組織論	(4)	選必	橋本 悟	101
		実証経済分析	(2)	選択	小寺 俊樹	105
		環境経済学	(2)	選択	青山 直人	75
		ファイナンス理論	(2)	選択	山本 俊	108
		社会保障論	(2)	選択	大矢 奈美	111
		経済特殊講義Ⅲ	(2)	選択	堤 静子	114
		会社法Ⅰ 【他学科展開科目】	(2)	選択	白石 智則	46
		財務戦略 【他学科展開科目】	(2)	選択	長谷川 美千留	58
		経済演習Ⅱ	④	必修	青山 直人	117
					大矢 奈美	119
					河野 秀孝	121
					樺 克裕	123
					木立 力	124
					工藤 恭嗣	125
					黄 年宏	127
					七宮 圭	129
					橋本 悟	131

目 次

科目群		授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ
専門科目	地域みらい学科	会社法Ⅰ 【他学科基幹科目】	(2)	選必	白石 智則	46
		地域の産業Ⅱ	(2)	選択	松田 英嗣	133
		地域経営論	(2)	選択	足達 健夫	78
		自然史・地理情報と地域創造	(2)	選択	三浦 英樹	136
		地域みらい特殊講義Ⅱ	(2)	選択	柏谷 至	139
		経営革新論Ⅰ	(2)	選択	生田 泰亮	142
		フィールドリサーチⅡ	(2)	選択	足達 健夫	-
					生田 泰亮	
					佐々木 てる	
					長岡 朋人	
					野坂 真	
					三浦 英樹	
					安田 公治	
					渡部 鮎美	
		財務会計論Ⅱ 【他学科展開科目】	(2)	選必	金子 輝雄	145
		マクロ経済学 【他学科展開科目】	(4)	選択	今 喜典	148
		知の挑戦Ⅱ	④	必修	足達 健夫	152
					生田 泰亮	153
佐々木 てる	154					
野坂 真	155					
三浦 英樹	157					
安田 公治	159					
長岡 朋人	160					
渡部 鮎美	162					

【注1】「生命の科学」は秋学期開講科目ですが、2025年度は春学期開講とします。秋学期は開講しませんので注意してください。

【注2】「経営情報論」は秋学期開講科目ですが、2025年度は春学期開講とします。秋学期は開講しませんので注意してください。

目 次

2020年度及び2021年度入学生へ(学籍番号の上位4桁が「1200～」 「1210～」で始まる学生)

(1)「財務会計論(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「財務会計論Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。
- ②秋学期開講の「財務会計論Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。
- ③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

(2)「監査論(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「監査論Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。
- ②秋学期開講の「監査論Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。
- ③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

(3)「自然史・地理情報と地域創造」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「地域ICT戦略論」の読替科目です。

(4)「経営革新論Ⅰ」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「経営革新論」の読替科目です。

(5)「租税法」は、2020年度・2021年度入学カリキュラム「税務会計Ⅰ」の読替科目です。

2019年度以前入学生へ(学籍番号の上位4桁が「1180～」 「1190～」で始まる学生)

(1)「財務会計論(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「財務会計論Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。
- ②秋学期開講の「財務会計論Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。
- ③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

(2)「金融経済学(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「金融経済学Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。
- ②秋学期開講の「金融経済学Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。
- ③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

(3)「監査論(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「監査論Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。
- ②秋学期開講の「監査論Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。
- ③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

(4)「自然史・地理情報と地域創造」は、2019年度以前入学生カリキュラム「地域ICT戦略論」の読替科目です。

(5)「経営革新論Ⅰ」は、2019年度以前入学生カリキュラム「経営革新論」の読替科目です。

(6)「租税法」は、2020年度・2021年度入学カリキュラム「税務会計Ⅰ」の読替科目です。

〔科目名〕 ACB 演習 [3 rd year]				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目																																									
〔担当者〕 Dr. Benneth Esiana						〔授業の方法〕 演習																																									
〔演習テーマ〕 Working under the theme “Creating a Resilient Society”, you will have the opportunity to learn about “critical thinking” and “bias”. This will allow you to develop your judgement, evaluation, and problem-solving abilities which you will then apply to conduct a research study on your preferred area of interest. You will present and discuss your ideas and those of others, including data acquisition and analysis, all the while, using English language as a medium of communication.																																															
〔演習内容〕 Conducting a research study (process) 1. Writing a research proposal 2. Research methodologies (survey etc.) 3. Data acquisition and analysis 4. Writing and drawing conclusions 5. Oral presentation of research outcomes ▪ Discussions I: on selected topics of interest and current affairs to broaden your horizon, improve knowledge base. ▪ Discussions II: Improve ability to communicate one’s ideas in English language through debates, conversations, and oral presentations.																																															
〔科目の到達目標〕 Students are expected to gain an understand of, and able to satisfactorily undertake the tasks (1 – 5) listed in the preceding section by the end of their study.																																															
<table><tr><td>A</td><td>80点以上</td><td>秀</td><td colspan="5">当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している</td></tr><tr><td>B</td><td>70点以上80点未満</td><td>優</td><td colspan="5">当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している</td></tr><tr><td>C</td><td>60点以上70点未満</td><td>良</td><td colspan="5">当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している</td></tr><tr><td>D</td><td>50点以上60点未満</td><td>可</td><td colspan="5">当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している</td></tr><tr><td>F</td><td>50点未満</td><td>不可</td><td colspan="5">当該科目で定められた到達目標を、達成していない</td></tr></table>								A	80点以上	秀	当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している					B	70点以上80点未満	優	当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している					C	60点以上70点未満	良	当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している					D	50点以上60点未満	可	当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している					F	50点未満	不可	当該科目で定められた到達目標を、達成していない				
A	80点以上	秀	当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している																																												
B	70点以上80点未満	優	当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している																																												
C	60点以上70点未満	良	当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している																																												
D	50点以上60点未満	可	当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している																																												
F	50点未満	不可	当該科目で定められた到達目標を、達成していない																																												
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕																																															
学部				学科																																											
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																																									
	○	○	○																																												
〔前提条件〕 None, although individuals with interests in developing new skills whilst contributing to society are desirable.																																															
〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等) Writing a research proposal Debate and discussion sessions																																															

• Oral presentation	
〔教科書等〕 Materials and handout will be provided to students	
〔実務経歴〕 Not applicable	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時 期	テ ー マ と 内 容
	Please see section 〔演習内容〕 for details

〔科目名〕 ACB 演習				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 江連 敏和 (Toshikazu EZURE)						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 この演習では、青森市・青森県はじめ日本各地の地域社会の文化がどう英語圏の国々で受容されうるか、また我々が外国文化をどう受け入れているのか、主にビジネス面から分析する。具体的には、学修者一人一人が設定したテーマに基づき、関連する資料の収集と自分で作成したデータを分析する。その上で、異文化受容の具体的な要件とは何なのか自分なりの考察を加えていく。							
〔演習内容〕 この演習では、青森市をはじめとした地域社会と日本における英米文化の受容と日本文化の外国における需要を、主にビジネス面から分析することを目的とする。本学の各科目で学んだ内容を土台にし、そこに自分で作成したデータに分析と論考を加えて、最終的に自分なりの結論を導く。一連の研究活動を通じて、グローバル社会における自分の立ち位置の確認を行うと共に、ビジネス面において、地域社会での異文化交流の在り方、一人一人の英語能力と異文化理解の向上が地域社会の発展にどう寄与しうるか考える契機とする。							
〔科目の到達目標〕 具体的な目標として、1) 先行研究の調査、2) データ作成、整理、分析 3) 論の立て方など論理的思考を人との対話を通じて育んでいく。過去には日本の人気マンガ・アニメ、ゲームの海外でのプロモーションや商機の比較、青森市の交通システムと新たな都市計画の発展、自分の家の夕食献立から見える海外からの影響、などを自分自身が考えたテーマとして学生が一年間を通じて論じてくれた。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
〔前提条件〕 普段から英米の文化に関心を持っていること。自分が好きなものについて客観的な見方ができること。 柔軟な思考と粘り強く人の話をよく聞き、説得する誠意を持つ意欲があること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 〔科目の到達目標〕で示した 1), 2), 3) 等の学修・研究活動を通じての成果物および演習授業内での発言や議論における貢献度、毎年度末に開催予定の ACB 演習プレゼンテーションを評価材料として点数化し、合算した総合点について以下の基準で評価を行う。プレゼンテーションの評価は、内容や態度に加え、至らない点も含めて、現在の自分を認め、ありのままに出し切れているかをみる。 A: 80 点以上 B: 70 点以上 80 点未満 C: 60 点以上 70 点未満 D: 50 点以上 60 点未満 F: 50 点未満							
〔教科書等〕 教科書、参考書等は適宜、授業内で指示する。							

〔実務経歴〕	
該当なし。	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時期	テーマと内容
第 1 週 から 第 10 週	(前期)授業内で学生各自が興味を持っていることを他のゼミ生と共有し、それがどのように海外で受け入れられているか、また今後受け入れられる可能性があるか議論する。学生が選択したテーマに基づき、教員が適宜、教科書や参考資料の該当箇所を指示する。
第 11 週 から 第 20 週	(中期)前期での議論や授業内容を元に、参考資料を学生各自が探し出し、それを用いて簡単なプレゼンテーションを行う。他の学生は聴衆となり、そのプレゼンテーションの内容の論理構成に飛躍や矛盾等がないか活発な議論を通して確認し、互いのテーマへの理解を深める。夏季休暇中も自分のテーマに関連するニュースやイベントがあれば積極的に収集や参加を行う。常に自分のテーマに関連する情報を敏感にキャッチする習慣をつける。
第 21 週 から 第 30 週	(後期)教員からの指導、示唆を参考にして、自分自身の資料を準備し、発表主旨を固め、年度末プレゼンテーションの準備を進める。大切なことは、プレゼンテーションの巧拙よりも、テーマに対する熱意や調査を正確に行う意思、学問に対する真摯な態度を常に維持することである。学生も教員も自分が選択したテーマについて、どこまで理解を深め、どこがまだ至らないのかを互いに授業内で確認する。それを踏まえたうえで、プレゼンテーションに臨む。
試験	演習科目のため、定期試験は行わず、演習内での貢献度、進捗レポート、年度末プレゼンテーションの出来などを総合的に点数化し、成績をつける。

〔科目名〕 ACB 演習				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 香取 真理						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 「ことばと文化」について考える。更に総合的な英語運用能力の向上を目指す。							
〔演習内容〕 「ことばと文化」について考える。「ことば」とは何か、「ことば」の発達、進化、変化と「文化」との関わりについて考える。また、文字の歴史・ことばの歴史などについて参考資料を基に考察・ディスカッションを行う。秋学期からは、それぞれがテーマを決めて、調査・分析を行う。2月上旬にはそれまでの各人の研究成果を報告する。報告会では英語でプレゼンテーションを行い、その成果を発表要旨集にまとめる。また本演習では、1年間の演習を通し、既に身に付いている基本的な英文法や構文を効果的に活用し、多様な状況で、コミュニケーションができる英語運営能力を目指す。							
〔科目の到達目標〕 ことばと文化の関係性、関連する歴史等について理解する。多様な状況で話題が特定分野にわたっても、自分なりのコミュニケーションができる英語運営能力を目指す。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○				
〔前提条件〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 演習への積極的参加・研究発表会での発表・発表要旨提出・TOEIC Speaking IP 受験 等から総合判断。							
〔教科書等〕 演習時に示す							
〔実務経歴〕 特になし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4 月～ 9 月	「ことばと文化」について考える。「ことば」とは何か、「ことば」の発達、進化、変化と「文化」との関わりについて考える。また、文字の歴史・ことばの歴史などについて参考資料を基に考察・ディスカッションを行う。 同時に、基本的なビジネス英語のフレーズや表現等を再確認しながら、毎回英語スピーキングの練習を行う。具体的には、多様な状況を設定しての英語での意見交換や模擬会議、模擬会議の司会、質疑応答等の練習を行う。						
10 月～ 1 月	春学期間の演習を基に、自分の調査・研究テーマを決める。担当教員と相談しながら調査・研究を進める。並行して、英語プレゼンテーションの練習を行う。						
2 月	研究発表会で発表する。 発表内容をまとめて製本する。						

〔科目名〕 ACB 演習（情報分野）				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 神山 博						〔授業の方法〕 b	
〔演習テーマ〕 データベースの概念や SQL 言語の習得、データベース設計、利用方法について実践的な演習を行う。							
〔演習内容〕 データベースの概念と ICT 社会での役割、Excel のデータベース機能、本格的なデータベースの設計と SQL を用いたデータベース操作、データベース作品制作。							
〔科目の到達目標〕 データベースの概念と役割を理解する。基礎的な SQL 言語を利用してデータベース処理ができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
〔前提条件〕 情報、とりわけデータベースや数値計算のスキルを身につけて、日常生活やゼミ活動等に活用したいという意欲を持っていること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 毎回の学習内容を課題レポートとして提出。学期末にデータベース作品を制作し期末レポートとして提出。							
〔教科書等〕 配付資料。参考書はゼミの進行に合わせて適宜提示する。							
〔実務経歴〕 該当なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
第 1 回 ～ 第 4 回	データベースの機能、リレーショナルデータベース、ICT 社会での応用。 エクセルのデータベース機能・統計機能、エクセルのデータベース関数						
第 5 回 ～ 第 13 回	テーブルの正規化とリレーションシップ、クエリー、 WHERE 句による抽出条件の指定、様々な抽出条件、 等価ジョイン						
第 14 回 ～ 第 22 回	SQL の集合関数とグループ化、等価ジョイン、計算式の応用、 レコードの追加と削除、新規テーブルの作成と削除、レコードデータの更新、 UNION と副照会、インデックスの作成と削除、テーブル定義の変更						
第 23 回 ～ 第 25 回	イベントプロシージャ、ユーザフォームとコントロール VBA を用いた SQL 操作、VBA アプリの作成、 最終課題としてデータベース設計、作成						

〔科目名〕 ACB 演習				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 丹藤永也						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 第二言語習得理論に基づく英語教育に関する調査研究 TOEIC のスコア 600 点以上の獲得							
〔演習内容〕 本演習では第二言語習得についての基礎的理論を広く学び、興味のある英語教育に関する分野・領域について個人テーマを設けて調査し、その結果を報告書にまとめる。併せて、テキストを使って TOEIC の演習も行い、重要な表現等を確認しながら、リスニング及びリーディング問題に取り組み、スコア 600 点以上を目指す。							
〔科目の到達目標〕 学年末の段階で、自分の設定したテーマのもと調査、分析を行い、その内容を報告書にまとめ、さらに TOEIC600 点相当の英語力を身に付けていることが目標である。 A (80点以上): 到達目標を大変高いレベルで達成している B (70～79点): 到達目標を高いレベルで達成している C (60～69点): 到達目標を十分達成している D (50～59点): 到達目標を最低限のレベルで達成している F (50 点未満): 到達目標を達成していない							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○					
〔前提条件〕 第二言語習得や TOEIC に興味・関心をもち、積極的にゼミに参加することができること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・報告書の提出 ・TOEIC の受験または模擬試験の実施							
〔教科書等〕 授業開始時に指示							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4 月 ～ 7 月	・第二言語習得に関する先行研究の調査 ・TOEIC の演習問題 ・自分の調査研究のテーマの決定						
9 月 ～ 1 月	・自分のテーマについての調査、分析 ・報告書の作成、提出 ・TOEIC の演習問題 ・TOEIC の受験または模擬試験の実施						

〔科目名〕 ACB 演習				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 成田芙美						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 親しみやすい英語教材を使って、イギリスの歴史と文化について学び、グローバルな視点を養う。基礎的な知識を得るところから始め、人間の思考や行動を歴史や文化と結びつけて理解し、考察する力をつける。							
〔演習内容〕 まず、英語を読む力を活かして（そして改善しながら）、イギリスの歴史と文化についての知識を得る。その上で、テーマを絞り、考察を深め、レポートにまとめる。テーマは教員が提示することもあるが、最終的には参加者それぞれが決める。参加者は作業の成果を教員だけでなく、他の参加者にも報告し、助言をもらう。自分の課題だけでなく、他の参加者の課題にも積極的に関わることが求められる。							
〔科目の到達目標〕 ・テーマに必要な資料を探して集める。 ・資料を読み込む。 ・資料を使いながら自分の考えをまとめる。 ・まとめたことをわかりやすく伝え、質問に応じる。 ・フィードバックを受け、再検討し、レポートを完成させる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
〔前提条件〕 ・英文を読むための基本的なスキルを身につけていること。 ・イギリスの歴史や文化に関心があること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 各自が興味のあるトピックについて理解を深める。学んだことをまとめ、レポートを提出する。							
〔教科書等〕 初回に参加者と相談して決める。							
〔実務経歴〕 該当なし。							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
	以下の時期は目安。参加者の意欲に応じて進め方を変えることがある。						
春学期 前半	親しみやすい英語教材を通して、イギリスの歴史と文化についての知識を得る。						

春学期 後半	得た知識に関連する学術書や文学作品を読み、あるいは映像作品を鑑賞し、分析し、レポートにまとめる。
秋学期 前半	春学期に学んだことのなかから、各自が興味のあるトピックを選び、知識を広げる。資料収集の実践とその成果の報告を繰り返しながら、理解を深める。
秋学期 後半	テーマの設定、構成の検討、書き直し等のプロセスを共有しながら、各自がレポートを完成させる。

〔科目名〕 ACB 演習				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 深田 秀実						〔授業の方法〕 講義・演習	
〔演習テーマ〕 本演習では「観光」をテーマとします。前期は、観光の効果、観光情報、観光行動などに関する基礎知識をテキスト輪読形式で学習します。後期は、グループ単位で、青森公立大学の学生などといった若年層への調査を実施し、その調査で得たデータの分析を行うなどして、課題発見とデータ分析に関する能力を高めることを目指します。							
〔演習内容〕 観光 (tourism) に関する諸課題を調査し、課題解決に向けた方策を考える能力を養うことを目的とします。 通年演習のうち、前半では、テキストを用いた輪読形式で、観光の効果と影響、観光と情報、観光行動など、観光に関連する基礎的な内容を学びます。また、観光を多層的な社会現象と捉えて、その社会的な課題を明らかにする手法として、社会調査手法 (量的調査と質的調査) に関する基礎的な知識を学ぶこととします。 後半は、グループワーク形式をとり、青森公立大学の学生などといった若年層を対象として、例えば、観光に関する意識調査などを実施し、そのデータを分析することで、若年層における観光に関する課題を明らかにするようなグループワークを行って、その課題解決に向けた方策を考え、グループワーク単位で発表する演習を実施します (ただし、本演習を履修する人数によっては、一部の演習内容を変更する可能性があります)。							
〔科目の到達目標〕 1. 観光に関する基礎的な知識を理解し、説明できる。 2. 収集した情報を適切に分析し、活用することができる。 3. 他者の考えを理解し、自分の意見を述べることができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○					
〔前提条件〕 観光分野に興味があり、観光分野に関する知識などを学びたいという意欲を持っていること。							
〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等) 以下の項目で評価する。 1. レポート (春学期の最終週に課題を提示予定) 2. グループ毎に行うプレゼンテーションの内容 3. プレゼンテーションに関する討論への参加状況							
〔教科書等〕 ・前田 勇ほか:新現代観光総論 第3版, 学文社 (2019) ・北川由紀彦ほか:社会調査の基礎, 放送大学教育振興会 (2019)							
〔実務経歴〕 なし (ただし、担当教員は社会調査に関する資格 (専門社会調査士) を有している)							

授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時 期	テ ー マ と 内 容
春学期 前半	テーマ：観光に関連する基礎的な知識の習得 内 容：指定の教科書を用いた輪読形式で、観光の効果と影響、観光と情報、観光行動などに関する基礎的な知識を学ぶ。
春学期 後半	テーマ：社会調査手法に関する基礎的な知識の習得 内 容：テキストを用いた輪読形式で、社会調査(量的調査と質的調査)に関する基礎知識を学ぶ。
秋学期 前半	テーマ：観光に関する意識調査などの実施(グループワーク) 内 容：グループワーク形式で、青森公立大学の学生などといった若年層を対象として、例えば、観光に関する意識調査などを実施する。
秋学期 後半	テーマ：観光に関する課題解決に向けた方策の提案(グループワーク) 内 容：秋学期の前半で取得した調査データを分析し、観光に関する課題解決に向けた方策を検討し、グループ単位で発表する。発表内容に関して、全員で討論(意見交換)を行う。

〔科目名〕 仏教の思想				〔単位数〕 4 単位		〔科目区分〕 教養科目	
〔担当者〕 松本知己 Matsumoto Tomomi		〔オフィス・アワー〕 時間:授業の前後など、適切な時間帯に。 場所:教室、廊下、非常勤講師控室など、随所。				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 仏教は、紀元前 5 世紀前後のインドで成立した宗教である。朝鮮半島や中国を経て日本に伝来して以来、社会の要請に伴い変容しつつ独自の発展を遂げ、日本人の精神世界に大きな位置を占めてきた。 本講義では、我々にとって「内なる他者」である仏教の思想史的な理解を目的として、その基本構造と、日本における受容と展開の多様性を学ぶ。 前半は、インド仏教の歴史を概観し、思想的展開を解説する。後半は、仏教文献の漢訳など、中国を中心とする漢字文化圏における受容の特質を確認する。その上で、各時代の仏教者の思想と実践を紹介しながら、日本仏教の形成と展開の過程を明らかにする。随時、政治状況、文化事象との関連や、他思想との交渉にも言及する。全体を通じて、日本人にとって仏教とは何であったか、そして何でありうるか、ということを理解し、現代に生きる私たちと宗教との関係を考察する契機にしたい。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本科目は、信仰を前提とせずに、仏教を一つの思想、あるいは文化現象として捉え、その成立と展開を学ぶ。古来より日本文化に溶け込んでいる仏教への理解を深めることは、まずは自身のアイデンティティを確認することにつながる。 地域振興はもちろんのこと、経済学や経営学を学ぶという点でも、経済的な活動は人の営みに他ならない。したがって、人間という生き物についての理解は必須である。宗教は、人間の世界観や価値観の基盤をなすと共に、その願望や欲望の受け皿にもなってきたのであり、人間存在の合わせ鏡ともいえる文化現象である。信仰の有無に関わりなく、宗教を知ること、それぞれの社会の基層を知ることができるというてよい。私たちは、日本の伝統的な宗教の思想構造を理解し、歴史を知ること、宗教的、思想的背景の異なる人々の思考様式を、より深く理解することができるようになるだろう。							
〔科目の到達目標〕 ・仏教という宗教が有する思想の基本的な構造を理解し、正しい日本語で記述できる。 ・インド・中国・日本における仏教の歴史的な推移を理解し、正しい日本語で記述できる。 ・日本仏教の特質を、現代に生きる自分自身との関連で理解し、正しい日本語で記述できる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 受講者の理解を深めるため、随時学習内容のまとめを行う。							
〔教科書〕 毎回資料を配付する。							
〔指定図書〕 宮元啓一『わかる仏教史』(角川ソフィア文庫、2017) 末本文美士『日本仏教史—思想史としてのアプローチ』(新潮文庫、1996)							

〔参考書〕 平川彰『インド・中国・日本 仏教通史』(新版)(春秋社、2006) 養輪顕量編『事典 日本の仏教』(吉川弘文館、2014)	
〔前提科目〕 なし。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 3 分の 2 以上の出席を前提に、期末のレポート(60%)と、平常点(40%。毎回提出するリアクションペーパーのコメントや、理解度の確認など、授業への参加具合を重視する。)によって、総合的に評価する。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 宗教は人間性を全面的に反映した文化現象だが、その核心には思想がある。その基本構造を理解しないと、なかなか先へ進めない。予習は特に求めないが、簡単でもよいので事後の復習は行うよう、心がけてもらいたい。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか):総説 内 容:講義の目的と概要、学習方法、評価基準等の説明 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):宗教類型論から見た仏教 内 容:仏教及びインドの宗教・思想とセム的一神教の比較 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):インドの宗教・思想① 内 容:インド宗教思想史概観 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):インドの宗教と思想② 内 容:バラモン教、ヒンドゥー教の思想と神々 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):仏教の成立 内 容:釈迦(ゴータマ・シッダールタ)の生涯、仏教の誕生 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅰ章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 初期仏教① 内 容:仏教思想の基本構造(仏教は何をめざすのか) 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅰ章
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):初期仏教② 内 容:実践論(仏教者の修行) 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅱ章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):初期仏教③ 内 容:仏教教団の構成と戒律 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅱ章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):部派仏教の成立 内 容:釈迦死後の教団分裂と諸部派の成立、展開 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅲ章

第 10 回	テーマ(何を学ぶか):部派仏教の教理 内 容:部派の中で最も有力であり、現在も存在する「説一切有部」の思想 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅲ章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):大乘仏教の起源と成立 内 容:思想運動として的大乗仏教、あるいは仏教の大衆化 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 1「初期大乘仏教」
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):大乘仏教經典の世界 内 容:紀元前後からインドで大量に作成された大乘仏教の經典群には何が書かれているのか 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 1「初期大乘仏教」2「中期大乘仏教」
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):空の思想① 内 容:大乘仏教の哲学的な基盤をなす「空」の思想の概要 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 3「大乘仏教の哲学」
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):空の思想② 内 容:『般若心経』を読んでみる 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 3「大乘仏教の哲学」
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):唯識思想① 内 容:「空」の理論化、体系化を目指す唯識派の思想と実践 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 3「大乘仏教の哲学」
第 16 回	テーマ(何を学ぶか):唯識思想② 内 容:唯識思想の人間観 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 3「大乘仏教の哲学」
第 17 回	テーマ(何を学ぶか):浄土教 内 容:阿弥陀仏信仰と浄土教の基本構造 教科書・指定図書
第 18 回	テーマ(何を学ぶか):密教 内 容:密教をどのように理解すべきか。大乘仏教の思想的帰結と呪術の世界 教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章 4「密教と後期大乘仏教」
第 19 回	テーマ(何を学ぶか):中国思想と仏教 内 容:儒教思想を基軸とする中国において、仏教はどのように受容されたのか 教科書・指定図書
第 20 回	テーマ(何を学ぶか):中国仏教の特質 内 容:中国人による仏教の主体的な受容について 教科書・指定図書
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):日本天台の教学—最澄を中心に— 内 容:鎌倉仏教の母胎となった日本天台宗の成立と、その教学 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅱ章「密教と円教」
第 22 回	テーマ(何を学ぶか):日本の密教 内 容:空海の真言密教(東密)と天台密教(台密) 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅱ章「密教と円教」
第 23 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想① 内 容:法然の浄土教思想(専修念仏の衝撃) 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅲ章「末法と浄土」

第 24 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想② 内 容:法然の門流と親鸞(浄土真宗)の思想 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅲ章「末法と浄土」
第 25 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想③ 内 容:日本の浄土教における二つの流れ(観念・観想の念仏と称名念仏) 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅲ章「末法と浄土」
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想④ 内 容:日蓮の法華教学(唱題思想) 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅳ章「鎌倉仏教の諸相」
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想⑤ 内 容:禅とは何か。 教科書・指定図書
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):鎌倉新仏教の思想⑥ 内 容:栄西(臨済宗)と道元(曹洞宗) 教科書・指定図書
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):近代の知識人と仏教 内 容:夏目漱石と仏教。田中智学の日蓮主義と宮沢賢治。 教科書・指定図書
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):全体のまとめ 内 容:講義の総括と補足 教科書・指定図書
試 験	期末レポートの提出。試験は実施しない。

【科目名】 メディアとジャーナリズム				【単位数】 2 単位		【科目区分】 教養科目	
【担当者】 河田 喜照 他		【オフィス・アワー】 時間： 場所：				【授業の方法】 講義	
【科目の概要】 ・この講義では、マスメディアが、その社会的使命である「ジャーナリズム」をどう実現しようとしているかオムニバス方式で解説する。新聞記者経験者や広告・販売の担当者らが登壇、現場の情報を通じてメディアとジャーナリズムに対する理解を深めてもらう。 ・ネット社会における情報伝達手段の変化と問題点について考え、メディアリテラシー育成にこれまで以上のウェートを置く。 ・新聞を読む機会をもうけ、時事問題に触れてもらう。							
【「授業科目群」・他の科目との関連付け】・【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか】 民主主義社会において、正確な情報を市民に伝達する機能は不可欠である。その役割を担うメディアについての理解は主権者として必要な素養である。 一方で、ネット社会の進展により、情報伝達の方法は大きく変化している。ネット空間では玉石混交の情報が飛び交い、フェイクニュースと呼ばれる虚偽情報、またフィルターバブル(自分の興味のある情報ばかりが集まる現象)などが問題になっている。かつてないほどメディアリテラシーの必要性が高まっており、その向上に役立つ機会としたい。							
【科目の到達目標】 中間目標 ・新聞社やテレビ局などのマスメディアが果たしている社会的役割を知る。 ・現場の活動を知ること、マスメディアの機能に対する正確な知識をもってもらう。 ・報道活動が抱える問題点について理解する。 ・ネットメディアの進展とその落とし穴について考えてもらう。 最終目標 ・われわれの社会におけるジャーナリズムの機能と問題点を理解する。 ・メディアリテラシーを高め、健全な市民・社会人としての素養を身につける。							
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関係】							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○					
【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】 ・ 健全な社会を維持する上でジャーナリズムが果たしている役割を理解してもらうことを一番の目標に置いた。 ・ ネット社会に即した情報リテラシーの向上に向け、生成AIによる虚偽情報など新しい事象にも触れていきたい。 ・ 新聞をもとに時事的な内容を扱った点が好評だった。今後も広く時事問題を扱っていきたい。 ・ メディアとジャーナリズムについてもっと深く学びたいとの声があったため、より深みのある内容にしていくよう努める。							
【教科書】 特になし							

〔指定図書〕 特になし	
〔参考書〕 毎回、当日付の新聞を配布する。	
〔前提科目〕 特になし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 中間レポートおよび最終試験を課す。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・新聞社やテレビ局など、いわゆるマスメディアの報道活動は、若い世代に正しく理解されていないところが多分にある。メディアに携わる人たちがどんなことを考え、どんな活動をしているのか理解してもらえよう努力する。時事的な内容も織り交ぜながら現場の声を伝えていくので、メディアとジャーナリズムについて理解を深める機会にしてほしい。 ・複数の講師によるオムニバス形式のため、都合によって講義の順番が前後することがある。あらかじめ了承していただきたい。 細かい知識を覚えることは要求しない。授業のテーマを通じて自分で考える姿勢を大事にしてほしい。	
〔実務経歴〕 新聞記者、広告担当者、NIE(教育と新聞)担当者など	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(はじめに): 内 容: メディアの意味やジャーナリズムの理念について伝え、国内・県内の新聞、テレビ、ラジオ、雑誌を紹介。動画を使いニュースができるまでの基本的な流れをつかんでもらう。またネットメディアによるニュースの現状と進展の状況にも触れる。 教科書・指定図書 なし
第 2 回	テーマ(NIB 実践1 よく分かる新聞の読み方): 内 容: NIB(ニューズペーパー・イン・ビジネス)は、仕事で役立つ新聞の活用法を紹介する取り組み。初回のテーマは新聞の読み方。新聞の見出しや紙面レイアウトにも意味、役割がある。紙面づくりのルールが分かれば、より面白く新聞を読むことができる。
第 3 回	テーマ(NIB 実践2 記事から学ぶ文章術): 内 容: 新聞記者はどんなことを考えながら記事を書いているのか。取材をする上で注意していることは何か。読まれる記事とはどんな記事か。紙面に掲載された記事を使って考え、簡潔な文章を書くコツを紹介する。 教科書・指定図書 なし
第 4 回	テーマ(ジャーナリズムの歴史): 内 容: 近代ジャーナリズムの成立について。17 世紀のイギリスにおける市民社会の成立と新聞ジャーナリズム。日本における江戸時代の落首や瓦版の考察。明治政府の牧民思想に対する自由民権運動と新聞のかかわり、戦時中の検閲と一県一紙令、戦後のあゆみなど。 教科書・指定図書 なし

第 5 回	テーマ(紙とデジタル～ネット報道の現場から): 内 容: 新聞社におけるデジタル展開の歩み。Web東奥から東奥日報アプリまで。デジタル報道の現況。自社サイト、ヤフー、LINE など外部配信、SNSなど。生成 AI とメディア。フェークを見抜くには。「偏りのない情報摂取」のために ほか。 教科書・指定図書 なし
第 6 回	テーマ(ネット情報とメディアリテラシー): 内 容: フェイクニュース、デイスインフォメーションの考察。アメリカの米連邦議会乱入事件など具体的な例をもとに、ネット情報の危うい面を認識する。また SNS の使い方とフィルターバブル、エコーチェンバーなどデジタルメディアを利用する際のワナについても考える。 教科書・指定図書 なし
第 7 回	テーマ(住民に寄り添う地方紙の役割) 内 容: 地方紙は、地域との距離が近いからこそ地域の課題や良さをきめ細かく報道することができる。医療福祉分野で主に取材してきた記者の経験を踏まえ、住民と同じ目線で報道する地方紙の役割の大切さを考える。コロナ報道についても触れる。 教科書・指定図書 なし
第 8 回	テーマ (広告の役割と機能～事例紹介と営業について～) 内容: 「もし、広告がなかったら?」「広告もニュースである」など、新聞やテレビの広告の分類、役割と機能を考える。事例を紹介しつつ、対象や背景、目的なども伝え、広告をより身近なものとしてとらえてもらう。新聞社における広告担当部門の組織、営業についても触れ、職業としての業務も理解してもらう。 教科書・指定図書 なし
第 9 回	テーマ(事件・事故と司法手続き): 内 容: 日々報道される事件や事故。報道における大きな分野だが、その取材体制はどうなっているのか舞台裏を紹介する。また逮捕や送検、起訴、裁判など司法手続きを理解することで事件・事故のニュースに対する理解を深めてもらう。 教科書・指定図書 なし
第 10 回	テーマ(テレビ、ラジオの報道): 内 容: 日本の放送メディアについて紹介する。放送法第 4 条の存在による新聞や雑誌、ネットメディアとの違いを知ってもらう。またニュース報道とワイドショー(ニュースを使った娯楽色の強いテレビ番組)の違い、広告で成り立つ民放の構造などについて説明し、放送メディアについてのリテラシーを高めてもらう。 教科書・指定図書 なし
第 11 回	テーマ(ネットの進展がもたらす変化): 内 容: ネット配信の普及によってメディアの地殻変動が起きている。テレビ番組のネット同時配信に加え、TVer や NHK+ など再配信も当たり前になった。Netflix などオンデマンド配信の進展、存在感を増す Youtube などを取り上げながら激変するメディア環境について考える。 教科書・指定図書 なし
第 12 回	テーマ(地域ジャーナリズムの役割): 内 容: 地域ジャーナリズムについて考える。ローカル記事や番組の需要と「劇場効果」による共感性。スクープの種類、行政に対するチェック機能を知る。また地元紙が消えたアメリカの地方都市で起きた「ニュース砂漠」と呼ばれる現象などを例に地域ジャーナリズムの役割を考える。 教科書・指定図書 なし

第 13 回	テーマ(青森県と基地): 沖縄に次いで「第2の基地県」と呼ばれる青森県。米軍・自衛隊の基地と関連施設は多数に上り、機能は複雑多岐にわたる。ロシアによるウクライナ侵略や台湾問題など「新冷戦時代」の到来が叫ばれる中、その実態を説明し、マスメディアがどのように報じてきたのかについて紹介する。 内 容: 教科書・指定図書 なし
第 14 回	テーマ(ジャーナリズムの問題点とジレンマ): 内 容: 近年、報道に対する市民の目線が厳しくなっている。「ハゲワシと少女」の写真をめぐる議論などを例にジャーナリズムが抱えるジレンマについて学ぶ。また政治的スタンスの違いと報道、集中報道への批判、実名報道と匿名報道、記者クラブの役割など、報道が抱えるジレンマ、問題点について考える。 教科書・指定図書 なし
第 15 回	テーマ(ジャーナリズムが守るもの) 内 容: デジタルプラットフォームや SNS がニュース媒体として台頭し玉石混交の情報があふれる中、「正しく正確な情報」「社会に資する建設的な情報」を選別して提供する必要性がますます増大している。社会の公共資本としてのメディアとジャーナリズムをどう守り、新しい時代に向けて再構築をしていくべきかを考える。 教科書・指定図書 なし
試 験	中間レポートおよび期末試験を課す

[科目名] 生命の科学				[単位数] 2 単位		[科目区分] 教養科目	
[担当者] 永長 一茂			[オフィス・アワー] 時間: 授業終了後、必要に応じて 場所: 講義室			[授業の方法] 講義	
[科目の概要] 食事、医療、環境、エネルギー。私たちの日常は生命に溢れている。「生命の科学」では、生活に深くかわる生命を題材に、生化学、微生物学、遺伝学、医薬学など幅広い分野に触れつつ、生物や生命科学への理解を深めることを目標とした授業を行う。まずは生物・生命科学を好きになってもらいたい。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] たとえばあなたがレストランをはじめ、目玉商品として、どのお店でも扱っていない「レアハンバーグ」を開発したとしよう。残念ながら、よほど特別な処理をしない限り「レアハンバーグ」を売ることはできない。専門知識を持たなくとも、教養レベルの生命科学の知識があれば、レアステーキ OK でレアハンバーグがダメ理由はすぐにわかる。これが本項目の問いへの答えである。 教養科目は、専門科目で学んだ知識やスキルを活用する際に役に立つ。そして、社会人になり年齢を重ねるにつれその重要さに気付くことになる。正しい手の洗い方の根拠は？ 少子高齢化問題の解決法は？ 命って何？ といった日常の問題から社会問題、哲学的な問題まで、生命にまつわる疑問は尽きない。それに応える「生命の科学」での学びは、間違いなく人生を豊かにし、他のすべての科目での学びと有機的に結びつき、相乗効果を発揮するであろう。							
[科目の到達目標] 社会生活を営む上で必要な、生物に関する基本的な知識を身に付け、それらを応用できるようになること							
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 該当せず							
[教科書] なし							
[指定図書] 必要に応じて授業で紹介する							
[参考書] 必要に応じて授業で紹介する							
[前提科目] なし							
[学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等) 小レポート: 70% (毎授業出す課題を、Google Classroom で提出) 授業参加: 30% (授業中に手を挙げてもらう等の「リアクション」の有無で評価)							

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 日常生活に役立つ「生きた知識」を得てもらう事を目指した授業をする。学生の興味や理解度の把握のために、授業中に手を挙げてもらうなどのアクションを求めることになるが、学生にはリラックスし積極的に授業に参加してほしい。	
〔実務経歴〕 なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか)： ガイダンス 内 容： 教養科目「生命の科学」で学べる事、授業で求める事、評価基準等を解説する。レアハンバーグを提供してはいけない理由も解説する。 教科書・指定図書： なし
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)： 日常生活に溢れる生命 1 内 容： 食事、健康、病気、微生物等、私たちの生活に深くかかわる生き物を題材に、生化学、微生物学、遺伝学、医薬学など幅広い分野とのつながりを解説する。 教科書・指定図書： 必要に応じて授業で紹介
第 3 回	テーマ(何を学ぶか)： 日常生活に溢れる生命 2 内 容： 食事、健康、病気、微生物等、私たちの生活に深くかかわる生き物を題材に、生化学、微生物学、遺伝学、医薬学など幅広い分野とのつながりを解説する。 教科書・指定図書： 必要に応じて授業で紹介
第 4 回	テーマ(何を学ぶか)： 日常生活に溢れる生命 3 内 容： 食事、健康、病気、微生物等、私たちの生活に深くかかわる生き物を題材に、生化学、微生物学、遺伝学、医薬学など幅広い分野とのつながりを解説する。 教科書・指定図書： 必要に応じて授業で紹介
第 5 回	テーマ(何を学ぶか)： 日常生活に溢れる生命 4 内 容： 食事、健康、病気、微生物等、私たちの生活に深くかかわる生き物を題材に、生化学、微生物学、遺伝学、医薬学など幅広い分野とのつながりを解説する。 教科書・指定図書： 必要に応じて授業で紹介
第 6 回	テーマ(何を学ぶか)： 生命の始まりと進化 1 内 容： 生物を構成する四大成分(タンパク質、核酸、脂質、糖)、生命の構造を紹介しつつ、生命の誕生から現代に至るまでの進化や多様性の流れを解説する。 教科書・指定図書： 必要に応じて授業で紹介
第 7 回	テーマ(何を学ぶか)： 生命の始まりと進化 2 内 容： 生物を構成する四大成分(タンパク質、核酸、脂質、糖)、生命の構造を紹介しつつ、生命の誕生から現代に至るまでの進化や多様性の流れを解説する。 教科書・指定図書： 必要に応じて授業で紹介
第 8 回	テーマ(何を学ぶか)： 生命の始まりと進化 3 内 容： 生物を構成する四大成分(タンパク質、核酸、脂質、糖)、生命の構造を紹介しつつ、生命の誕生から現代に至るまでの進化や多様性の流れを解説する。 教科書・指定図書： 必要に応じて授業で紹介

第9回	テーマ(何を学ぶか): 生命の始まりと進化 4 内 容: 生物を構成する四大成分(タンパク質、核酸、脂質、糖)、生命の構造を紹介しつつ、生命の誕生から現代に至るまでの進化や多様性の流れを解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第10回	テーマ(何を学ぶか): 現代社会における生命科学の重要性 1 内 容: バイオテクノロジー、ノーベル賞受賞対象研究、環境問題等に触れつつ、現代社会における生命科学の重要性を解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第11回	テーマ(何を学ぶか): 現代社会における生命科学の重要性 2 内 容: バイオテクノロジー、ノーベル賞受賞対象研究、環境問題等に触れつつ、現代社会における生命科学の重要性を解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第12回	テーマ(何を学ぶか): 現代社会における生命科学の重要性 3 内 容: バイオテクノロジー、ノーベル賞受賞対象研究、環境問題等に触れつつ、現代社会における生命科学の重要性を解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第13回	テーマ(何を学ぶか): 現代社会における生命科学の重要性 4 内 容: バイオテクノロジー、ノーベル賞受賞対象研究、環境問題等に触れつつ、現代社会における生命科学の重要性を解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第14回	テーマ(何を学ぶか): 現代社会における生命科学の重要性 5 内 容: バイオテクノロジー、ノーベル賞受賞対象研究、環境問題等に触れつつ、現代社会における生命科学の重要性を解説する。 教科書・指定図書: 必要に応じて授業で紹介
第15回	テーマ(何を学ぶか): まとめと振り返り 内 容: 第2回から第14回の内容を振り返り、教養としての「生命の科学」の必要性を解説する 教科書・指定図書 必要に応じて授業で紹介
試 験	期末試験は行わない。

〔科目名〕 民法			〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教養科目	
〔担当者〕 小 林 直 樹		〔オフィス・アワー〕 時間： 適宜（※要事前連絡） 場所： 612 研究室			〔授業の方法〕 講 義	
〔科目の概要〕 私たちは、法と無関係に生活することはできません。つまり、日常生活のあらゆる場面が法と結びついているということです。そのため、法に則って行動することでトラブルを回避し、安心して生活をおくることができます。しかし、法から逸脱するならば、私たちは何かしらのトラブルに巻き込まれ、人の権利を侵害する加害者となり、反対に、権利を侵害される被害者になることがあります。そのため、社会経験の浅い若い人ほど、法を学ぶ意義は大いにあります。なかでも、私たちの生活に関する法が民法ですが、その知識を身につけることは日常生活で大いに役立ちます。教養としての民法の知識を身につけ、「考え方」を修得することが、安心や安全な生活につながるといえます。 本講義では、教養としての民法の知識を修得し、その「考え方」を修得することを目的とします。その際、報道番組や新聞記事等の具体的事例を通じて理解を深め、実生活で教養としての民法の知識や「考え方」を実践できるようになることを目的とします。 なお、進捗状況によっては、授業スケジュールおよびその内容について若干の変更もあります。						
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本講義の目標は、まずもって教養としての法または民法の「考え方」を修得することです。ただ、法というものは、時代や国・地域によって変化します。具体的には、日々の社会現象（動物の福祉の問題、人の生命や人生設計等のライフスタイルのあり方をめぐる問題、情報化社会における個人情報保護の問題、AI の進化、企業と人権問題等）に影響を受けてダイナミックに変化します。そのため、法のバックグラウンドとなる、自然科学、人文科学を学ぶことも必要となります。とりわけ、多様化する社会においては、興味関心のある分野を学びつつ、併せて法または民法の「考え方」のバリエーションを増やしてほしいと思います。それにより、バランスを欠いた単眼的見方ではなく、バランスのとれた複眼的見方を得ることができると考えています。						
〔科目の到達目標〕 4 点（①“法や民法の基本的な用語等を理解し、説明できるようになる”、②“法や民法の「考え方」を理解する”、③“法や民法の「考え方」を理解したうえで、それを説明できるようになる”、④“①～③をもとに、社会における法的な問題について、自分の考えを自分の言葉で説明できるようになる”）を重視し、評価をします。 A 80 点以上 秀 当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している B 70 点以上 80 点未満 優 当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している C 60 点以上 70 点未満 良 当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している D 50 点以上 60 点未満 可 当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している F 50 点未満 不可 当該科目で定められた到達目標を、達成していない						
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2 ○	DP3
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 視聴覚教材を用いて講義内容の理解促進に努め、特に、学ぶ内容が社会と密接に結びつき、自分自身の問題であることを理解できるよう講義を組み立ててきました。授業評価は、その点について肯定的評価であったと理解しています。 授業評価では、毎回配布するレジュメの記入枠について小さいとの意見がありましたが、レジュメのサイズと用紙の配布を考慮してやや小さめに作成しています。紙資源を考慮すると基本的には枠のサイズの変更は最小限にとどめたいと考えていますが、可能な限りレジュメの枚数を増やすなり改善が可能かと思います。						

そのほか、誤字等の記載ミスの多さの指摘も受けており、可能な限り丁寧な見直しと訂正のアナウンスに努めようと思います。	
〔教科書〕 必要に応じて、参考となる書籍を紹介します。	
〔指定図書〕 渡邊力ほか『民法入門ノート〔第2版〕』（法律文化社、2024）	
〔参考書〕 道垣内弘人『リーガルベシス民法入門〔第5版〕』（日本経済新聞出版、2024）、潮見佳男ほか『18歳からはじめる民法〔第5版〕』（法律文化社、2023）、潮見佳男『民法(全)〔第3版〕』（有斐閣、2022）、池田真朗ほか『民法 Visual Materials〔第3版〕』（有斐閣、2021）、吉田利宏『元法制局キャリアが教える 民法を読む技術・学ぶ技術』（ダイヤモンド社、2021）、弥永真生『法律学習マニュアル〔第4版〕』（有斐閣、2016）。	
〔前提科目〕 「法律と人間」を既に履修していることが望ましい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 前記「科目の到達目標」で記したとおり、用語の理解にとどまらず、多様な「考え方」を理解し、自分の言葉で説明することが本講義の目指すところです。なお、講義に出席しただけでは、学んだことが知識として定着することは困難と考えます。1回の講義につき予習・復習を行い、全30回の講義で十分に予習・復習が実行されていることも評価していきたいと考えます。すなわち、講義中に、前回学んだ内容についての確認の質問や、予習が実行されているか確認の質問を行い、受け身の受講ではなく、投げかけられた質問に対する応答、積極的な受講姿勢についても評価したいと考えます。なお、原則、定期試験100%により評価を行います、欠席が3分の1を超えたとき受験を認めません。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 本講義で学ぶ内容は、社会の出来事と無関係ではない法に関する事柄です。日頃から、報道番組や新聞記事に目を通し、私たちを取り巻く社会で何が起きて何が問題となっているのか、ということに関心を持ってほしいと思います。社会を知る、関心を持つことが、法または民法を学ぶことにつながるからです。 また、前記のとおり、講義中、受講生に質問することが少なくありません（解答の正解・不正解は不問）。自分の考え方を正確に伝えるという意識をもって発言や応答を試みてほしいと思います。さらには、本講義を卒業後に求められるコミュニケーション能力の涵養の場として活用してほしいとも思います。コミュニケーション能力の重要な一つの点は、自分の言葉で自分の考えを正確に発することです。受講に際して受け身になるのではなく、教員とのコミュニケーションや他の受講生とのコミュニケーションを積極的におこない、講義が自己の成長発達となることを意識して受講してほしいと考えます。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション——社会における法・法律の役割—— 内 容:民法が私たちの生活とどのようにかわるのかについて、物語を素材にして理解します。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第2回	テーマ(何を学ぶか):民法とは何か① 内 容:民法について、その役割と目的について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第3回	テーマ(何を学ぶか):民法とは何か② 内 容:民法の歴史や解釈などについて学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。

第4回	テーマ(何を学ぶか):総則① 内 容:権利を有するのは何か。「権利能力」や「物」などについて学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第5回	テーマ(何を学ぶか):総則② 内 容:「信義則」や「権利の濫用」などについて学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第6回	テーマ(何を学ぶか):総則③ 内 容:団体も「人」として扱われるのか、について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第7回	テーマ(何を学ぶか):総則④ 内 容:「時効」について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第8回	テーマ(何を学ぶか):総則⑤ 内 容:「法律行為」や「代理制度」などについて学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第9回	テーマ(何を学ぶか):物権法① 内 容:物に対する権利の性質や種類について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第10回	テーマ(何を学ぶか):物権法② 内 容:他人の物が邪魔で自分の物を使えない時どのような主張ができるのか、について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第11回	テーマ(何を学ぶか):物権法③ 内 容:物を買ったらいつから自分の物になったといえるのかという「物権変動」を学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第12回	テーマ(何を学ぶか):物権法④ 内 容:土地を買ったことを登記で公示しないとどうなるのかといった、「公示の原則」などについて学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第13回	テーマ(何を学ぶか):担保物権法① 内 容:貸したお金を確実に返してもらうにはどうすればよいのか、について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第14回	テーマ(何を学ぶか):担保物権法② 内 容:民法の規定にある「担保物権」について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第15回	テーマ(何を学ぶか):債権総論① 内 容:買った物が受け取る前に壊れていたなど、「契約の双務性」について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第16回	テーマ(何を学ぶか):債権総論② 内 容:商品を買った相手が代金を払わないなど、「契約の不履行」の対処について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第17回	テーマ(何を学ぶか):債権総論③ 内 容:「責任財産の保全」について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。

第 18 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論① 内 容:「契約」について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第 19 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論② 内 容:契約を結ぶと絶対に守らなければならないかなど、「契約の有効性」について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第 20 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論③ 内 容:うその契約への対処、間違えたり騙されたりした契約への対処について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論④ 内 容:物を売ったり買ったりすることとはどういうことかなど、「売買契約」について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第 22 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論⑤ 内 容:貸したお金が返ってこなかったらどうするのかなど、「消費貸借契約」について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第 23 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論⑥ 内 容:家を借りるなど「賃貸借契約」について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第 24 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論⑦ 内 容:「不法行為」および損害賠償を請求できる場合について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第 25 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論⑧ 内 容:損害賠償を請求された被告がどのような反論をするのか、について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):債権各論⑨ 内 容:自分が加害者でなくても責任を負うことはあるのかなどを学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):親族① 内 容:結婚・離婚は自由にできるのか、について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):親族② 内 容:親子関係はどのように決まるのか、について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):相続① 内 容:家族が亡くなったとき、その遺産はどうなるのか、について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):相続② 内 容:遺言で自由に何でも決めることはできるのか、について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
試 験	筆記試験を実施します。講義中に扱った範囲から出題します。

〔科目名〕 教養演習				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 大森 史博						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 哲学の古典的名著の読解、哲学の諸問題の考察、哲学対話の試み							
〔演習内容〕 世界を見ることを捉えなおすこと。世界を生きることを捉えなおすこと。こうした思考をモチーフとして、関連する哲学の問題群、諸概念をめぐって考察し、探究的な対話をおこなう。手がかりとなる文献を丹念に読み解き、ともに対話をかさね、解釈し、考察を深めてゆくことが基本である。現代思想の大きなトピック、生の哲学、現象学、精神分析、実存主義、構造主義、等に関する論考のなかからテキストを選定し、精読する。参加者は、各々の経験を背景に、事象に対する自身の気づきや問いを捉えなおし、表現にもたらすことを試みて欲しい。 哲学がおこなう表現は、同じひとつの世界に内属しつつ、その世界の見方を更新するための企てである。それゆえ、抽象的にみえる概念も、しかし同時に具体的な事象に根ざしている。この演習では、参加者との対話をとおして、そうした一つひとつの概念や言葉や表現に目を向け、われわれが生きる世界の具体的な経験のなかで捉えなおしていく。感覚を研ぎ澄ませて繊細なニュアンスに分け入ることに努めたい。							
〔科目の到達目標〕 とりあげる哲学者の思想、主要な概念、核心にある問いを知る。その問いかけ、思想や概念をふまえ、自らが考えるべき問いを吟味し、仕上げ、提起することができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
			○				
〔前提条件〕 経験の事象に立ち戻り、探求的に思考し、他者に問いかけ、表現する努力をつづけること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) テキスト読解の事前準備、授業における質疑応答、レポート課題。評価の方法に関しては、とりあげる思想や概念および問題設定の精確な理解、考察の掘り下げ、言語的表現という三つの観点を基本として測る。							
〔教科書等〕 『哲学 原典資料集』山本巍ほか、東京大学出版会、1993 年 テキストは参加者と協議して選定する。入手困難な資料はプリントを配布する。							
〔実務経歴〕 該当なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
春学期 前半	ライプニッツの形而上学に関する文献のなかからテキストを選定し、精読する。その読解をふまえて質疑応答をおこない、参加者の各々が自分の問いを焦点化していく手がかりを求める。						
春学期 後半	実存主義の哲学者ジャン＝ポール・サルトルの論考のなかからテキストを選定し、精読する。その読解をふまえて質疑応答をおこない、参加者の各々が自分の問いを焦点化していく手がかりを求める。						

9月 から 10月	他の哲学系演習科目の履修者とともに合同の研究会をおこなう。参加者の各々は自分の問いを示して吟味し、相互に探求的な哲学対話を試みる。
秋学期 前半	ひきつづき、ジャン＝ポール・サルトルの論考をテキストとして、精読する。その読解をふまえて質疑応答をおこない、参加者の各々が自分の問いを焦点化していく手がかりを求める。
秋学期 後半	形而上学と実存主義に関する本邦の文献資料を参照し、考察を深める。一年間の講読をとおして焦点化してきた問いをめぐり、参加者の各々はレポート作成の準備をする。

〔科目名〕 教 養 演 習				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 小 林 直 樹						〔授業の方法〕 演 習	
〔演習テーマ〕 「 事 例 で 憲 法 を 学 ぶ 」							
〔演習内容〕 ●演習の目的 憲法が私たちの生活とどのように関係し、憲法に照らして何が問題になっているかを調査し、考え、意見を述べられるようになることを演習の目的としますが、最も重要なのは、身の回りの出来事・社会に関心を持つことです。また、演習における経験を公務員試験や就職活動で活かせるようになることも目的とします。 ●演習の内容と進め方 指定するテキストをもとに、憲法の事例問題に取り組みつつ、テレビや新聞等の身近なニュースを素材として、受講生がレポート等を作成し、それをもとに報告・発表し、議論をします。必要に応じて憲法（または行政法）の基本書を精読し、あるいは判例集(判例時報や判例タイムズほか、憲法判例百選など)を読み、憲法のへの知見をさらに深めます。また、各回のテーマによっては、映画やドラマ、ドキュメンタリー番組を視聴し、意見交換をおこないます。 ※演習と関連して、学外における見学・研修を検討しています。							
〔科目の到達目標〕 ①調査（新聞記事ほか、学説や判例の調査・検索）のスキル、②調査結果報告(レジュメ等作成)のスキル、③対話(コミュニケーション)スキルを習得することのみならず、一連の作業を通じて④憲法(行政法)学説や判例の知見を深め、憲法を体系的に理解し、自分の考えを適切に説明できるようになることです。 以上4点の到達度について、下記の評価基準で判断をします。 A 80 点以上 秀 当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している B 70 点以上 80 点未満 優 当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している C 60 点以上 70 点未満 良 当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している D 50 点以上 60 点未満 可 当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している F 50 点未満 不可 当該科目で定められた到達目標を、達成していない							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○		○		
〔前提条件〕 演習では、憲法に関連する事例(最高裁判例・下級審裁判例など)を考察するため、法学・憲法の知識が必要になります。そのため、秋学期の「法律と人間」または春学期の「憲法概論」、「民法」のいずれか1つ以上を履修済み／履修中の人を優先します。 演習において触れる学説・判例の難解な部分は、担当教員が解説をするものの、それは限定的で教員の一方的な話は可能な限り控えます。そのため、受講生が主体となって積極的に調査、報告・発表、発言をし、対話を通じた双方向の演習を実施します。人前での発言や発表が苦手な寡黙になりがちでもかまいません。 まずは、能動的かつ積極的に学ぶ意欲のある人を求めます。							

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 演習における「調査、報告・発表、発言」という、課題への取り組み姿勢（レジユメの作成やプレゼンテーション、コミュニケーション）を評価します。	
〔教科書等〕 教科書は指定しませんが、必要に応じて、参考図書を紹介します。例として、説明会においてとあげた以下の参考図書を図書館で借りる等してください。 ・ 加藤一彦・阪口正二郎・只野雅人編著『フォーカス憲法 事例から学ぶ憲法基盤』（北樹出版、2020） ・ 小林直三ほか『判例で学ぶ憲法』（法律文化社、2022） ・ 芦部信喜・高橋和之補訂『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023） ・ 長谷部恭男ほか『憲法判例百選Ⅰ〔第7版〕』（有斐閣、2019） ・ 長谷部恭男ほか『憲法判例百選Ⅱ〔第7版〕』（有斐閣、2019） ・ 弥永真生『法律学習マニュアル〔第4版〕 -- How to study the Law』（有斐閣、2016）	
〔実務経歴〕 特になし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時期	テーマと内容
第1回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション 内 容:本演習の目的や趣旨について説明したうえで、法の学び方や憲法の学び方について説明をします。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第2回	テーマ(何を学ぶか):春学期の進め方 内 容:春学期の演習の進め方を説明したのち、基本的人権の原理について説明をします。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第3回 から 第13回	テーマ(何を学ぶか):基本的人権について学ぶ 内 容:映画やドラマ、ドキュメンタリー番組を視聴し、あるいは現実の憲法問題や裁判例(最高裁判例や下級審裁判例)を通じて、憲法で保障される基本的人権について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第14回 ・ 第15回	テーマ(何を学ぶか):人権編のまとめ 内 容:春学期に学んだ内容について議論し、関心のあるテーマをさらに掘り下げて、発展的に研究をします(判例や学説の検討) 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第16回	テーマ(何を学ぶか):秋学期の進め方 内 容:秋学期の演習の進め方を説明したのち、統治機構の基本原則について説明をします。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第17回 から 第28回	テーマ(何を学ぶか):統治機構について学ぶ 内 容:映画やドラマ、ドキュメンタリー番組を視聴し、あるいは現実の憲法問題や裁判例(最高裁判例や下級審裁判例)を通じて、統治機構について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第29回 ・ 第30回	テーマ(何を学ぶか):統治機構のまとめ 内 容:秋学期に学んだ内容について議論し、関心のあるテーマをさらに掘り下げて、発展的に研究をします(判例や学説の検討) 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。

〔科目名〕 教養演習				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 下村 育世						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 近代とはいかなる時代か ——明治以降に変化したモノ・コトを宗教史に着目しながら考える （2）生活編							
〔演習内容〕 2024 年の大河ドラマ「光る君へ」では安倍晴明が登場し、貴族たちの求めに応じて占いや呪術を行っていた。今では陰陽師といえば物語のなかでのみ登場する架空の存在のように思われるかもしれないが、彼らは明治初期まで公家社会だけでなく生活世界にも実在した。しかし政府は明治初期に陰陽師の身分をはく奪、彼らは日本社会から公的に姿を消した。また仏教の僧侶が結婚し肉を食べる風景は日本では当たり前かもしれないが、これも明治初期の法令に基づいて宗派を問わず自由に行われるようになったものである。生活に息づいていた祭にも変化があった。例えば江戸三大祭の山王祭は、江戸時代まで太陽暦でいうと 5 月の初夏の時期に行われていたが、明治改暦により 6 月中旬の梅雨の時期へと変更を余儀なくされる。氏子たちは連日の雨天による祭典執行の困難さを訴え日取りの変更を願い出るものの、政府は拒絶。同祭は現在も同じ時期に開催されている。何故神社固有の祭の日取りにまで政府は口を挟むのか？これらの動きは、現在の政教分離の原則からは理解しがたいだろう。さらにこれらの事例からは、昔からの慣習のように見えるものも、実は比較的短い歴史しかないものもあるということが窺えよう。失われたものも多い。 歴史の教科書では、それぞれの出来事について評価が定まったような書き方がなされている。しかしその評価は変化する。それは新資料の発見による場合もちろんあるが、同じ資料を見ても解釈の仕方によって変わるからでもある。本演習では、テキストを用いながら、まずは歴史学の営みについて確認していく(成田龍一『近現代日本史と歴史学——書き替えられてきた過去』中央公論新社、2012 年などを候補とする)。次にテキストを輪読しながら、明治以降の人々の生活や思想の変化を考えていきたい。							
〔科目の到達目標〕 ・文章を正確に読み、それを要約できる。 ・読書レジュメを作成できる。 ・他者の意見を理解した上で、自分の意見を述べることができる。 ・批判的に読むということについて理解する。 ・図書館やデータベースを利用し、信頼に足る情報検索の方法を理解し、実践できる。 ・参考文献表を作ることができる。 ・研究をするにあたっての一連の手続きを理解する。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
〔前提条件〕 担当教員は今年度から本演習を担当するため、今年度はどなたでも受け入れます。 歴史や宗教に関心があることが望ましい。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) テストやレポート等は課しません。演習に毎回出席すること、必要に応じて読書レジュメなどを作成し発表することが必須です。議論においては積極的な発言を期待します。							

〔教科書等〕 テキストは、履修学生と協議の上選定します。各自入手してください。	
〔実務経歴〕 特になし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時 期	テ ー マ と 内 容
春学期	テキストの輪読(テキストをじっくり読む経験を積む) & 秋学期の準備(教員の収集した史資料コレクションから各自好きな史資料を選定)
夏休み	秋学期の準備(先行研究調査)
秋学期	研究に必要な手続きを経験する & テキストの輪読 教員のコレクションから、各自好きな史資料を選び、それについての先行研究調査をし(一部の必読論文などを皆で輪読)、演習内で発表した上で、その史資料についての正確な説明文を各自作成することを考えている。それらの成果を、「展示」のようなものを企画し発表したい(と構想している。ハリパネを切るなど肉体労働も予定)。これらの作業を通じて、研究に必要な手続きを理解してもらおう。

〔科目名〕 教養演習				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 鈴木郁生						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 認知心理学、特に記憶に注目して、「こころ」の不思議な現象について考える。							
〔演習内容〕 あなたは自分の「こころ」の働きを理解していますか？ 自分のことのはずですが、「こころ」を知ることは結構難しいものです。そして、この「こころ」の不思議さを解き明かそうとするのが、本演習で学ぶ認知心理学です。この演習では認知心理学の中でも、特に記憶に注目して、「こころ」の不思議な現象について考えていきます。最近の心理学は、デジャヴ、のどまで出かかっているのに思い出せない、頭の中で音楽が勝手に流れる、授業などの途中で他のことに気がそれる、など、一昔前なら研究できなかった現象を取り扱えるようになりました。演習での活動を通して、こうした新しい不思議現象についてしっかり学んでみたいと思います。 本演習の特徴は、文献読解に限らず、「こころ」の不思議を実際に体験することです。そのために、心理学的な実験や実習を実施します。やはり、実際に体験すると理解度が違いますし、新たな気づきが生まれることもあります。演習を通して「こころ」という自分の中のフィールドをしっかり探究してもらいたいと思います。							
〔科目の到達目標〕 認知心理学の考え方、そして心を測定し分析することへの理解を深める。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
〔前提条件〕 特にありません。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業への参加状況、参加態度、および各テーマにおける課題を総合的に評価します。 各課題において、実験結果に至る道筋については十分な理解を求めますが、そこからの考察は自由です。							
〔教科書等〕 教科書は使用しません。参考書は随時紹介します。							
〔実務経歴〕 該当しません。							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
春学期 ～ 秋学期	各テーマに関する参考文献を読み、またそれに関連する実験を実施します。そして得られたデータを分析する手法を学びます。実験の結果を踏まえてディスカッションを行います。その結果は A4 一枚程度にまとめます。この流れを一つのテーマごとに行い、認知心理学に対する理解を深めてもらいます。 予定しているテーマ ・さまざまな研究手法 ・ワーキングメモリ ・音楽の無意図的想起とマインドワンダリング						

	・デジャヴ ・フォールスメモリ ・忘却の特性 他
--	--

[科目名] 教養演習	[単位数] 4単位	[科目区分] 演習科目
[担当者] 西村 吉弘		[授業の方法] 演習
[演習テーマ] 公共政策		
[演習内容] 政策に関する研究について、理論と実証性に対する理解を深めることを目的とする。学習における動的過程を経て、第 1 に文献レビュー等の基礎的なスキルを身に付け、学問上必要とされる問いを見出せるようにする。第 2 に、各自が学問を追究する際、「何を追究するのか」、「新たな知見は何か」といった部分にアプローチできることを目標とする。 また、方法論の選定（フィールドワークによる質的研究なのか、理論研究なのか等）、フィールドワークの場合の対象の選定といった研究の基本事項について理解を深める。そして、自身に合った方法論を見出せるように学びを深める。 これらを踏まえ、適宜ゼミの中での発表を通して、他者からの批評を受け、精度を高める取り組みも繰り返し行っていく。基本的に、年間を通してグループによるレジュメの作成と発表、個人によるレジュメの作成と発表を想定している。そして、4 年生の卒業研究に向けた問題関心のブラッシュアップや、問いの抽出に取り組み、より学びを深められるように基礎固めをする。 政策分野の中で、教育政策がメインであるが、そのほかに本演習では次の内容に関心のある学生の参加が望ましい。 →教育学、学校教育、生涯学習、国家行政、地方行政、地域づくり、まちづくり、地方創生、ボランティア活動など。		
[科目の到達目標] 1、研究したいテーマを設定できる。2、文献レビューのための、基本的スキルを獲得する。3、自分自身に適した分析手法を、見出すことができる。 論理的思考力の養成、学術論文の執筆能力の育成。本ゼミでは、各自が問いの抽出と研究方法の選定まで終えることを最終的な目標とする。		
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]		
学部		学科
DP1	DP2 ○	DP3 ○
DP4 ○	DP1	DP2 DP3
[前提条件] なし。		
[学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等) 演習の際に作成したレジュメや、質疑応答の内容を踏まえ、総合的に評価する。		
[教科書等] 必要に応じて、適宜案内する。		
[実務経歴] なし。		

授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時 期	テ ー マ と 内 容
第 1 回 ～ 第 4 回	テ ー マ (何 を 学 ぶ か) : 各 自 の 専 門 領 域 の 確 定 に 向 け た 準 備 内 容 : 各 自 の 専 門 領 域 の 確 定 に 向 け た 準 備 教 科 書 ・ 指 定 図 書 必 要 に 応 じ て 、 適 宜 配 布 す る 。
第 5 回 ～ 第 10 回	テ ー マ (何 を 学 ぶ か) : 各 自 の テ ー マ に 沿 っ た 文 献 レ ビ ュ ー に 関 す る 作 業 内 容 : 各 自 の テ ー マ に 沿 っ た 文 献 レ ビ ュ ー に 関 す る 作 業 教 科 書 ・ 指 定 図 書 必 要 に 応 じ て 、 適 宜 配 布 す る 。
第 11 回 ～ 第 14 回	テ ー マ (何 を 学 ぶ か) : 文 献 レ ビ ュ ー か ら 見 出 し た 問 い の 抽 出 と 研 究 方 法 の 選 定 内 容 : 文 献 レ ビ ュ ー か ら 見 出 し た 問 い の 抽 出 と 研 究 方 法 の 選 定 教 科 書 ・ 指 定 図 書 必 要 に 応 じ て 、 適 宜 配 布 す る 。
第 15 回	テ ー マ (何 を 学 ぶ か) : 授 業 の 総 括 内 容 : 半 期 の 学 習 内 容 の ま と め と ふ り 返 り を 行 う 。 教 科 書 ・ 指 定 図 書 必 要 に 応 じ て 、 適 宜 配 布 す る 。
第 16 回	テ ー マ (何 を 学 ぶ か) : グ ル ー プ 編 成 と 発 表 に 向 け た 準 備 内 容 : 関 心 の あ る テ ー マ ご と に グ ル ー プ を 編 成 し 、 文 献 レ ビ ュ ー と 問 い の 抽 出 、 分 析 手 法 の 確 認 、 考 察 ま で を 一 体 的 に 進 め る 。 ま た 、 グ ル ー プ 発 表 は 輪 番 制 と す る 。 教 科 書 ・ 指 定 図 書 必 要 に 応 じ て 、 適 宜 配 布 す る 。
第 17 回 ～ 第 19 回	テ ー マ (何 を 学 ぶ か) : グ ル ー プ 発 表 に 向 け た 準 備 内 容 : グ ル ー プ 発 表 に 向 け た 準 備 教 科 書 ・ 指 定 図 書 必 要 に 応 じ て 、 適 宜 配 布 す る 。
第 20 回 ～ 第 26 回	テ ー マ (何 を 学 ぶ か) : グ ル ー プ 発 表 を 踏 ま え た 学 習 内 容 : 発 表 及 び 質 疑 応 答 を 行 い 、 そ の 後 リ フ レ ク シ ョ ン ま で 検 討 し 、 一 連 の 学 習 と す る 。 教 科 書 ・ 指 定 図 書 必 要 に 応 じ て 、 適 宜 配 布 す る 。
第 27 回 ～ 第 29 回	テ ー マ (何 を 学 ぶ か) : グ ル ー プ 発 表 後 の リ フ レ ク シ ョ ン 内 容 : 各 グ ル ー プ の 発 表 を 踏 ま え 、 自 己 の ふ り 返 り と 他 者 の ふ り 返 り の 両 面 か ら 検 討 し 、 全 体 の 力 量 形 成 へ と 高 め て い く 。 教 科 書 ・ 指 定 図 書 必 要 に 応 じ て 、 適 宜 配 布 す る 。
第 30 回	テ ー マ (何 を 学 ぶ か) : 授 業 の 総 括 内 容 : 学 習 内 容 の ま と め を 行 う 。 教 科 書 ・ 指 定 図 書 な し 。

〔科目名〕 教養演習(社会と再生可能エネルギー)				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 本田 明弘						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 ・世界におけるエネルギーの動向と再生可能エネルギー関連産業の育成 ・地域における再生可能エネルギーの経済波及効果							
〔演習内容〕 本演習では、注目を集める再生可能エネルギーの中でも青森県が国内一の発電量を有する風力に着目して、その意義や関連する組織や産業と接する機会を通じ、今後の進路や活動に対する視野を広げる。 ・現場見学: 県内数か所の発電所現地に赴き事業者による概要の説明を受け、職業としての現実の姿を感じる機会を得る。 ・関連 NPO 活動への参加: 本学が協力会員である「NPO 法人青森風力エネルギー促進協議会」の活動の一環に参加し、県内・県外の関係者との接点を増やすことで、課題を身近なものとして体感してもらう。 ・事業者との意見交換: これらの演習を通じて得られた知見をもとに、今後さらに再生可能エネルギーを促進するための地域での課題に関する討議をゼミ形式で行うとともに、学外の事業者などを招いて意見交換を実施する。							
〔科目の到達目標〕 青森県における豊富な資源のひとつである再生可能エネルギーを、地域の資源としてとらえて活用するためのモチベーションを得て、建設的に実行に移せる力を身に着ける。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 社会とエネルギーに関する興味							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ゼミでの討議での積極的な発言を重視し、適宜レポートにより課題を評価する。							
〔教科書等〕 竹内純子、エネルギー産業の 2050 年 Utility 3.0 へのゲームチェンジ、日本経済新聞出版社、2018 日本弁護士連合会、メガソーラー及び大規模風力事業と地域との両立を目指して、信山社、2024							
〔実務経歴〕 機械メーカー研究職							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4～5月	・基礎知識習得: 世界におけるエネルギー動向、再生可能エネルギーの位置づけ、課題に関して基礎的な知識を身に着ける。						
6～7月	・現場見学: 県内における再生可能エネルギーの施設(太陽光、風力、バイオマス)を見学し、現場での事業的な観点で意見を聴取する。						
8～9月 (適宜)	・NPO 活動に参画: NPO 法人青森風力エネルギー促進協議会でのイベントに参画し、小学生、高校生、大学生との交流を通じて、現状を把握し課題を認識する。						

10～12 月	・産業界との意見交換:発電事業者、金融機関などの産業界の方々との意見交換を行い、地域に対する情報発信を行ってゆく。
------------	---

〔科目名〕 教養演習				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 横手一彦						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 太宰治「津軽」を読む。							
〔演習内容〕 各自が太宰治「津軽」の一節相当を担当して、事前に調べて口頭発表をする。その後に意見交換を重ね、作品への理解を深める。							
〔科目の到達目標〕 太宰治「津軽」の本文を読み込む。 太宰治「津軽」の内容を深く理解する。 他の作品について意見交換を重ねる。 青森県津軽半島の実地踏査を行う。 青森県津軽半島の実地踏査を踏まえ、作品への理解を深める。 太宰治「津軽」を基点に、太宰治の他の作品への理解を広げる。 文字記録(言語作品)における、史的資料(民話などを含む)と小民史の関わりを考察する。 各自の関心に基づく自己表現を実践する(多読.批評.研究.創作)。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○					
〔前提条件〕 なし。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 演習における口頭発表や学期末にレポート提出。							
〔教科書等〕 なし。							
〔実務経歴〕 該当なし。							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
四月～ 五月	年間を通じた、ゼミ活動の大凡の話し合い。 太宰治「津軽」本文の分担を決める。 太宰治「津軽」成立の背景と概要の説明。						

六 月 ～ 七月	青森県津軽半島実地踏査の決定と事前学習(太宰治「津軽」関連)。 実地踏査の実施。 実地調査後の意見交換。 太宰治「津軽」の本文を読み込む。 太宰治「津軽」の本文や周辺の事柄に関する意見交換。 レポート作成と提出。
九 月 ～ 一〇月	太宰治「津軽」の本文を読み継ぐ。 太宰治「津軽」の本文や周辺の事柄に関する意見交換。
一 一 月 ～12 月	太宰治「津軽」の本文を読み継ぐ。 太宰治「津軽」本文や周辺の事柄に関する意見交換。 地域性への理解や民俗学的な考察を深める。 文字記録(言語作品)における、史的資料(民話などを含む)と文字記録と小民史の関わりを多面的に考察する。 地域性の在り方などの議論を深める。
一月	太宰治「津軽」の本文を読み込む。 太宰治「津軽」の本文や周辺の事柄に関する意見交換。 各自の関心に基づく自己表現を実践する(多読.批評.研究.創作)。 レポート作成と提出。

〔科目名〕 事業論Ⅱ				〔単位数〕 1 単位		〔科目区分〕 キャリア教育科目	
〔担当者〕 小田切 勇治 Odagiri Yuji		〔オフィス・アワー〕 時間：－ 場所：－			〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 この講義では、流通業が集積する協同組合青森総合卸センター（以下：問屋町）に勤務している講師が、実際に問屋町で営業している企業と連携してその業務内容を紹介し、それぞれの企業の取り組みを通じて、地域における流通業の役割や次世代につなげるためのさまざまな方策を考える。また自身の日々の生活との関連についてあらためて考え、自身のキャリア形成に繋げることを目的とする。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 事業論Ⅰ、Ⅲ、自治行政政策論等とともに各業界・業種の理解を深め、さらにインターンシップに繋げることで自身のキャリア形成に役立てることができる。							
〔科目の到達目標〕 中間目標 ・問屋町の歴史、目的、事業、成果などの概要を説明できる。 ・問屋町会員企業について、業種ごとの業務概要を説明できる。 最終目標 ・流通業及び問屋町の役割を理解し、自身のキャリア形成に役立てる。 成績評価基準 成績は各回の授業内レポート及び最終レポート課題で評価します。 A レポート評価 80 点以上 B レポート評価 70 点以上 80 点未満 C レポート評価 60 点以上 70 点未満 D レポート評価 50％以上 60 点未満 F レポート評価 50％未満							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 流通業及び問屋町について、スライド資料の見せ方も含めて、できるだけわかりやすく講義したいと思います。							
〔教科書〕 配布資料							
〔指定図書〕 特になし							
〔参考書〕 協同組合青森総合卸センターホームページ							
〔前提科目〕 なし							

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 毎回の授業内レポート 10%×7 回、最終レポート課題 2 本×15%=30%	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 キャリア科目の講義として、普段みなさんが意識しない「流通業」について、実際に流通業を営む経営者及び経営幹部と共に実学を中心に講義を行い、今後のキャリア形成にも役立つような授業を心掛けます。 7コマの出席を前提として最終レポート課題を設定しているので、7コマ出席できる学生の履修を望みます。特に1コマ目と7コマ目は最終レポートに大きく影響するので出席が必須です。1 コマ目、7 コマ目に出席できない場合は履修しないことをお勧めいたします。 ※参考 2024 年度協力企業 丸大堀内㈱【食料品・酒類卸】 ㈱角弘【建築資材卸】 ㈱マツダアンフィニ青森【自動車小売・自動車整備業】 ㈱マエダ【小売業】 大青工業㈱【冷熱機器製造業】	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 流通業について 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 流通業・協力企業の実例から学ぶ① 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 流通業・協力企業の実例から学ぶ② 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 流通業・協力企業の実例から学ぶ③ 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 流通業・協力企業の実例から学ぶ④ 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 流通業・協力企業の実例から学ぶ⑤ 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 協同組合青森総合卸センターの歴史、目的、事業、これまでの総括 教科書・指定図書
試 験	課題レポート(1,600 文字×2種類)を課す

【科目名】 グローバル経営論				【単位数】 2 単位		【科目区分】 専門科目 基幹科目	
【担当者】 Nguyen Chi Nghia グェン チ ギア		【オフィス・アワー】 時間： 場所：				【授業の方法】 講義	
【科目の概要】 本講義では、ドキュメンタリーの鑑賞、ディスカッション、教員の説明などを通じて、グローバルなコンテキストにおいて企業が利益を追求しつつ、環境問題や社会問題といった世界的な課題を解決できるようなグローバル経営について学ぶ。学生の皆さんには、教員の説明を受けるだけでなく、授業内容の中で関心のある課題を選び、さらに探究することを通じて、学びを深めることが求められる。このような動的な学習を通じて、グローバル経営に必要な実践的なスキル、知識、そして社会に即応できる能力を持った人材を育成することを目指す。将来的に企業や行政機関などの国際事業に関わる仕事を目指す学生も歓迎する。							
【「授業科目群」・他の科目との関連付け】・【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか】 担当教員は経営学だけではなく心理学、行動経済学や教育経済学の理論も参考にして講義を行うこともある。そのため、本講義では様々な学問の理論を活用し、グローバル経営をより楽しく学ぶことができる。							
【科目の到達目標】 中間目標:グローバル経営の特徴と課題を説明できるようになる。 最終目標:グローバル経営の特徴と課題を理解し、さらに様々な組織のグローバル経営に関する課題や戦略構築に必要なスキルを修得する。							
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関係】							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2	DP3	
【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】 特になし。							
【教科書】 特になし。							
【指定図書】 特になし。							
【参考書】Pralhad, C. K. (2005). The Fortune at the Bottom of the Pyramid. Upper Saddle River, NJ: Wharton School Publishing (=2005 スカイライトコンサルティング訳 『ネクスト・マーケット——「貧困層」を「顧客」に変える次世代ビジネス戦略』、英治出版→2010 増補改訂版)							
【前提科目】 特に指定しない。							

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 事例研究の成果(40%)と小テスト(60%)	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 自分自身の成長のために授業に一生懸命に参加してください。	
〔実務経歴〕	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか):グローバル化の功罪とグローバル経営の特徴・課題(1) 内 容:・グローバル経営の概要について学ぶ。 ・グローバル化が与える悪影響の特徴、仕組みとそれに関するグローバル経営の特徴について学ぶ。 講義レジュメ
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):グローバル化の功罪とグローバル経営の特徴・課題(2) 内 容:グローバル化が与える好影響の特徴、仕組みとそれに関するグローバル経営の特徴、課題について学ぶ。 講義レジュメ
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):経済ピラミッドの底辺に眠る市場の開拓(1) 内 容:経済ピラミッドの底辺に眠る市場の特徴、従来の市場との相違点について学ぶ。 講義レジュメ
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):経済ピラミッドの底辺に眠る市場の開拓(2) 内 容:経済ピラミッドの底辺に眠る市場を開拓するグローバル経営、その課題と解決方法について学ぶ。 講義レジュメ
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):世界課題とグローバル経営の融合(1) 内 容:市場開拓を超えるグローバル経営の真相を事例で探究する。 講義レジュメ
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):世界課題とグローバル経営の融合(2) 内 容:事例でいかに世界課題とグローバル経営を融合させることができるのかについて学ぶ。 講義レジュメ
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):グローバル経営人材の真相(1) 内 容:グローバル経営人材にかかわる誤解を事例で再確認する。 講義レジュメ

第 8 回	テーマ(何を学ぶか):グローバル経営人材の真相(2) 内 容:ゲームでグローバル経営人材に求められる資質・能力を学ぶ。 講義レジュメ
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):多様な分野におけるグローバル経営の探究(1) 内 容:教育分野にかかわるグローバル経営を事例で学ぶ。 講義レジュメ
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):多様な分野におけるグローバル経営の探究(2) 内 容:福祉分野にかかわるグローバル経営を事例で学ぶ。 講義レジュメ
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):地域とグローバル経営(1) 内 容:地域経済とグローバル経営の関係性を事例で学ぶ。 講義レジュメ
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):地域とグローバル経営(2) 内 容:地域福祉とグローバル経営の関係性を事例で学ぶ。 講義レジュメ
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):グローバル経営の事例研究(1) 内 容:担当教員の指導を参考にグローバル経営にかかわる課題を選び、更に探究していく(授業中の作業)。 講義レジュメ
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):グローバル経営の事例研究(2) 内 容:関心のあるグローバル経営の課題に関する探究結果を担当教員に報告し、アドバイスを参考に更に探究していく(授業中の作業)。 講義レジュメ
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):総括と小テスト 内 容: ・本講義で説明された内容のまとめ、補足 ・小テスト
試 験	なし

〔科目名〕 会社法Ⅰ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 白石 智則		〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 本講では、「会社法 2」の講義とあわせて、「会社法」（平成 17 年法律第 86 号）が定める基本的な法制度（特に株式会社の機関）について学びます。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 いまの世の中、「会社」を経営したり、「会社」に就職したり、「会社」に投資したり、「会社」から商品を購入したりと、とにかく私たちは「会社」と関わらずに生きていくことはできません。会社法は、「会社」に関わるさまざまな関係者間の利害を調整する基本的なルールであり、これからの皆さんの生活とも深く関わります。							
〔科目の到達目標〕 「会社法」の基本構造を理解し、会社法にかかわる様々な法律問題を考えることができる能力を身につけてもらいます。具体的には、後期の「会社法Ⅱ」とあわせて、行政書士試験、司法書士試験、公認会計士試験等の「会社法」（または「企業法」）の択一式試験に解答できるレベルに到達することを目標とします。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4	DP1	DP2 ○	DP3 ○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 講義のやり方について特に否定的な意見はなかったので、引き続き拙著の教科書をスクリーンに投影しながら講義を行います。							
〔教科書〕 拙著 『会社法の教科書 第 4 版』（2025 年） （流通ルートに乗せていない自費出版の教科書です。公立大の生協で購入してください。）							
〔指定図書〕 な し							
〔参考書〕 中東正文ほか『会社法 有斐閣ストゥディア』（有斐閣、第 2 版、2021 年） 江頭憲治郎『株式会社法』（有斐閣、第 9 版、2024 年） 高橋美加ほか『会社法』（弘文堂、第 3 版、2020 年） 田中亘『会社法』（東京大学出版会、第 4 版、2023 年） 岩原紳作＝神作裕之＝藤田知敬編『会社法判例百選』（有斐閣、第 4 版、2021 年） そのほかの参考文献については、最初の講義のときに紹介します。							

〔前提科目〕 な し	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業内試験（小テスト（10％）と期末試験（90％））により評価します。 小テストを各講義日に実施します（全7回）。授業を聞いていれば分かるような、簡単な選択問題を 出題します。Google Formを使用して試験を行いますので、指定のURLから受験してください。 期末試験では、基本的な知識を確認する選択式問題と、論述式問題を 出題します（持込不可）。成績評価の際に出席状況を加味することはありませんが、全講義の3分の2以上出席していない者は失格とします。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 熱意をもって受講してくれることを期待します。	
〔実務経歴〕 な し	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ（何を学ぶか）： 総論（1） 内 容：企業、会社 教科書・指定図書 教科書（第1章ⅠⅡ）
第 2 回	テーマ（何を学ぶか）： 総論（2） 内 容：会社の種類 教科書・指定図書 教科書（第1章Ⅲ）
第 3 回	テーマ（何を学ぶか）： 総論（3） 内 容：株式会社の特徴、上場会社、会社法 教科書・指定図書 教科書（第1章Ⅳ～Ⅵ）
第 4 回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（1） 内 容：機関とその設計 教科書・指定図書 教科書（第2章Ⅰ）
第 5 回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（2） 内 容：株主総会とは、株主総会の招集、株主提案 教科書・指定図書 教科書（第2章Ⅱ1～3）
第 6 回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（3） 内 容：一株一議決権の原則とその例外、議決権の行使方法 教科書・指定図書 教科書（第2章Ⅱ4・5）

第7回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（4） 内 容：株主総会の議事・決議、株主の権利行使に関する利益供与、株主総会決議の効力を争う訴え 教科書・指定図書 教科書（第2章Ⅱ6～8）
第8回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（5） 内 容：取締役とは 教科書・指定図書 教科書（第2章Ⅲ1）
第9回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（6） 内 容：取締役会、代表取締役 教科書・指定図書 教科書（第2章Ⅲ2・3）
第10回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（7） 内 容：取締役の義務 教科書・指定図書 教科書（第2章Ⅲ4）
第11回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（8） 内 容：取締役の報酬、監査役 教科書・指定図書 教科書（第2章Ⅲ5・Ⅳ1・2）
第12回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（9） 内 容：監査役会、会計監査人、会計参与 教科書・指定図書 教科書（第2章Ⅳ3・Ⅴ・Ⅵ）
第13回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（10） 内 容：指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社 教科書・指定図書 教科書（第2章Ⅶ・Ⅷ）
第14回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（11） 内 容：役員等の会社に対する責任、株主代表訴訟 教科書・指定図書 教科書（第2章Ⅸ1～3）
第15回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の機関（12） 内 容：役員等の会社に対する責任の免除、役員等の第三者に対する責任 教科書・指定図書 教科書（第2章Ⅸ4・5）
試験	第15回の講義の日に定期試験を行います

〔科目名〕 組織学習論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 長谷川直樹		〔オフィス・アワー〕 時間:授業内で案内します。 場所:501 研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 組織学習論は、1960 年代から研究が開始された比較的新しい学問領域です。 組織社会と呼ばれる現代において、個人の学習、成長だけでなく、組織も学習し成長する必要があります。組織が存続し発展するために、協働を確立し組織の知識をマネジメントすることが組織学習である。組織の体系的な発展を促進する方法が組織学習論になります。特に、日本の組織は生産性が低いことが問題となっている。組織学習は、組織を適切に機能させる組織マネジメント手法の一つである。 授業は、教科書を用いて学修していきます。教科書の中で取り上げられる組織学習論に関するいくつかの主要理論については、より詳しく説明します。授業方法は、講義だけでなく、グループ・ディスカッションも行います。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 組織学習論は、組織論の一分野です。組織論と関連して、働く人々の協働の確立とその成果の効率的にすることが組織学習になります。今後、組織で働く人にとって学ぶべき分野です。 組織学習論は、組織を対象とした学問であるマネジメント論や経営戦略論などと関連を有しています。							
〔科目の到達目標〕 組織学習論の研究潮流を体系的に理解し、説明できるようになる。 組織学習論の主要理論について理解し、自分なりの考えを示すことができるようになる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕							
〔教科書〕 安藤史江『コア・テキスト組織学習』、新世社、2019 年。							
〔指定図書〕							
〔参考書〕 ハーバート・サイモン『経営行動－経営組織における意思決定過程の研究』、ダイヤモンド社、2009年。 マーチ&サイモン『オーガニゼーションズ』、ダイヤモンド社、2014年。 マーチ&オルセン『組織におけるあいまいさと決定』、有斐閣、1986年。 野中&竹内『知識創造企業』、東洋経済新報社、2020年。							

〔前提科目〕 組織論	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 学期末試験の結果(60%) 課題(小テスト・レポート・リアクションペーパー)(40%) 学期末試験の内容等については、試験前の授業時に説明します。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 関連用語について調べる(事前学習)。 授業に出席し、ノートを取る(授業中)。グループワークの際は、積極的に参加(発言)すること。 授業後に200字程度の要約を作ること(事後学習)。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 講義の進め方について説明する。講義の内容、目的について説明する。評価方法について説明します。 教科書・指定図書: 教員が作成したスライド・プリントを用いて講義を行います。
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 組織学習論を学ぶ 内 容: 組織学習の定義について説明します。 教科書・指定図書: 『コア・テキスト組織学習』第 1 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): カーネギー学派の組織行動論 内 容: サイモン&マーチを中心としたカーネギー学派の組織行動論について説明します。 教科書・指定図書: 教員が作成したスライド・プリントを用いて講義を行います。
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): サイクルで捉える組織学習 内 容: マーチを中心とした組織学習のサイクルについて説明します。 教科書・指定図書: 『コア・テキスト組織学習』第 2 章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 組織学習のメカニズム 内 容: 組織の学習効果を高める方法と、学習活動に伴うジレンマについて説明します。 教科書・指定図書: 『コア・テキスト組織学習』第 3 章 4 章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 学習のジレンマを克服するために(1) 内 容: クリス・アージリスのダブル・ループ学習について説明します。 教科書・指定図書: 『コア・テキスト組織学習』第 5 章

第 7 回	テーマ(何を学ぶか):学習のジレンマを克服するために(2) 内 容:ジェームズ・マーチの知の活用・知の探索について説明します。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第 5 章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):個人の学習とメンター 内 容:個人の学習とマネジメントについてアブラハム・ザレズニックの理論を中心に説明します。 教科書・指定図書:教員が作成したスライド・プリントを用いて講義を行います。
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):情報収集の役割としてのマネジャー 内 容:ヘンリー・ミンツバーグの管理者行動論について説明します。 教科書・指定図書:教員が作成したスライド・プリントを用いて講義を行います。
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):知識創造 内 容:野中&竹内の SECI モデルについて説明します。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第 6 章、第 7 章、第 8 章、第 9 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):知識の獲得 内 容:経験と密接な関係がある知識の獲得について説明します。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第 6 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):知識の移転 内 容:個人学習が組織学習になる移転について説明します。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第 7 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):情報の解釈 内 容:情報解釈のシステムについて説明します。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第 8 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):組織の記憶 内 容:組織の記憶について説明します。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第 9 章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):組織学習のこれからと全体のまとめ 内 容:今後の組織学習論の展開について説明します。これまでの講義で重要な点を整理します。期末テストの説明をします。 教科書・指定図書:『コア・テキスト組織学習』第 10 章
試 験	期末テストを行います。

〔科目名〕 監査論Ⅰ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 紫関 正博 Shiseki Masahiro		〔オフィス・アワー〕 時間:授業の開始時に提示 場所:研究室(512)				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 企業の外部に会計情報を提供する企業の経営者は、投資家、株主等をはじめとする利害関係者に、企業の財務状況や経営成績を報告する。その際、企業は利害関係者に向けて、会計法規や会計基準に基づいて貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を作成および公表している。このとき、企業の作成した財務諸表が適正であるのかを監査が保証することによって、利害関係者は初めて信頼できる企業の財務情報を入手することができる。このように、監査(通常、「財務諸表監査」という)は、企業が作成した財務諸表上の用語と数値(金額)が正しいものであるのかをチェックし、投資家や株主等をはじめとする財務諸表の利用者を保護するために証券市場の信頼を確立する社会制度となっている。しかしながら、こうした社会制度としての監査があるにもかかわらず、なぜ会計不正はなくなるのだろうか。 「監査論Ⅰ」では、監査の理論と制度的側面を中心に、監査目的と監査概念、(財務諸表)監査制度を学ぶ。(財務諸表)監査制度の単位では、日本の法定監査制度(会社法監査制度、金融商品取引法監査制度)と監査規範としての監査基準を主なテーマとして取り上げる。講義では、会計不正の事例も取り上げ、監査の課題も考えながら、現代の社会における財務諸表監査の役割を学習する。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ・他の科目との関連付け 監査の対象は財務情報であることから、この科目は、他の会計関連科目(会計学基礎論、財務会計論Ⅰ・Ⅱ、財務分析Ⅰ・Ⅱ、財務管理など)の学習を再認識し、さらには理解を深めることにもつながる。 ・学ぶ必要性と学ぶことの意義 会計はビジネスの言語として、いまやビジネスパーソンに必須の知識となっている。したがって、(財務諸表)監査制度を理解することは、会計文書を公表することが社会的にどのような意義を持っているのかを考える上で有益である。さらに、近年では、内部統制が制度化され、ビジネスの現場に監査が登場する場面も増えている。このことから、監査法人で働く会計専門職業人のみならず、財務諸表を作成する側の企業のビジネスパーソンも、会計と監査の関係を十分に理解する必要があることが窺える。							
〔科目の到達目標〕 (中間目標) 監査の基礎的な理論と(財務諸表)監査の仕組みを習得する。 (最終目標) 日本の法定監査制度を中心とした監査制度と監査の歴史的な展開を学習し、現代の社会における財務諸表監査の役割に対する理解を深め、さらには監査の課題を考える。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 声が聞き取りづらいという回答が複数あったので、説明の仕方や話し方の工夫に努め、マイクを調整し、しっかりと音声を伝え、聞こえやすくするように心掛けます。また、スライドの提示についても、配慮します。							

第4回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク② 内 容:監査人の独立性 教科書 第1章, 講義レジュメ
第5回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク③ 内 容:監査の経済的機能 教科書 第1章, 講義レジュメ
第6回	テーマ(何を学ぶか):監査制度① 内 容:イギリスとアメリカ・ドイツにおける監査の生成と展開 教科書 第2章, 講義レジュメ
第7回	テーマ(何を学ぶか):監査制度② 内 容:日本の会社法監査(1) 会社法監査制度の生成と展開 教科書 第2章, 講義レジュメ
第8回	テーマ(何を学ぶか):監査制度③ 内 容:日本の会社法監査(2) 会社法監査制度の意義と内容 教科書 第2章, 講義レジュメ
第9回	テーマ(何を学ぶか):監査制度④ 内 容:日本の金融商品取引法監査(1) 金融商品取引法監査制度の生成と展開 教科書 第2章, 講義レジュメ
第10回	(何を学ぶか):監査制度⑤ 内 容:日本の金融商品取引法監査(2) 金融商品取引法監査制度の意義と内容 教科書 第2章, 講義レジュメ
第11回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準① 内 容:監査規範の意義, アメリカの監査基準の生成と展開 教科書 第3章, 講義レジュメ
第12回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準② 内 容:日本の監査基準(1) 監査基準の生成と展開 教科書 第3章, 講義レジュメ
第13回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準③ 内 容:日本の監査基準(2) 監査基準の改訂と新設 教科書 第3章, 講義レジュメ
第14回	テーマ(何を学ぶか):会計監査の事例 内 容:会計不正事件のケーススタディ 講義レジュメ
第15回	テーマ(何を学ぶか):総復習 内 容:講義内容の総括 教科書, 講義レジュメ
試 験	筆記試験の実施

[科目名]				[単位数]		[科目区分]	
租 税 法				2 単位		専門科目 展開科目	
[担当者]		[オフィス・アワー]				[授業の方法]	
金 子 輝 雄		時間： アナウンスします 場所： 513 研究室				講 義	
[科目の概要]							
「103 万円の壁」 って？							
わが国には約 50 種類の税がありますが、その中で最も重要かつ基本的な税が所得税です。所得税は消費税と並んで私たちの日常生活に密接にかかわっていますので、もはや社会人の一般常識と考えてください。 そもそも、税金がなぜ存在するのか。社会保険料との違いは何か。税金がどのように使われているのか。税金を払わなかったらどうなるのか。これらのことを知っていますか？ 授業では、初めに、税の目的、財政上のウエイト、租税公平主義や租税法律主義といった基本原則等を一通り学んで、徐々に所得税の学修へと進みます。所得金額および税額の計算をマスターしてもらうだけでなく、適宜、租税の歴史や税務裁判事例を織り込んで、租税法の解釈ならびに租税法学を学んでいただきたいと思います。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか]							
- 所得の確定申告はもちろん、給与から天引きされる所得税・住民税等の仕組みを理解するとともに、ひとりの「納税者」という視点で、社会を見つめることができます。 - 会計学基礎論で学んだ会計処理の意味が理解できます。というのも基礎的な簿記は所得税法を前提としているからです。併せて、節税のタックス・プランニングを学べます。 - 同じ所得課税である法人税の理解に役立ちます。「法人成り」、「欠損金目当ての M&A」、「所得の海外移転」、企業の経営戦略には税務の側面を見逃せません。							
[科目の到達目標]							
<中間目標> 全国経理学校協会主催「税務会計検定試験(所得税法)」3級合格レベル。 <最終目標> 同 2 級合格レベル。 ファイナンシャル・プランニング技能士試験、税理士試験や公認会計士試験も視野に入れています。							
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]							
数名ですが、「練習問題を解く時間を多くしてほしい。解説を丁寧にやってほしい。」という要望が見られますのでなるべく配慮いたします。							
[教科書] 全国経理学校協会編『演習 所得税法 <最新版>』清文社							

〔指定図書〕 企業分析研究会編『現代日本企業の企業分析』新日本出版 2018 年	
〔参考書〕 諸富 徹 著『税という社会の仕組み』筑摩書房 2024 年	
〔前提科目〕 特にありません。「憲法概論」や「財政学」が参考になります。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 出席カード:ミニツツペーパーとして重要な用語・計算の確認テストを行います。(10%) レポート課題:税務会計検定試験の過去問等 (10%) 期末試験:税務会計検定試験の所得税法 2級程度 <教科書の持ち込み可> (80%)	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 教科書の章末や巻末の練習問題に取り組みましょう。	
〔実務経歴〕 銀行業・税理士事務所	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンスおよび税とは 内 容: 税金の意義・根拠・目的・分類、納税の義務の根拠、専門用語の解説等。 国債の発行残高の推移、消費税率と所得税率の関係について 教科書・指定図書 配布プリント
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 租税法の基本原則と所得税のあらまし 内 容: 租税法律主義と租税公平主義、日本政府の歳入と歳出の状況、所得税のあらまし 納税は国民の義務ではなく権利です！ 教科書・指定図書 第 1 章
第3回	テーマ(何を学ぶか): 課税要件<納税義務者と課税所得> 内 容: 所得税とは、納税義務者、課税所得の範囲、所得の帰属等。 課税要件とは？公平の考え方。 教科書・指定図書 第2章
第4回	テーマ(何を学ぶか): 利子所得・配当所得および所得税の源泉徴収制度について 内 容: 利子所得および配当所得の意義と金額の計算方法 ニーサとイデコ！ 教科書・指定図書 第3・4章 および第 19 章
第5回	テーマ(何を学ぶか): 青色申告制度・不動産所得 内 容: 簿記と青色申告制度の概要と特典、不動産所得の意義と金額の計算方法 電子帳簿、インボイス、電子申告について 教科書・指定図書 第 18 章および第 5 章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 事業所得① 内 容: 事業所得の意義、金額の計算、収入金額< 商品を自分で消費したらどうなる？自家消費の問題 教科書・指定図書 第6章

第7回	テーマ(何を学ぶか):事業所得② 内 容:必要経費、棚卸資産 必要経費、家事費および家事関連費の関係 教科書・指定図書 第6章
第8回	テーマ(何を学ぶか):事業所得③ 内 容:事業所得およびこれまで見てきた内容の計算演習 従業員の不法行為と使用者の責任、レポート課題 教科書・指定図書 第6章
第9回	テーマ(何を学ぶか):給与所得 内 容:概要と計算式 クロヨン問題、レポート課題の解説 教科書・指定図書 第7章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):退職所得と山林所得 内 容:分離課税と5分5乗方式 経常所得と臨時所得、短期所得と長期所得 教科書・指定図書 第8・9章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):譲渡所得・一時所得・雑所得 内 容:譲渡所得の概要と計算式 土地や建物を売却したら譲渡所得、家財道具は非課税。 教科書・指定図書 第10・11・12章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):損益通算 内 容:損益通算と損失の繰り越し控除 被災したら税負担はどうなるのか？ 教科書・指定図書 第13章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):所得控除 内 容:各種所得控除制度の内容 扶養控除や基礎控除の額および課税最低額について！ 教科書・指定図書 第14章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):納付税額の計算 内 容:課税所得金額と納付税額の計算 累進税率の仕組み、住宅関連税額控除制度について。 教科書・指定図書 第15・16章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):租税の確定手続と全体のまとめ 内 容:申告納税制度と不服申立制度、租税犯則について！ 脱税は犯罪です。 教科書・指定図書 プリントおよび教科書の総合問題
定期試験	期末試験を実施する

〔科目名〕 財務戦略				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 長谷川美千留		〔オフィス・アワー〕 時間:講義の際にお知らせします。 場所:503 研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 現代企業は継続企業として存在している。企業が、継続企業であり続けるためには、企業価値の向上という経営上の目的を達成し続けなければならない。伝統的な財務戦略とは、このような企業の経営上の目的を達成するために必須のものであり、経営戦略を財務(すなわち資金調達、資金運用)の側面から具体化し、支援するものと考えられる。 企業を取り巻く環境は常に変化しており、これに応じて、近年、財務戦略の在り様も変化している。このような変化の背景には、我が国の企業の株式所有構造が変化し、外国人投資家との企業との関係がとりわけ重視されるようになったという事実がある。これと同時に、財務指標のひとつである ROE の重要性や企業価値向上が盛んに議論されている。その一方で、過度の株主重視経営から脱し、多様な利害関係者に目を向けつつ、非財務情報開示と企業価値との関係を重視すべき、という議論もある。このような状況を踏まえ、ROEを重視した株主価値、企業価値の向上を掲げる財務戦略と EGS 財務戦略のような新たな方向性の二つの側面から、現代企業の財務戦略について検討する。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 「財務戦略論」は戦略という意味では「経営戦略論」と、財務という点においては「財務管理論」、「財務分析Ⅰ」ならびに「財務分析Ⅱ」と関連している。講義内容は、具体的な資格や検定試験に直結はしないが、企業という対象を「経営」と「財務」という二つの分野の中間地点から概観することで、企業経営に関する理解が深まる。							
〔科目の到達目標〕 現代企業の財務戦略の概要を理解し、株主価値経営という視点からみた財務戦略と近年注目される ESG 財務戦略について、自らの企業観に基づき論じることが出来る。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1 ○	DP2	DP3 ○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 復習や練習問題が好評なので、こちらは今年度も継続したいと思います。							
〔教科書〕伊藤邦雄(2023)『企業価値経営第2版』 日本経済新聞出版社							
〔指定図書〕 A) 桑島浩彰・田中慎一・保田隆明(2022)『SDGS 時代を勝ち抜く ESG 財務戦略』ダイヤモンド社 B) 柳良平(2017)『ROE 革命の財務戦略－外国人投資家が日本企業を強くする』中央経済社							
〔参考書〕							
〔前提科目〕 簿記・会計の基礎科目							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 評価方法 定期試験(筆記)							

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 現代企業の経営について、財務戦略の視点から、受講者の皆さんとともに考えていきたいと思います。 企業に関するに日頃から目を向け、情報を収集するよう心がけてください。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ: イントロダクション 財務戦略とは何か 内 容: 現代の財務戦略における課題を概観する 教科書 序章 指定図書 B)第1章
第 2 回	テーマ:価値思考と財務戦略 内 容:企業価値とガバナンス改革 教科書 序章
第 3 回	テーマ:企業価値経営のフレームワーク 内 容:企業価値経営とは何か 教科書 第 2 章
第 4 回	テーマ:財務諸表から読む企業活動 内 容:財務諸表から企業活動とその財務戦略を読む 教科書 第 3 章
第 5 回	テーマ:戦略的ファンダメンタル分析 内 容:財務分析について 教科書 第 4 章 指定図書 B)第 2 章
第 6 回	テーマ:会計戦略分析 内 容:会計政策と戦略 教科書 第 6 章・
第 7 回	テーマ:証券市場と企業評価 内 容: 市場と会計情報、投資家との対話について 教科書第 9 章 指定図書 B)第 6 章
第 8 回	テーマ:学修のまとめ① 内 容:第 1 回から第 7 回までのまとめ 教科書 序章 第 2,3,4,6,9 章
第 9 回	テーマ:資本コスト 内 容:資本コストの測定と管理 教科書 第 10 章 指定図書 B)第 4 章
第 10 回	テーマ:M&A 内 容:企業価値創造のための M&A と事業ポートフォリオ 教科書 第 12 章
第 11 回	テーマ:統合報告書 内 容:近年公表される株式会社の統合報告について。 配布資料

第 12 回	テーマ:無形資産と財務戦略 内 容: 無形資産の価値評価と前略的活用。 教科書 第 14 章
第 13 回	テーマ:ESG 経営と財務戦略① 内 容:ESG の視点から財務戦略を考える。 教科書 第 15 章 指定図書 A) 第 2 章
第 14 回	テーマ:ESG 経営と財務戦略② 内 容:近年注目される、非財務情報と企業評価について 教科書 第 15 章 指定図書 A) 第 3 章
第 15 回	テーマ:学修のまとめ② 内 容:第 9 回から第 14 回までのまとめ。 教科書 第 1 章～第 6 章 指定図書第 1, 2, 4, 6 章
試 験	定期試験(筆記)

〔科目名〕 経営情報論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 古賀広志			〔オフィス・アワー〕 時間: 集中講義なので講義間の休憩時間とします 場所: 教室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 本講義では、経営情報論研究において現在主流となっている「社会構成主義・社会物質性」の視点を採用し、新しい経営情報論の考え方について概説する。加えて、現在急速に進行しつつある DX (Digital Transformation) 環境と呼ばれる高度で先進的なデジタルネットワーク環境の活用について概説する。さらに、情報社会ならびに情報倫理の議論を、明確に経営情報論の理論体系の中に位置づけることで、ビジネスの世界における経営情報の考え方を包括的に説明していく。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 企業活動を題材とする講義科目の中で、企業活動を情報とシステムの視点から捉える応用科目に位置づけられる。情報化は現代企業の重要課題の 1 つであることから、たとえば「IT パスポート試験」の基礎知識の習得、あるいは『情報通信白書』などを通読するための基礎知識を習得することは、将来のキャリア形成においても無視できないと思われる。本講義で学修した内容は「すぐに役立つノウハウ集」ではないが、これからの企業活動を理解する上で有益なヒントを与えてくれると思われる。							
〔科目の到達目標〕 将来、実務界において責任ある開発とイノベーションを進めていく人材に育つために、ICT の開発と利用に関する技術的課題だけでなく、社会・倫理・法的問題に関する知見を習得することを到達目標とする。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 教科書に沿いつつ、具体的な事例を紹介しながら、丁寧に説明していきたいと思います。							
〔教科書〕 遠山 暁・村田 潔・古賀広志 『現代経営情報論』 有斐閣							
〔指定図書〕							
〔参考書〕 必要に応じて指示します							
〔前提科目〕 組織論，経営戦略論Ⅰ，経営戦略論Ⅱ							

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 集中講義ですが、毎時間の終わりに小テスト(ミニッツペーパー)を課し、それらを総合的に評価します。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 集中講義ですので精力的に出席し、教員からの質問があれば自分の考えを発言することを望みます。	
〔実務経歴〕 なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 経営情報論とは何か(イントロダクション) 内 容: 経営情報システムの歴史的展開(変遷)について簡単に触れる 教科書・指定図書: 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第1章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 経営情報論の基礎理論(組織論と戦略論の基礎) 内 容: 経営情報論理解の基礎となる組織関連の諸概念を ICT に関連づけて解説する。とくに、組織論と戦略論について、情報の視点から概説する。 教科書・指定図書: 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第2章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 経営情報論の基礎理論(システム理論とネットワーク理論) 内 容: 経営情報論理解の基礎となる組織関連の諸概念を ICT に関連づけて解説する。とくに、システム理論とネットワーク理論について、情報の視点から概説する。 教科書・指定図書: 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第2章
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 経営情報システムとは何か 内 容: 社会構成主義・社会・物質性の議論に基づく経営情報システムの定義、人間と人間、さらには人間と人工物との間の情報的相互作用の支援、経営情報システムの役割などを解説する。 教科書・指定図書: 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第3章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 情報通信技術の進展と組織 内 容: ICT の組織にとっての意味についてできる限り言及する。とくに、ICT の基本特性、ハードウェア、ソフトウェアの基礎、標準技術などを解説する。 教科書・指定図書: 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 情報通信技術の進展と組織(続き) 内 容: ICT の組織にとっての意味についてできる限り言及する。とくに、ICT の基本特性、ハードウェア、ソフトウェアの基礎、標準技術などを解説する(前回の続き)。 教科書・指定図書: 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第4章
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 経営情報システムの設計・開発 内 容: アジャイル(状況適応)、Dev Ops, Biz Dev Ops などクラウド環境を前提にしたシステム開発(持続的インテグレーション)・管理を中心に説明します。 教科書・指定図書: 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第5章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 経営情報システムの管理(デジタル・ガバナンス) 内 容: IT ガバナンス、情報セキュリティの基礎的な考え方について説明します。 教科書・指定図書: 遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第6章

第9回	テーマ(何を学ぶか):情報通信技術を活用したビジネス・イノベーション 内 容:ICT によるビジネスイノベーション理論について解説します. 教科書・指定図書:遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第7章
第10回	テーマ(何を学ぶか):ネット・ビジネス 内 容:電子商取引, サーチエコノミー／アテンションエコノミー, ソーシャルメディア, モバイルビジネスなどについて説明します. 教科書・指定図書:遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第8章
第11回	テーマ(何を学ぶか):情報通信技術と組織コミュニケーション 内 容:社会構成主義ならびに社会物質性の議論を全面的に採用した形で, 組織コミュニケーションと情報技術の関係を説明します. 教科書・指定図書:遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第9章
第12回	テーマ(何を学ぶか):情報通信技術と組織コミュニケーション(続き) 内 容:データコミュニケーションについて, コンビニのレジシステムを中心に説明します. 教科書・指定図書:遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第9章
第13回	テーマ(何を学ぶか):ビジネスインテリジェンスとナレッジマネジメント 内 容:ビジネスインテリジェンスとアナリティクス, 組織におけるナレッジの獲得・蓄積と管理, ナレッジマネジメントなどについて概説します. 教科書・指定図書:遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第10章
第14回	テーマ(何を学ぶか)::情報通信技術と社会・倫理 内 容:情報社会における組織と個人のアカウントビリティ, 監視社会とプライバシー保護, 個人番号制度などについて説明する. 教科書・指定図書:遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第11章
第15回	テーマ(何を学ぶか):テーマ(何を学ぶか):情報通信技術と社会・倫理(続き) 内 容:AI・ロボットの浸透と職業生活, ベーシックインカム, ICT と持続可能性などについて説明します. 教科書・指定図書:遠山暁・村田潔・ほか『現代経営情報論』有斐閣の第11章
試 験	実施しない

〔科目名〕 商業実習				〔単位数〕 4 単位		〔科目区分〕 教 職 課 程	
〔担当者〕 砂場 孝一郎 Sunaba kouichirou		〔オフィス・アワー〕 時間 ： 授業実施日の授業終了後の時間 場所 ： 5階の非常勤講師控え室 又は ロビー				〔授業の方法〕 講義 ・ 演習	
〔科目の概要〕 この科目は、商業科教師を育成する教職課程の選択科目である。受講する学生には、教科「商業」の高校教師を目指すことを前提として学ぶことを希望する。授業内容は、高校生を商業に関する「将来のスペシャリスト」に育成するという観点から、専門分野の基礎的・基本的な知識・技術及び技能を身につけるものである。 受講する学生は、社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観などを身に付け、豊かな人間性の涵養に配慮した教育を行うため、新たに求められる教育内容・方法を理解しなければならない。文部科学省は2022年度から、年次進行で改訂：新高等学校学習指導要領を発表・実施している。前年度はその3年目であり、完成年度であった。文部科学省は改訂の基本的なねらいとして、①生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成する ②これまでの教育内容を維持し、その質を更に高め、確かな学力を育成する ③道德教育の充実等により、豊かな心や健やかな体を育成する の3点を示した。商業教育もこのことを基本にし、育成する資質・能力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を実施できる、将来の教師を育成しなければならない。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 高等学校商業科教員免許取得のためには、本科目の履修が有効となる。商業高校生の進路は、かつての就職中心から、近年では進学希望者も増加し、多様化してきている。 このような商業教育を学ぶ高校生の変容を考慮した上で、商業教育の意義や教科・学科の特色、指導上の留意点などについて、教育現場での現実の課題や問題点を意識しながら、実践的な理解を深めることにより、商業科教師としての基本的な資質を身につけるために学ぶ科目である。 また、教育改革や働き方改革などにより、学校教育は日々変遷してきていることから、教育関連法規をもとに、商業教育の主要な動向等について理解するために、この科目を学ぶ必要性がある。							
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 当該科目は、教職課程の選択科目である。 商業科教師を目指す受講生には、次のことが求められるので、この科目の目標とする。 ① 商業科教師には、商業を学ぶ高校生に、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身につけさせ、ビジネスの諸活動を主体的合理的に行うための指導力を育成することが求められる。以上のことが中間目標である。 ② 次に商業科教師には、商業を学ぶ高校生に、望ましい人間関係・社会性・倫理観などの豊かな人間性、さらには、主体性、自己責任の観念、独創性などを育成し、人としての資質を育成することが求められる。そのために、商業科教師には、企業経営に対する正しい考え方や、ビジネスの諸活動における豊かなコミュニケーション能力を資質として有することが求められる。 以上の資質を身につけることが、この科目の最終目標となる。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 学生の「授業評価」は、担当教員の総括の基本であり、真摯に向き合いたいと思っている。 学生がこの科目で学んだことが、「中等教科教育法 商業Ⅰ・商業Ⅱ」での授業等に生かされることが、この科目の目標の一つでもある。 また、学生の「授業評価」は、授業担当者が成長するための基礎・基本ともなるので、これまで指摘をいただいた授業評価内容を真摯に受け止め、授業改善に生かしていきたい。	
〔教科書〕 購入は不要である。必要に応じて、商業、経済に関する資料、新学習指導要領等の資料を配賦する。	
〔指定図書〕 「21世紀の商業教育を創造する」 日本商業教育学会 編 実教出版	
〔参考書〕 な し	
〔前提科目〕 な し	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 学修の課題は、高校教師としての資質を身に付けることである。 評価の方法は、(1)課題のレポート提出(1回予定) (2)筆記小テスト(授業内で2度予定) (3)プレゼンテーションの実施 (4)授業の履修・態度を通して、学習意欲の有無、 目標への到達度を判断し、絶対評価(100点法)で行う。※ 因みに、授業に出席さえすれば単位認定される、とは限らない。※それを本学の定める評定方法に従い、総合的な評定(A・B・C・D・F)を行う。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 文部科学省は、高校の授業を2022年度から年次進行で実施する改訂:新学習指導要領を公表し、実施している。 そのために、この授業の担当教員として、学生に講義する教材を十分に吟味して、同要領の商業教育の方向性を示し、指導技術や指導方法などを身に付けるための授業を展開したい。学生には、意欲を持ち、真剣に授業に望んで欲しい。特に、板書した内容をノートに記述し、学生自らも板書技術を磨いて欲しい。因みに、教員採用試験の解答方法は、鉛筆での記述形式である。 なお、学生が授業を欠席する際の担当教員への連絡は、原則として不要とする。	
〔実務経歴〕 該 当 な し	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか) : オリエンテーション 内 容 : 講義の目的と内容、進め方、評価の方法について 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第 2 回	テーマ(何を学ぶか) : 売買取引の方法 (関連法規と商慣習) 内 容 : 売買条件 (商品の品質・数量・価格) 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による

第3回	テーマ(何を学ぶか) : 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内 容 : 売買条件 (受け渡し時期・受け渡し場所・代金の受払方法) 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第4回	テーマ(何を学ぶか) : 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内 容 : 売買契約の締結(見積もり・注文)、はんこ(印鑑)の実務 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第5回	テーマ(何を学ぶか) : 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内 容 : 売買契約の履行(商品の受け渡し・代金決済・電子記録債権・債務) 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第6回	テーマ(何を学ぶか) : 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内 容 : 代金決済(通貨・小切手・約束手形・その他)、約束手形の制度廃止 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第7回	テーマ(何を学ぶか) : ビジネス計算の基礎 内 容 : 度量衡・外国貨幣・割合、外国為替の基本 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第8回	テーマ(何を学ぶか) : ビジネス計算の基礎 内 容 : 割り増し・割引・商品の数量と代金の計算・消費税の仕組み 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第9回	テーマ(何を学ぶか) : ビジネス計算の基礎 内 容 : 仕入原価の計算・販売価格の計算・売価の計算・売買損益の計算 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第10回	テーマ(何を学ぶか) : ビジネス計算の基礎 内 容 : 利息の計算・日数計算 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第11回	テーマ(何を学ぶか) : ビジネスとコミュニケーション 内 容 : ビジネスに対する心構え 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第12回	テーマ(何を学ぶか) : ビジネスとコミュニケーション 内 容 : 学生によるプレゼンテーション(経営経済の時事的なことを主なテーマとする) 学生が作成のレジュメ、資料による
第13回	テーマ(何を学ぶか) : ビジネスとコミュニケーション 内 容 : 学生によるプレゼンテーション(経営経済の時事的なことを主なテーマとする) 学生が作成のレジュメ、資料による
第14回	テーマ(何を学ぶか) : ビジネスとコミュニケーション 内 容 : 基礎的なビジネスマナー(挨拶・身だしなみ・話の聞き方・話し方・電話応対) 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第15回	テーマ(何を学ぶか) : ビジネスとコミュニケーション 内 容 : 人間関係(ヒューマン・リレーション)の重要性 筆記小テスト (1回目) 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第16回	テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎 内 容 : 企業の形態と経営組織(1) 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による

第17回	テーマ(何を学ぶか)：企業活動の基礎 内 容：企業の形態と経営組織(2) 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第18回	テーマ(何を学ぶか)：企業活動の基礎 内 容：学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする) 学生が作成のレジュメ、資料による
第19回	テーマ(何を学ぶか)：企業活動の基礎 内 容：学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする) 学生が作成のレジュメ、資料による
第20回	テーマ(何を学ぶか)：企業活動の基礎 内 容：企業活動と税 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第21回	テーマ(何を学ぶか)：企業活動の基礎 内 容：雇 用(働き方改革・労働関連法令) 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第22回	テーマ(何を学ぶか)：経済社会と法 内 容：経済関連法の意義と役割 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第23回	テーマ(何を学ぶか)：権利・義務と財産権 内 容：権利と義務、物権と債権 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第24回	テーマ(何を学ぶか)：権利・義務と財産権 内 容：知的財産権 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第25回	テーマ(何を学ぶか)：取引に関する法 内 容：契約と意思表示、売買契約と賃貸契約 指定図書からの資料 及び 教員作成のレジュメ、資料による
第26回	テーマ(何を学ぶか)：取引に関する法 内 容：債権の管理と回収、金融取引
第27回	テーマ(何を学ぶか)：企業の責任と法 内 容：法令遵守、紛争の予防と解決
第28回	テーマ(何を学ぶか)：企業の責任と法 内 容：消費者保護
第29回	テーマ(何を学ぶか)：商業教育の現状と課題 内 容：高等学校の生徒数減少と学校の統廃合、商業に関する学科の卒業生の進路 2022年度実施開始の新学習指導要領の概要と商業教育の方向性について
第30回	テーマ(何を学ぶか)：商業科教員になるには 内 容：商業科教員に必要な資質・能力と教員の働き方改革の現状 筆記小テスト(2回目)
試 験	授業の中で、筆記小テストを2回 実施する。 (1回目は第15回の授業の中で・2回目は第30回の授業の中で実施)。

〔科目名〕 地域企業論Ⅰ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 生田 泰亮 IKUTA Yasuaki		〔オフィス・アワー〕 時間:メールか直接アポイントメントを 場所:1305 研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 地域企業論Ⅰでは「地域と企業の基本的関係」「企業の構造と機能」「地域の産業構造と事業戦略」を理解するための基本的な概念枠組を学ぶ。また事例を紹介しながら「地域で企業を経営する」ための基礎的な知識や理論、昨今の地域と企業に関する動向を学ぶ。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 複眼的思考を身につけなければ、地域のビジネス・リーダー、コミュニティ・リーダーとして活躍することは難しい。本講義は、1年次で学んだ内容を基本としつつ、多くの選択必修科目と関連性のある「総合的な科目」「中核的な科目」とであると認識してほしい。本講義で新たな知見を得るとともに、これまで学んだ講義の復習であり、これから学ぶ講義にとっては予習となることが多々あるだろう。関連づけ、反復することで「有効な思考法」として身につく。							
〔科目の到達目標〕 地域企業論Ⅰ,Ⅱの両講義を通じて、以下のような目標とする。 (1) 地域の経済、産業、市場、企業の動向を理解するための「基礎知識」を学ぶ。 (2) 企業がおかれた社会、市場、産業などの「環境分析」ができる。 (3) 企業の経営政策、事業戦略についてのデータ分析やケース・スタディを行い「問題解決策の立案」「戦略策定」や「政策提言」ができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 大学での学びにおいて、講義はあくまでもその専門分野の初歩、イントロダクションであり、講義をきっかけにさらに自ら学習することが求められます。シラバスへの記載事項、講義中にもお伝えしている事項について、十分に理解されずに受講し、評価アンケートに回答している方が見受けられます。履修されるか否かは、シラバスをよく読み、初回の講義での説明をよく聞き、よく検討し、ご理解いただいた上で決めてください。当然のことながら、履修した以上は、しっかりと学習してください。努力せずに単位取得したいと考えている方は履修されない方がよいと思います。 受講態度の悪い学生(遅刻、欠席)、周囲の迷惑(私語等)になるような行為には厳しく対処します。 講義内容以外にも学習方法等についての相談にも応じているので、遠慮なく質問や相談してください。							
〔教科書〕 なし(配布資料)							
〔指定図書〕							
〔参考書〕							

〔前提科目〕 経営学基礎論を履修し、単位取得していること(必須)。 また、経済学、財務分析などの基礎知識も必要となります。関連する科目を履修している、あるいは今後の履修科目について計画的に考えた上で、履修することを推奨します。特に秋学期の地域企業論Ⅱを受講することも念頭に本科目を受講することを強く推奨します。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 80%以上 A 79-70% B 69-60% C 59-50% D 49%以下 F 理解度テスト (20%) 第7回講義日に実施する。 学期末の定期試験 (50%) 課題レポート (30%) ※詳細は講義内で説明する。 ※講義進行の妨げとなる行為、注意を聞き入れない場合、当該学生の本科目の評価を「F」とします。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ポイントを絞りつつも他の科目内容との関連性をしっかりと解説し、他の専門科目と関連付けて深く学ぶ動機づけになるように心がけたい。 毎回のテーマ、キーワード、問いやトピックに対して、疑問を持って講義に臨んでほしい。 秋学期の地域企業論Ⅱでは『中小企業白書』を取り上げ、統計データの分析、地域における企業経営に関するケース・スタディ等を行う。こうしたことを通じて、地域企業を取り巻く環境分析、最新の動向を読みとく力、企業経営における戦略策定、地域産業への政策提言を行う力を身につけることを期待している。そのためには、地域企業論Ⅰでの学習内容が基礎となるので、この点も留意して履修してほしい。	
〔実務経歴〕 なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ (何を学ぶか) : イントロダクション 内 容 : 講義内容と進め方について
第2回	テーマ (何を学ぶか) : 現代社会における地域と企業 (1) 現状と課題の概観 内 容 : 地域社会に与える企業の影響を考える。 なぜ、ねぶた祭りに企業は協賛するのか？
第3回	テーマ (何を学ぶか) : 現代社会における地域と企業 (2) 基本概念の整理 内 容 : 経営経済学的な「地域社会」の理解
第4回	テーマ (何を学ぶか) : 地域社会と企業 (1) 地方と都市と企業の歴史的考察 内 容 : 農村社会と近代都市、工業都市をキーワードに コミュニティとアソシエーション、2つの原理とその重層性について学ぶ
第5回	テーマ (何を学ぶか) : 地域社会と企業 (2) われわれの生活と地域、企業 内 容 : 「少子高齢化」「極点化社会」「表日本と裏日本」

第6回	テーマ（何を学ぶか）：地域社会と企業（3）現代のコミュニティ問題と地域企業 内 容：労働観、雇用機会の変容、地域社会の経済、雇用を支える企業
第7回	テーマ（何を学ぶか）：理解度テストと前半のまとめ 内 容：講義時間内に理解度テストを実施、前半の内容についてのまとめを行う。
第8回	テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（1）企業の成長・発展段階、企業の存在意義 内 容：経営体として企業を理解するための基礎的概念(企業、経営、事業)を学ぶ
第9回	テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（2）様々な企業観と企業の種類 内 容：経済学的、経営学的な企業観、制度としての企業
第10回	テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（3）利益から考える企業の存在意義 内 容：財務会計学的な企業理解、「利益」の現代的意義(マルクス、ウェーバー、ドラッカー)
第11回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（1）資源、技術、商品、市場からの環境分析 内 容：経営資源、技術、商品、市場の観点から事業を考える。
第12回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（2）産業の立地条件 内 容：M.E.ポーターの理論を中心に、競争要因、競争優位性、産業の立地条件
第13回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（3）企業間関係論、戦略的提携の視点 内 容：産業構造、組織間関係の理論（企業集団、系列化、戦略的提携）
第14回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（4）競争のない新たな市場開拓 ブルー・オーシャン戦略 内 容：競争市場から独自の新たな市場空間を目指すための諸概念
第15回	テーマ（何を学ぶか）：春学期全体の振り返りとまとめ、秋学期に向けての課題 内 容：
試 験	期末試験を行う。また、課題レポートの提出を求める。詳細については改めて説明する。

【科目名】 地域社会論Ⅰ				【単位数】 2 単位		【科目区分】 専門科目 基幹科目	
【担当者】 佐々木 てる		【オフィス・アワー】 時間:授業開始時に指示 場所:大学院棟 1201 研究室				【授業の方法】 講義	
【科目の概要】 青森県に限らず、人口減少地域においては観光を中心とした「交流人口」を増加させるための、取り組みや企画が考えられている。その中でも特に、各地方地域には独自の祭礼(都市型の祭り)が存在し、それを通じた観光客の誘致を行っている。その経済効果は地域 GDP の数%に上ることもあり、地域にとってはかかせない資源となっている。 青森市に関してはいえば、それは「ねぶた祭」であり、この祭りでは毎年約 110 万人がおとずれている。ではこうした祭りはいかに創りあげられているのか。そしてどのような歴史を持つのか。さらに地域市民はどのように祭りにかかわっているのか。これらの問いについて解説することを通じて、地域社会そのものの仕組みを理解していくこととする。 本講義では「ねぶた祭」を通じて、文化伝統の創出や継承、人口減少対策、経済効果、日常文化の再生産といった地域の様々な側面をみていくこととする。また本年度も「地域×アート」の可能性に注目する。							
【「授業科目群」・他の科目との関連付け】・【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか】 自分が住んでいる地域の「市民」としての意識を持ち、現在指摘されている問題が自分の将来、そして自分の家族にとってどのような意味を持つのか、そして問題の解決策を考えるのは学生にとって非常に重要なことである。これは学科を問わず、個々人が考える必要があるだろう。こうした理解から、この講義での具体的な内容は、将来就職した後に、新しいアイデアをより専門的で、地元根付いた視点から提出するときに役立つといえる。特に人口減少と観光を結びつけて考える上では必須の講義となる。具体的な事例を他の事例と比較しつつ、普遍的な考えを学ぶことによって、将来的にはワールドワイドな視点に生かすこともできるようになるだろう。 扱うテーマは青森県、青森市ではあるが、それを比較社会的な視点から分析することを学ぶことで、様々な応用が可能になる。なお考え方の基本は社会的な発想を基本としているため、教養科目「社会と人間」を受講していることが望ましい。							
【科目の到達目標】 最終目標:地域における問題、課題を自ら発見し、提出し、それに対する解決策を提示できるような思考を養う。特に、人口減少対策としての自分なりにチャレンジしたいことを、具体的な祭礼やイベントを通じて行う思考実験のレベルで提出していくこと。また青森県の事例のほかに、自分なりに同様の事例を見つけ、自ら分析できる力を養うこと。 中間目標:身の回りの文化や資源について「何」があるのか、もう一度気づくことができるようになること。そしてその資源を生かす思考を作ること。なお特に前半は理論的な視座を理解することが最初の目標となる。具体的には伝統の構築、文化人類学的な祭礼研究、社会的な地域社会学的な視点である。							
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関係】							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○				○		
【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】 授業のテーマ、内容について、本年度も第一回の授業の際にテーマについてしっかり説明する。そのため第一回目の授業に受講予定者は必ず出席し、講義内容を確認することを義務付ける。そのうえで受講するかどうかを決定してほしい。特に、なぜ「ねぶた祭」をあつかうのか、「ねぶた祭」の分析で何をみていくのかを話す予定である。その点をしっかり理解することが望ましい。							

また成績評価の基準をこれまで以上に分かりやすくするため、成績評価の方法についてもより詳しく説明する。	
〔教科書〕 特になし	
〔指定図書〕 特になし	
〔参考書下記の本を参照することが望ましい。〕 松本茂章 2024『地域創生は文化の現場から始まる』学芸出版社 野田邦弘 2020『アートがひらく地域のこれから』ミネルヴァ書房 宮田登／小松和彦 『増補版 青森ねぶた誌』青森市、2016 年]	
〔前提科目〕 特にないが、「社会と人間」を受講しているのが望ましい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。コメント用紙は主に 0～5 点で、評価を行う。また中間時に確認テストを行う。なお毎回出席はとる予定でいる。成績評価はこれらの得点と期末試験時の得点を合算したもので算出する。 ・コメントは授業の内容を理解しているのか、自分なりの意見を持てているのかを重視して、評価をおこなっている。また一方的な講義にならないようにしているためのものでもある。授業への感想意見なども積極的に書いてほしい。修正できることはその次の週から取り入れて、修正していく。 ・欠席が多いものは、単位取得が不可能であることを前提としている(目安として5回欠席は単位認定不可としているが、すべて出席したからといって、単位が取得できるわけではない)。 ・カードリーダーによる出席は 5～10 分程度とし、間に合わない場合は欠席もしくは遅刻となる。原則 2 回の遅刻で欠席扱いとする。カードリーダーに間に合わず、遅刻した場合は、授業終了後に申し出ることとする。 ・カードリーダーの出欠だけおこない授業を欠席したことが発覚した場合、事情聴取の上、悪質性が高いと判断されれば、当該科目は F となる可能性がある。 ・試験期間に試験を行う予定でいる。出題内容は授業内容に関するもの。主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。 ・授業に関して興味がないもの、また私語が多いものは受講する必要はないと考えている。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・試験 60%、コメント用紙 30%、中間テスト 10%として採点する。 A～F の評価は本学の規定に準ずる。	
〔実務経歴〕	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域と向き合う 内 容： ガイダンス 地域社会を考えることの意味。具体的には「ねぶた祭」を通じて何を学ぶか、講義全体のビジョンと主旨を説明する。 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)： 青森文化を考える視点：グローバル文化を考える 内 容： 地域文化論の基本的な考えを理論的な視座から学ぶ。その際に、人口減少対策としての「交流人口」「循環人口」「共生人口」の概念について学ぶ。同時にグローバルな視点を考える。 教科書・指定図書

第3回	テーマ(何を学ぶか):祭りとは何か:基本知識① 内 容:基本的な歴史を学ぶ。歴史学、民俗学的な視点からの重要性もあわせて紹介する。この回は特に講義に必要な基礎知識を紹介する。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか):祭りとは何か:基本知識② 内 容:現代的なねぶた祭の構造について学ぶ。そこに関わる人々と社会構造を考える。基本的には地域社会学的な視点から、日常生活におけるイベント等についての意味づけを考えていく。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか):地域と祭礼① 内 容:都市型の祭礼としてのねぶた祭を考える。特に理論的な視座を学ぶ。特に「地域×アート」の可能性を考える。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか):地域と祭礼② 内 容:青森ねぶた祭の日常性を考える。地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか):日常文化と祭礼③ 内 容:前回に引き続き地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。特に青森に根差した企業の活動を紹介し、地方における企業経営と職場についても考える。教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか):前半のまとめ。 内 容:前半に学んだ祭礼、地域社会学的な理論的視座、企業経営と祭りに関する視点を振り返りまとめていく。同時に前半の理解度を小テストなどによって確認する。 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動①:地域メディアとねぶた 内 容:ねぶた祭を通じた地域社会の活動例を、具体的に紹介していく。日常的な実践が、大きな企画に結びつき、地域の文化を創り上げていることを学ぶ。またねぶたを取りあげるメディアに注目する。 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動②:ねぶた祭を支える人々、組織 内 容:地域活動を考える第二回目として、ねぶた祭に主体的に関わる人々の実践例を紹介する。特に、ねぶた祭を支える企業や、組織などについて紹介していく。祭りを通じた地元産業の在り方について学ぶ。 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動③:他の祭礼との比較 内 容:前回までの地域社会の活動を踏まえた上で、青森市以外の地域の祭礼との比較を行う。特に日本各地の祭礼が、どのように地域と結びつきながら開催されているかを学ぶ。 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設①:ねぶた師という仕事 内 容:この回から地域文化が、伝統や文化財になっていくことの意義を考える。まさしく地域の特徴、伝統が創り上げられていくことの重要性を考える。特にこの会は「ねぶた師」に注目する。 教科書・指定図書

第 13 回	テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設②:造形物としてのねぶたアート 内 容:前回に引き続き、伝統や文化財について考える。この回は特にねぶた師の技術に注目し、それがいかに伝統文化として認識されているか、さらには新しいアートを生み出しているかを考える。 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設③:文化の外部化 内 容:地域文化がパッケージ化され、外部で使用される事例を考える。具体的には青森市外で行われている「ねぶた祭」を紹介しつつ、その地域活性化の可能性を行う。「祭」の地域での役割を考える。 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の未来にむけて。 内 容:講義を総括しつつ、地域社会の課題、未来、可能性について考えていく。特に具体的な事例から普遍的な思考を養うための理論的視座をいかに構築していくかを考える。 教科書・指定図書
試 験	筆記試験を実施

〔科目名〕 環境経済学				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 青山 直人 Aoyama, Naoto		〔オフィス・アワー〕 時間: 詳細は授業中にアナウンスします。 場所: 青山研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 私たちが直面している環境問題は、大気や水、土壌などの汚染問題から廃棄物問題、気候変動問題、生物多様性の減少、景観の保全などの文化的ストックの問題まで多様な領域にわたり、空間的スケールにおいては騒音や悪臭などの地域的規模の問題から、酸性雨問題などの国際的規模、地球温暖化やオゾン層の破壊など地球的規模の問題まで広域化し、深刻化しています。この多様で重層な環境問題を解決するためには、(1)なぜ環境問題が発生するのか、(2)環境問題を解決するために必要なことは何か、(3)環境保全をどのようにするのか、ということを考えなければなりません。本科目では、環境問題発生メカニズム、環境政策の基礎理論、環境の価値評価をテーマとして取り上げ、環境経済学の基本的な考え方を学びます。環境問題を解決し、環境保全型社会を実現するために出来ることは何か、考えてほしいと思います。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 環境経済学を勉強するためには、市場機構を学習するミクロ経済学、外部性や公共財を学習する公共経済学の知識とその考え方が必要となります。 私たちが身近に直面している環境問題やテレビ、新聞などのニュースで取り上げられる環境問題について、問題発生原因や実施される政策を経済学的に考える力を養ってほしいと思います。開発に関わる公共事業や環境保全政策にとって大切なことの一つは、地域住民の意見や選好が反映されているかどうかということです。環境の価値を考え、地域に住む人々の意見が公共投資に反映されているかどうかを考える力を養ってほしいと思います。環境問題を解決し、環境保全型社会を実現するために出来ることは何か、考えてほしいと思います。							
〔科目の到達目標〕 ・本講義で取り上げる経済理論を理解できること ・経済理論に基づいて環境問題や環境政策を考えることができるようになること							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 ・説明の際、声量・マイクの音量に注意します。 ・板書をメモする時間を確保するため、時間的にゆとりのある授業設計をしたいと思います。							
〔教科書〕 栗山浩一、馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ 第5版』有斐閣、2024 年。 有村俊秀、日引聡著『入門 環境経済学 新版 脱炭素時代の課題と最適解』中央公論新社、2023 年。							

〔指定図書〕 植田和弘著『現代経済学入門 環境経済学』岩波書店、1996 年。 栗山浩一、柘植隆宏、庄子康著『初心者のための環境評価入門』勁草書房、2013 年。 細田衛士、横山彰著『環境経済学』有斐閣アルマ、2007 年。 諸富徹、浅野耕太、森品寿著『環境経済学講義-持続可能な発展を目指して』有斐閣、2008 年。	
〔参考書〕 R.K.ターナー/D.ピアス/I.ベイトマン著 大沼あゆみ(訳)『環境経済学入門』東洋経済新報社、2001 年。 板谷淳一、佐野博之著『コア・テキスト 公共経済学』新世社、2013 年。 日引聡、有村俊秀著『入門 環境経済学 環境問題解決へのアプローチ』中央公論新社、2002 年。	
〔前提科目〕 「経済学基礎論」「ミクロ経済学」「公共経済学」を履修済みであることが望ましい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末試験と小テストの成績を用いて総合的に評価する予定です。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 これまでにミクロ経済学、公共経済学を履修した人は関連する単元を復習するようにしてください。まだ学習した経験がない人は、テキストを一度読むことをすすめます。授業やテキストの内容でわからない箇所は質問してください。授業スケジュールは次のとおりになっています。ただし、小テストの結果(授業の理解度等)によっては変更することもあります。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回 ～ 第 2 回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 私たちが直面している環境問題を取り上げ、環境経済学の役割について取り上げます。 教科書・指定図書 (栗山・馬奈木(第1章、第 6 章 Unit22) など)
第 3 回 ～ 第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 環境問題発生メカニズム(1) 外部性と市場の失敗 内 容: なぜ環境問題が発生するのであろうか。市場機構の仕組みを学習し、外部性の問題を取り上げます。 教科書・指定図書 (栗山・馬奈木(第 2 章 Unit4)、有村・日引(第 1 章) など)
第 5 回 ～ 第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 環境問題発生メカニズム(2) 共有資源の利用と管理 内 容: 多くの人々が利用可能な資源をコモンズと呼びます。森林の劣化などのコモンズの悲劇について学習します。 教科書・指定図書 (栗山・馬奈木(第 2 章 Unit5)、植田(第 9 章) など)
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 環境問題発生メカニズム(3) 公共財とフリーライド問題 内 容: 環境は公共財としての性質を備えています。公共財供給におけるフリーライド問題を取り上げます。

	教科書・指定図書（栗山・馬奈木(第2章 Unit6)など）
第8回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(1)直接規制と市場メカニズム 内 容:伝統的な環境政策である直接規制を学習します。 教科書・指定図書（栗山・馬奈木(第3章 Unit7)、有村・日引(第2章)など）
第9回 ～ 第10回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(2)環境税 内 容:環境問題への経済学的アプローチとして、環境税を学びます。 教科書・指定図書（栗山・馬奈木(第3章 Unit8)、有村・日引(第2章)、細田・横山(第7章)、諸富他(第3章)）
第11回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(3)直接交渉による解決 内 容:直接交渉による環境問題の解決について学びます。 教科書・指定図書（栗山・馬奈木(第3章 Unit9)、有村・日引(第2、3章)、諸富他(第3章)等）
第12回 ～ 第13回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(4)排出権取引 内 容:排出権取引について学びます。 教科書・指定図書（栗山・馬奈木(第3章 Unit10)、有村・日引(第3章)、諸富他(第3章)等）
第14回 ～ 第15回	テーマ(何を学ぶか):環境の価値評価 環境の価値 内 容:環境の価値とは何か。環境の利用価値と非利用価値を考え、支払意思額と受入補償額について学習します。 教科書・指定図書（栗山・馬奈木(第5章 Unit15)、栗山他(第1、2章)など）
試 験	試験を実施。

〔科目名〕 地域経営論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 足達健夫		〔オフィス・アワー〕 時間： 後日告知する 場所： 大学院棟 1302 号室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 人口減少時代を迎えるにあたり、地域をどのような姿にしてい(経営してい)くべきかを考える。「地域を経営する」といっても、地域を構成する要素は多岐にわたり、「この方法をとれば、かならずこういう結果が出る」という方程式があるわけではない。しかし、この分野で学んでおくべき概念や考え方、制度、用語、事例はある。本科目ではなるべく網羅的に、基本的かつ重要なものをとりあげる。 講義は、現在の地方都市が直面する状況からはじまり、都市空間、交通、環境、観光などのテーマについて解説する。いずれのテーマにも共通するのは、それらが住民にとってなにを意味するかである。この「住民の視点」を、全体を貫くもうひとつのテーマとして講義を進める。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本科目の対象は地域社会に住み、地域社会をつくる担い手を想定している。ここで学ぶことは、将来、行政や地域企業で、地域に関わる仕事に取り組む際に最低限必要な考え方・知識である。「住み」、「つくる」ことは、すべての地域住民がやっていることだが、本科目の履修者は、学術的な知識に裏付けられた上で、明確な意図を持ってそれを行うことになる。							
〔科目の到達目標〕 「地域経営」が、どのような場面で、どのような考え方によってなされているかを、具体的に説明できること。それに関連するさまざまな事例に言及できること。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 その日の講義の要点をより具体的に整理できるようにした。							
〔教科書〕 特に定めない。毎回講義資料を配布する。							
〔指定図書〕 特に定めない。							
〔参考書〕 特に定めない。							
〔前提科目〕 なし。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) (1) 期末試験の点数で評価する。 (2) 公欠を除く 6 回の欠席で F 評価とし、期末試験の受験を認めない。受験しても採点しない。							

【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 講義中、学生一人ひとりに随時、質問をする。自由、柔軟な発想で考えを述べたり、わからないときは「なにがわからないか」「どうわからないか」などを考え、述べたりすることを望む。正しい答えが重要なのではなく、むしろまちがった、あるいは想定されない答え・発言が、本人と他の学生の講義の理解を深める。教員とのコミュニケーションにより、ともに講義をつくる姿勢を要望する。	
【実務経歴】 該当なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか)： 人口減少と地域社会(1) 内 容： 日本・世界における人口の傾向、合計特殊出生率と影響要因
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)： 人口減少と地域社会(2) 内 容： 人口動態の国際比較、労働との関係
第 3 回	テーマ(何を学ぶか)： 公共施設(1) 内 容： 公共施設・インフラとは、施設数の推移、自治体の財政、総合的な管理計画
第 4 回	テーマ(何を学ぶか)： 公共施設(2) 内 容： 、住民の視点と活動、インフラの外部経済性、事例
第 5 回	テーマ(何を学ぶか)： 市街地の形成(1) 内 容： 都市化、都市の誕生と成長
第 6 回	テーマ(何を学ぶか)： 市街地の形成(2) 内 容： 地域モデル、都市の構造
第 7 回	テーマ(何を学ぶか)： 市街地の形成(3) 内 容： 中心市街地の問題と活性化、コンパクトシティと市街地の誘導
第 8 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域と交通(1) 内 容： 交通と都市構造、交通と中心市街地
第 9 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域と交通(2) 内 容： 都市交通の問題、自動車交通と公共交通、歩行者環境、地域に与える影響
第 10 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域環境(1) 内 容： 環境破壊とはなにか、自然環境の価値
第 11 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域環境(2) 内 容： 積極的／消極的な層、環境保護と地域雇用、「見返りのある保護」、事例

第12回	テーマ(何を学ぶか)： 観光(1) 内 容： 観光動態、エコ・ツーリズム
第13回	テーマ(何を学ぶか)： 観光(2) 内 容： 地域資源としての世界遺産、観光形態の変化
第14回	テーマ(何を学ぶか)： 地域プロモーション(1) 内 容： フィルム・コミッション、地域イメージのコーディネート
第15回	テーマ(何を学ぶか)： 地域プロモーション(2) 内 容： 地域プロモーション、メディアの活用、事例
試 験	期末試験。試験範囲はすべての講義内容が対象。

〔科目名〕 経営演習Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 池田享誉						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 簿記・会計・財務分析 現実の企業の財務諸表から必要な情報を読み取る力を養う。							
〔演習内容〕 本演習では、大学で学んだ知識と実社会との関係を「体験」することにより、会計という学問分野に関する理解を深めてもらう。具体的には、「会計学基礎論」で学んだ複式簿記、損益計算書・貸借対照表が実社会でどのように利用されているのかを体験する。「体験」という言葉を使用するのは、実際の企業の財務諸表から、企業の現実の活動とその結果を読み取る体験をしてもらうことになるからである。 本演習で身に付けた力を簿記検定試験や各種資格試験で確認し、将来社会で活躍できるよう知識の使い方を習得してもらう。 春学期は、班ごとに実際の企業の財務諸表を使って財務分析比較を行い、その分析比較結果を発表し、議論する。 秋学期は、春学期に行った財務分析発表とその後の議論を踏まえて、修正したものを2年ゼミ生に対して発表し理解を深める。							
〔科目の到達目標〕 実際の企業の財務諸表から、企業の現実の活動とその結果を読み取れるようになること。							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 到達目標に対する達成度について、毎回のゼミでの理解度によって評価する。							
〔教科書等〕 適宜指示する。							
〔実務経歴〕 なし							
授業スケジュール							
時期	テーマと内容						
春学期	班ごとに財務分析結果の発表 1 班の発表と議論						

春学期	班ごとに財務分析結果の発表 2 班の発表と議論
春学期	班ごとに財務分析結果の発表 3 班の発表と議論
春学期	班ごとに財務分析結果の発表 4 班の発表と議論
秋学期	最新年度の決算を加えて、2 年生へお手本となる発表を行う。 1 班の発表と議論
秋学期	最新年度の決算を加えて、2 年生へお手本となる発表を行う。 2 班の発表と議論
秋学期	最新年度の決算を加えて、2 年生へお手本となる発表を行う。 3 班の発表と議論
秋学期	最新年度の決算を加えて、2 年生へお手本となる発表を行う。 4 班の発表と議論

〔科目名〕 経営演習Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 金 子 輝 雄						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 広く会計を探究する！							
〔演習内容〕 グループ活動、税務会計、租税法等の研究							
〔科目の到達目標〕 中間・・・日商簿記2級、FP3級／財務諸表が読めること 最終・・・同2級以上、ビジネス会計2級、FP2級 ／租税法のテキストを理解し、問題を見いだせること							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
〔前提条件〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） グループ活動での貢献、租税法に関するレジュメの作成、討論での発言、宿題への取り組み、行事への参加、学年末レポート等を総合評価する。							
〔教科書等〕 谷口、一高、野一色、木山著『基礎から学べる租税法＜最新版＞』弘文堂							
〔実務経歴〕 銀行業・税理士事務所							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
初回	テーマ：ガイダンス 内 容：ゼミの運営方針・班分け、経営分析について等 教科書：配布プリント 戦略的企業評価に向けて						
第2回	テーマ：経営分析 内 容：経営分析のポイントと事例キッコーマンとヤクルトの経営比較 教科書配布：配布プリント						
第3 ～ 7回	テーマ：グループ活動 内 容：分析対象業種と企業の選定、研究活動、スライドの作成、プレゼンのリハーサル。 教科書：eol データベース等						

第 8・9 回	テーマ:プレゼン 内 容:発表と質疑応答 教科書: プレゼン資料
第 10 ～ 15 回	テーマ:租税法を学ぶ 内 容:所得税法 教科書:序章及び第 2 章
第 16 ～ 20 回	テーマ:租税法を学ぶ 内 容:法人税法 教科書:第 1 章
第 21 ～ 25 回	テーマ:租税法を学ぶ 内 容:消費税法 教科書:第 3 章
第 26 ～ 27 回	テーマ:租税法を学ぶ 内 容:相続・贈与税法 教科書:第 4 章
第 28 ～ 30 回	テーマ:研究発表 内 容:各自が選んだテーマで研究報告 教科書:各自が用意したレジュメ

〔科目名〕 経営演習Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 紫関正博						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 会計制度と現代会計，企業分析の実践							
〔演習内容〕 「経営演習Ⅱ」では，「会計と財務」情報を読み解くために，先ず，伝統的な財務諸表分析の手法を整理し，企業価値評価の基本的な手法について学習する。また，「会計と財務」情報を読み解くために，現代会計の実務を学び，現代会計の基底にある会計の社会的・制度的役割に対する理解を深めていく。 演習では，企業分析，会計制度と現代会計の実務を取り扱ったテキストを輪読する。輪読の際には，分担を行い，報告の担当者は，作成したレジュメを用いて担当箇所を発表する。発表の機会を通じて，レジュメの作成や発表のスキルを向上させてほしい。 ゼミでは，輪読以外にも，企業の経営や会計に関する話題を取り上げ，簿記と会計に関する演習も時折取り入れながら進める予定です。 場合によっては，ゼミ生と相談の上で，演習内容を変更することもあります。							
〔科目の到達目標〕 企業の「会計と財務」に関する専門的知識と現代会計の実務の習得を通じて，企業の「会計と財務」情報を読み解くことを目標とする。 ①主要な財務諸表分析の手法を活用できること。 ②企業の「会計と財務」情報を読み解く上で必要となる専門的知識と主な現代会計の実務を習得すること。 ③上記のことを基に，発表やレポートの作成を行う。さらには，企業の「会計と財務」情報を読み解くこと。							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
〔前提条件〕 ・積極的にゼミに参加することが求められます。 ・日商簿記 3 級程度の知識があること。							
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） ・ゼミへの参加と貢献（質疑応答など），発表，レポート（2 回程度，そのうちの 1 回は，企業分析レポートを予定）を総合して評価する。							
〔教科書等〕 （教科書） ・松村勝弘・松本敏史・篠田朝也・西山俊一 著『新訂版 財務諸表分析入門—Excel®でわかる企業力—』，株式会社ビーケーシー，2015 年。 ・伊藤邦雄『新・現代会計入門（第 6 版）』，中央経済社，2024 年。 ※テキストは変更する場合がありますので，初回の授業で提示します。 （参考書） ・鈴木義夫・千葉修身 著『会計研究入門—“会計はお化けだ!”』，森山書店，2015 年。							
〔実務経歴〕 なし							

授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時 期	テ ー マ と 内 容
第 1 回 ～ 第 5 回	テ ー マ : 伝 統 的 な 財 務 諸 表 分 析 内 容 : 安 全 性 , 収 益 性 , 成 長 性 な ど の 財 務 諸 表 分 析 の 手 法 と 事 例
第 6 回 ～ 第 8 回	テ ー マ : 連 結 財 務 諸 表 の 分 析 内 容 : セ グ メ ン ト 情 報 , キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー 分 析
第 9 回 ～ 第 12 回	テ ー マ : 企 業 価 値 評 価 内 容 : 資 本 コ ス ト , W A C C , E V A
第 13 回 ～ 第 15 回	テ ー マ : 現 代 会 計 の 実 務 内 容 : リ ー ス 会 計 , 無 形 資 産 会 計 な ど の 代 表 的 な 現 代 会 計 の 実 務
第 16 回 ～ 第 18 回	テ ー マ : 実 務 と 制 度 内 容 : 企 業 の 会 計 実 務 と 会 計 制 度 の 関 係 性
第 19 回 ～ 第 22 回	テ ー マ : 有 価 証 券 報 告 書 内 容 : 企 業 の 有 価 証 券 報 告 書 の 構 造 と 内 容
第 23 回 ～ 第 28 回	テ ー マ : 企 業 分 析 の 実 践 内 容 : 企 業 の 「 会 計 と 財 務 」 情 報 の 分 析 と 企 業 分 析 レ ポ ー ト の 作 成
第 29 回 ～ 第 30 回	テ ー マ : 企 業 分 析 の ま と め 内 容 : 企 業 の 「 会 計 と 財 務 」 情 報 の 分 析 結 果 の 発 表 と ま と め

〔科目名〕 経営演習Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 中川宗人						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 本演習では、経営学科の履修モデル「人間と協働」に関するテーマを扱った学術文献を講読し、それを通じて自身の問題関心を深め、ゼミ論文を作成します。							
〔演習内容〕 演習を通じて、①当該テーマに関する専門知識、②社会科学的文章の読解力、③大学生にふさわしいレポート作成スキル、の習得を目指します。 毎回指定の文献を読み、内容をまとめ、授業内で報告する作業が発生します。並行して、自身の論文作成にも取り組みます。1 年を通じて計画性や高い参加意欲が求められますので、そのことをしっかり認識したうえで履修してください。なお英語文献も扱うことがあります。 この経営演習Ⅱは、「卒業研究」と合同で行います(イメージを参照)。履修者は 4 年生とも積極的にコミュニケーションする姿勢が求められます。 前期:主に文献講読の発表を行います。 後期:文献講読の発表と、個人のゼミ論文の進捗報告を並行して行います。授業以外でも個人で自分の論文に関する作業を進めていきます。							
〔科目の到達目標〕 ・現代日本の経営・経済の動向に関する基本的な知識を説明することができる ・大学生にふさわしい内容・水準のレポートを執筆することができる。 ・社会科学に関する文献を読み解くことができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 とくになしだが、「人事管理論」「マネジメント論」を履修する／していることが望ましい。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 課題の提出、授業内での発表、議論への参加などをもとに評価します。 また毎回出席を取ります。4 回以上欠席した場合は単位を認定できませんので注意してください。							
〔教科書等〕							
〔実務経歴〕							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
初回	自己紹介と発表のスケジュールを決めます。						

春学期	春学期は、主に文献講読と発表を行います。
秋学期	文献講読の発表と、個人のゼミ論文の進捗報告を並行して行います。授業以外でも個人で自分の論文に関する作業を進めていきます。
期末	6000 字程度のレポートを執筆します。

〔科目名〕 経営演習Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 長谷川美千留						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 財務(管理・分析・戦略)を学ぶ							
〔演習内容〕 経営演習Ⅱでは、経営演習Ⅰでの学びを基礎とし、財務管理と財務戦略についての知識を習得することを目的とする。							
〔科目の到達目標〕 財務分析の技術的な知識、現代の財務管理の基本的な思考を習得する。それに基づいて現代企業の経営について考察し、自らの見解を示す。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1 ○	DP2	DP3 ○	
〔前提条件〕 財務管理(2年次に受講済み)および財務戦略(3年次にこの演習と同時受講)していることが望ましい。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 報告と授業内レポート、演習への取り組み姿勢を総合的に評価する。							
〔教科書等〕 伊藤邦雄(2023)『企業価値経営 第2版』日本経済新聞出版 鳥居陽介(2017)『株式所有構造の変遷と経営財務』中央経済社							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4月から 7月	企業価値経営と財務戦略 教科書の担当箇所について、報告と議論						
9月から 12月	株式所有構造の変遷と経営財務 教科書の担当箇所について、報告と議論						
1月	企業分析 グループ報告と議論						

〔科目名〕 経営演習Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 藤沼 司						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 経営理論の具体的諸課題への適用を通じた現実への理論的接近							
〔演習内容〕 現代経営(学)が抱える課題として、①環境問題、②文化多元性の問題、③人間性の問題が挙げられます。 経営演習Ⅱでの目標は、1・2 年次で学んできた、組織論、マネジメント論、環境経営論などを基礎としつつ、上記の諸課題の中からより具体的な問題への理論的接近を試みたいと思います。 そのため 1 年を通じて、複数のテキストをみんなで輪読したいと思います。その際、各章の担当を割り振り、レジュメを作成した上で、報告してもらいます。そのことを土台にして、これまでに学んできた諸理論を具体的な諸問題に適用することで、具体的な諸問題(現実)への理論的接近の訓練を積みたいと思います。その上で年度の最後には、各自の興味・関心にしながらってレポートを提出してもらいます。 その他、例年、ゼミ合宿を年 2 回(夏と冬)実施しています。実施時期は、夏合宿は 9 月上～中旬、冬合宿は 2 月最初の土日、ということが多いです。また、他大学(7 大学)との合同ゼミ発表会(オンライン)も実施しています。こうした各種イベントの企画・運営を通じて、学んだ知識の修得を目指します。オプションとして、地域に飛び出して活動する企画運営も考えています。 その他、適宜レポートの提出を求めます。							
〔科目の到達目標〕 輪読等を通じて、さまざまな専門用語(概念)や理論を学んでいきます。そうした多様な概念や理論の意味内容、そしてそれらの使用方法を十分に理解することが 評価(C) となります。最低限の理解が 評価(D) です。 上記したそうした概念を、社会で起こっている経営上の諸問題に当てはめて考えられるようになるのが 評価(B) です。これは演習で学習した内容の例を、自分自身で探し出せるようになる、ということでもあります。 経営上の諸問題に対する答えが1つであることは、実は、全くと言っていいほど、ありません。そのような問題を経営学上の概念を用いて、多様な角度から考えたうえで、自分なりの考えを導けるようになることが 評価(A) です。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 自ら考え、自ら調べ、自ら行動する主体性							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 評価方法は以下の諸点を考慮し、総合的に判断する。以下①～③は「優先順位の高低」を意味しない。 ① 出席状況、② 演習活動への貢献度(発言、活動など)、③ 各種レポート							
〔教科書等〕 適宜、示します。							
〔実務経歴〕 該当なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							

時期	テーマと内容
4 月 ～ 8 月	・テキストの輪読 ・ケースに基づくディスカッション ・合同ゼミ合宿に向けたグループワークなど
9 月	・合同ゼミ合宿(予定)
9 月 ～ 1 月	・テキストの輪読 ・ケースに基づくディスカッション ・冬合宿に向けたグループワークなど
2 月	・冬合宿(予定) ・合同ゼミ発表会(予定) ※ 時期が変更される可能性あり。
試験	・各種レポート

〔科目名〕 経営演習Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 行本 雅						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 ビジネス・エコノミクス入門 春学期:データ分析入門 秋学期:マーケット・デザイン入門							
〔演習内容〕 春学期: ビジネスや政策立案においては、たとえば広告が売上の増加につながっているかといった、ある施策を行うことで目的に効果があるかが問題となります。これを検証するには、ランダム化比較試験やパネル・データ分析といった手法が用いられます。これらの分析手法について学びます。 秋学期: マーケティングの中心的な課題の一つは、社会に価値をもたらすような取引がうまく実現するようにすることです。しかし、現実の世界ではさまざまな理由から取引が行われなかったり、社会的に望ましくない結果がもたらされたりすることがあります。このために、企業や政府は円滑な取引を実現するためのビジネスモデルの構築や制度設計に取り組んでいます。こうしたマーケット・デザインについて現実の事例を通じて学びます。							
〔科目の到達目標〕 春学期: 因果関係を分析するための考え方を理解することと、基本的な回帰分析を適切に扱えるようになることが目標となります。 秋学期: 円滑な取引を実現するためのマーケット・デザインについて、現実の事例を通して理解することが目標となります。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3 ○	DP4	DP1 ○	DP2	DP3	
〔前提条件〕 R の使用経験があることが望ましい。 担当教員の経営演習Ⅰを履修していない場合は、市場調査論・マーケティング論Ⅱのいずれかを履修していることが望ましい。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業中のプレゼンで評価します。							
〔教科書等〕 春学期:伊藤公一朗(2017)「データ分析の力 因果関係に迫る思考法」, 光文社新書。 Kosuke Imai(2017) <i>Quantitative Social Science</i> , Princeton University Press. (「社会科学のためのデータ分析入門(上)」, 岩波書店, 2018) 秋学期:John McMillan(2003) <i>Reinventing the Bazaar</i> , Norton. (「新版 市場を創る バザールからネット取引まで」, 慶應義塾大学出版会, 2021)							

〔実務経歴〕	
なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時期	テーマと内容
春学期	テーマ:データ分析入門 内容:毎週テキストを何人かで分担して発表してもらいます。 最初に伊藤(2017)を毎週二章ずつ発表してもらいます。その後 Imai(2017)の各章を三回程度に分けて発表してもらいます。
秋学期	テーマ:マーケット・デザイン入門 内容:毎週テキストの一つの章を何人かで分担して発表してもらいます。

〔科目名〕 金融経済学Ⅱ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 山本 俊 Yamamoto Shun			〔オフィス・アワー〕原則、研究室在室時は受付。 時間:授業開始時にお伝えします。 場所:授業開始時にお伝えします。			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 金融経済学Ⅰでは、金融取引をミクロ経済学の視点に立って学修しました。一方、金融経済学Ⅱでは、金融経済学Ⅰで学んだことを踏まえつつ、金利の期間構造に関する諸仮説を学修した後に、マクロ経済学の視点に立ち、貨幣理論や金融政策の役割や限界、金融危機について学修します。その上で、金融システムの秩序維持政策について学修します。 授業では、「何故なのか」という視点を大切にしつつ、学修内容の理解を深めるため、公務員試験問題や金融系諸資格の試験問題等を練習問題として取り入れ、授業内容に準拠した復習用の確認問題を配布します。授業資料の復習や確認問題を解くことで、考え方や知識を定着させてください。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 1. 他の科目との関連付け 金融経済学Ⅱでは、マクロ経済学やミクロ経済学が常に応用されます。ここでの学修内容は 3 年次秋学期配当科目の「金融機関論」にて応用されます。 2. なぜ学ぶ必要があるのか・学んだことが何に結び付くか 新 NISA が開始されて既に 1 年が経過しています。これは個人の資産運用を支援する政策とも言え、特に、金利のある世界に住み、長期投資が可能な皆さんにとって、金融資産の保有は大きな資産を形成し得る機会となります。当然、企業においても資産保有の在り方を見直す必要性は高まっています。こうしたとき、金融政策の効果や金融秩序維持、金融危機に関する理解を深めることは、保有する資産の形成や安全性の向上に直結することは明らかであり、学ぶ意義は大きいと言えます。							
〔科目の到達目標〕 ・金融政策の目標、手段、限界を説明でき、金融政策の効果を正しく見通すことができる。 ・金融危機による弊害と金融秩序政策の意義と課題を正しく説明できる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1 ○	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 この科目を青森公立大学にて担当したことはないため、該当しません。							
〔教科書〕 金融経済学Ⅱでは教科書を使用せず、配布する授業資料に基づいて授業を進めます。 なお、授業資料の作成では、主に、下記の指定図書、参考書を参照しています。							
〔指定図書〕 内田浩史『金融〔新版〕』有斐閣、2024 年							
〔参考書〕 参考書1: 晝間文彦『金融第 4 版』新世社、2024 年 参考書2: 福田慎一『金融論市場と経済政策の有効性【新版】』有斐閣、2020 年							

〔前提科目〕 マクロ経済学、ミクロ経済学、金融経済学Ⅰ ただし、上記3科目のいずれかの単位を修得していない学生も、本科目を履修できます。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 以下の方法によって成績評価します。 ①授業内クイズ:30%(第11回目の授業内で実施予定です。理解を深められるよう授業内で解説します。) ②期末試験:70%(択一式と記述式の併用) ※評価の前提として、原則、全授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ①この授業においては、「何故なのか」という視点に立ち、理論的、実証的根拠のある解説を強く意識します。 ②前提科目の基本事項は授業内でも可能な限り補足説明するよう意識します。 ③学生が授業内容を聴き、考える時間と、学生が授業内容を整理する時間を区別するよう意識します。 ④第1回目の授業内ガイダンスにおいて、授業の進め方や評価方法などについて補足説明します。 ⑤学生には、他の受講生を意識した高い受講マナーを期待します。	
〔実務経歴〕 特に、なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、金融経済学Ⅰの復習(1) 内 容: 金利の期間構造の理論に関する学修に備え、債券の利回りについて復習します。債券と対比させつつ、株価決定の理論についても復習します。 参考書1の5章
第2回	テーマ(何を学ぶか): 金融経済学Ⅰの復習(2) 内 容: 金利の期間構造の理論に関する学修に備え、金融市場における裁定取引について復習します。 指定図書の9章
第3回	テーマ(何を学ぶか): 民間銀行の利鞘 内 容: 民間銀行、特に、いわゆる地域銀行の金融仲介業務における利潤の源泉ともいえる利鞘について、金利の期間構造の理論と関連させて学修します。 指定図書の8章と13章
第4回	テーマ(何を学ぶか): 金利の期間構造の理論 内 容: 金利の期間構造の理論には大きく3つの仮説があり、その各々について学修します。その上で、イールドカーブを導出し、その見方についても学修します。 参考書1の5章
第5回	テーマ(何を学ぶか): 民間銀行の機能と取り付け騒ぎ 内 容: 民間銀行の基本的な機能を学びつつ、信用創造の意義について学修します。また、高校生の何気ない会話が金融機関を危機においやったという事例を取り上げ、民間銀行の機能に由来する問題として、取り付け騒ぎについて学修します。 指定図書の8章と13章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 中央銀行の役割 内 容: 次回以降に学修する金融政策の担い手たる中央銀行の役割について学修します。 指定図書の12章と14章、参考書2の11章
第7回	テーマ(何を学ぶか): 貨幣の理論 内 容: マクロ経済学でも学修した貨幣需給に焦点をあて、貨幣の諸理論を学修します。 指定図書の12章、参考書2の10章

第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 伝統的な金融政策と金融政策の有効性 内 容: マクロ経済学で学修した IS-LM 分析に基づいて金融政策の有効性を確認します。ここで重要なのは、金融政策の有効性がどのような場合に限定的となるのかということや、政策変数をどのように決定するのか(裁量的かルールに則るのか)ということです。特に、ルールについては通貨量や金利操作の視点から考えてみましょう。 指定図書の 12 章、参考書 2 の 12 章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 金融政策の目的、最終目標、手段 内 容: 第 8 回の学修内容を踏まえ、金融政策の目的や最終目標、様々な手段について学修します。その上で、我が国の政策金利の水準の推移を確認し、政策金利がゼロに近づいた場合に取得する金融政策について考えてみましょう。 指定図書の 12 章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 非伝統的金融政策 内 容: 第 9 回の学修内容を踏まえ、1999 年以降に見られる非伝統的金融政策の仕組みや効果について学修します。 指定図書の 12 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 資産バブルと金融危機 内 容: 我が国において 1980 年代後半から 90 年代初頭にかけて見られた資産バブル、1990 年代後半に顕在化した金融危機、米国において 2000 年代半ばに見られた住宅バブルと世界金融危機が経済に与えた影響やそこでの対策について学修します。 指定図書の 13 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 金融秩序を維持するためのプルーデンス政策 内 容: 金融秩序を脅かすような問題(取り付け騒ぎなど)に対し、予防的な(事前の)プルーデンス政策と、問題発生後の損失の最小化に向けた(事後的な)プルーデンス政策があり、それらの意義と課題について学修します。 第 11 回目の授業では、第 10 回目までの内容についてクイズ及び解説を実施します。 指定図書の 14 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 事前のプルーデンス政策 内 容: 第 11 回目の学修を踏まえ、事前のプルーデンス政策である「参入・業務分野規制」や「自己資本比率規制」について学修します。 指定図書の 14 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 事後のプルーデンス政策 内 容: 第 11 回目の学修を踏まえ、事後のプルーデンス政策である「救済・合併」や「預金保険制度」について学修します。 指定図書の 14 章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): これからの金融 内 容: これまでの学修内容が当てはまりにくいような新たな変化が金融の世界で見られ始めています。ここでは、特に、「ダイベストメント」や「ソーシャルファイナンス」について学修します。 指定図書の終章
試 験	期末試験(主として択一式で、記述問題もある)を実施します。

〔科目名〕 地域経済学				〔単位数〕 4 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 樺 克裕 KAMBA, Katsuhiko			〔オフィス・アワー〕 授業開始後にお知らせします。			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 21世紀に入り、経済はグローバル化しました。企業は国境を超えて活動し、様々な国で作られた商品が日本国内で流通する時代になりました。そのような中で、日本企業はアメリカやヨーロッパ諸国のような先進国の企業だけでなく、中国や韓国、インド等の新興国の企業とも激しい競争を繰り広げており、日本企業を取り巻く環境は一段と厳しくなっています。 一方で、日本国内では、人口減少社会を迎え、その中でも人口と企業が集中する東京等の都市部と、人口の流出に歯止めがかからず地域経済が衰退しつつある青森県のような地方部の経済的な格差が深刻な社会問題となっています。様々な規制緩和により、大企業が提供する低価格な商品、サービスを全国どこでも享受できるようになった一方で、地方の老舗企業の倒産も目立っています。 また、日本の各地域の経済を詳細にみると、モータリゼーションや立地規制の緩和等により伝統的な商店街の多くは疲弊し、空き店舗が目立っています。グローバル経済の影響を受け、中小製造業も円高の進展や下請け関係の解消等厳しい状況にあり、地方に誘致した大企業の工場も数年で移転、閉鎖することも珍しくない状況にあります。 このように、地域経済は、日本国内の経済だけでなく、世界経済と密接に繋がっています。この科目では、世界経済、日本経済の最新の現状分析と人口移動、地価、都市規模、立地等に関する理論分析を組み合わせ、地域経済に対する理解を深めることを目的とします。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 みなさんが既に学んできたミクロ経済学、マクロ経済学等では、物事を単純化して考えてきたと思います。しかし、実際に各地域の経済を考える時には、地域の特性(気候、人口、地理的条件、インフラの整備状況…)を無視して考えることはできません。地域経済をより深く理解するため、地域経済学の授業では、地域の実情を考慮しながら、地域経済を分析する視点を提示していきます。 学生の皆さんは、いずれ社会人として地域経済の担い手となります。その際、この授業内容が少しでも役立つようになればと願っています。							
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 中間目標:世界経済、日本経済、地域経済の現状について理解すること 最終目標:経済学的視点を持って地域経済の様々な問題を分析できるようになること。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 綺麗な板書を心掛けます。							
〔教科書〕 なし。授業は配布するレジュメに沿って進行します。							
〔指定図書〕 佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状〔新版〕』有斐閣ステュディア 有斐閣 2023 年							

〔参考書〕 浅田義久・山鹿久木 『入門都市経済学』 ミネルヴァ書房 2023 年 土地総合研究所編 山崎福寿・中川雅之著『経済学で考える 人口減少時代の住宅土地問題』 東洋経済新報社 2020 年 金本良嗣・藤原 徹『都市経済学(第2版)＜プログレッシブ経済学シリーズ＞』東洋経済新報社 2016 年 高橋孝明『都市経済学』 有斐閣ブックス 有斐閣 2012 年	
〔前提科目〕 ミクロ経済学・マクロ経済学	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 中間試験と期末試験で評価します。詳細は第 1 回目の授業で発表します。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 地域の経済活動に関心をもつために、新聞やニュースをチェックすることを推奨します。	
〔実務経歴〕 旧通産省での実務経験を活かし、世界経済・日本経済の最新の現状分析とより理解を深めるための理論分析を組み合わせ、地域経済に対する理解を深める授業です。	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか):地域経済学とは？ 内 容:世界経済と日本経済と地域経済の関連性
第2回	テーマ(何を学ぶか):地域経済の現状 内 容:本格的に地域経済学を学ぶ前に、地域経済の現状を俯瞰する。
第3回	テーマ(何を学ぶか):経済のグローバル化と地域経済(1) 内 容:経済のグローバル化が日本経済に与える影響
第4回	テーマ(何を学ぶか):経済のグローバル化と地域経済(2) 内 容:グローバル化が地域経済に与える影響
第5回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済(1) 内 容:経済政策の種類と地域経済への影響
第6回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済(2) 内 容:過去の経済政策(経済対策)と地域経済
第7回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済への波及効果(1) 内 容:セイの法則と有効需要の原理
第8回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済への波及効果(2) 内 容:需要モデルと供給モデル
第9回	テーマ(何を学ぶか):産業連関分析(1) 内 容:産業連関表の導出

第 10 回	テーマ(何を学ぶか):産業連関分析(2) 内 容:産業連関表と経済波及効果
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):日本の企業経営と地域経済(1) 内 容:日本の企業経営の現状
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):日本の企業経営と地域経済(2) 内 容:地域の中小企業の現状
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):日本の労働市場と地域経済(1) 内 容:労働市場の概説
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):日本の労働市場と地域経済(2) 内 容:労働市場の地域間格差
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):日本の財政と地域経済 内 容:財政制度の概要
第 16 回	テーマ(何を学ぶか):人口移動(1) 内 容:地域間人口移動の現状
第 17 回	テーマ(何を学ぶか):人口移動(2) 内 容:地域間人口移動の理論
第 18 回	テーマ(何を学ぶか):集積の経済 内 容:集積の経済モデル
第 19 回	テーマ(何を学ぶか):土地利用分析(1) 内 容:農地の土地利用分析
第 20 回	テーマ(何を学ぶか):土地利用分析(2) 内 容:都市の土地利用分析
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):住宅市場(1) 内 容:日本の住宅市場
第 22 回	テーマ(何を学ぶか):住宅市場(2) 内 容:住宅価格・家賃・地価・地代のモデル分析
第 23 回	テーマ(何を学ぶか):都市システムモデルと最適都市規模(1) 内 容:システムとしての都市

第 24 回	テーマ(何を学ぶか):都市システムモデルと最適都市規模(2) 内 容:都市規模決定の理論モデル
第 25 回	テーマ(何を学ぶか):企業立地(1) 内 容:工業立地の分析
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):企業立地(2) 内 容:商業立地の分析
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):コロナ禍の地域経済への影響 内 容:人口移動、リモートワーク、オフィス移転等の地域経済への影響
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):地方財政の理論 内 容:公共財の供給、課税ゲーム
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):交通サービス(1) 内 容:経路選択
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):交通サービス(2) 内 容:交通サービスと混雑の影響
試 験	定期試験を実施する。

〔科目名〕 産業組織論				〔単位数〕 4 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 橋本 悟		〔オフィス・アワー〕 時間:初回の授業で提示する 場所:初回の授業で提示する			〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 産業組織論とは、応用ミクロ経済学であり、産業間の関係、企業間の関係、政府と企業の関係など幅広い分野を含んでいる。授業では、ミクロ経済学の学習をベースとした基礎編と、より実務的・政策的な視点からの応用編に分けて学習する。また、マクロ経済学の経済成長などをベースとして研究開発やイノベーションの重要性も学習する予定である。 目標とする到達レベルは以下の通り。 1. 企業の立場から利潤拡大の戦略を考えることができる。 2. 政府が行う産業政策の意味が理解できる。 前半は、基本的にはミクロ経済学の復習をしながら、企業活動、市場構造、産業構造を見ていく。後半は、具体的な産業を取り上げて、競争状況、産業政策、グローバル化などを見ていく。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 企業戦略や産業政策などをはじめとした社会のさまざまな事象に対して、経済学的な視点から考える力を身につけることができるようになる。また、需要サイドと供給サイドの視点から市場を見ることができるようになる。 将来的には、企業に就職して具体的な企業戦略を考える際や、市場均衡・マーケットメカニズム・環境を分析する際に役に立つと思われる。さらに、様々な社会の問題に対して、経済学的な視点から問題解決を行う力が身につくと思われる。 なお、ミクロ経済学、マクロ経済学、日本経済などの科目と関連する。							
〔科目の到達目標〕 1. 企業の立場から利潤拡大などの企業戦略を考えることができる。 2. 政府が行う産業政策や競争政策の意味が理解できる。 3. 企業サイド(供給サイド)と消費者サイド(需要サイド)の両サイドから市場・産業を見ることができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2	DP3 ○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 第1回のレジュメを除いて、原則としてレジュメの配布は行わない。各自で Google Classroom から PDF データのレジュメをダウンロードし、さらにプリントアウトして使用して欲しい。第1回目の授業で詳細を説明する。							
〔教科書〕 指定はしない。毎回レジュメを使って授業をする。レジュメに書き込む形で授業を進めるので、しっかりと書き込みながら学習することを強く勧める。また、試験の際には、そのレジュメを使って勉強することになると思われる。							
〔指定図書〕 授業内容に興味を持った場合や、理解が不十分な場合は読むことをお勧める。 青木玲子・大橋弘監訳『企業と経済学』日本評論社、2023 (原著:Luis M. B. Cabral, Introduction to Industrial Organization (Second Edition), The MIT Press, 2017)							
〔参考書〕 1) 青木玲子・大橋弘監訳『企業と経済学』日本評論社、2023							

(原著:Luis M. B. Cabral, Introduction to Industrial Organization (Second Edition), The MIT Press, 2017) 2)長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社、1998 3)井手秀樹・鳥居昭夫・竹中康治『入門・産業組織』有斐閣、2010 4)小田切宏之『競争政策論(第2版)』日本評論社、2017 5)ネリス・パーカー『ビジネス・エコノミクス原理(第2版)』(訳岩本・小野)ピアソンエドケーション、2009 6)橘川武郎・平野創・板垣暁『日本の産業と企業』有斐閣、2014 7)David M. Kreps, Microeconomics for Managers (Second Edition), Princeton University Press, 2019 8)草薙真一・橋本悟『インフラレジリエンス(仮)』中央経済社、2025(4月下旬出版予定)	
【前提科目】 マイクロ経済学とマクロ経済学の知識があることが望ましい。	
【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等) ・定期試験(小テスト等を含む)60% ・宿題 40% ・裁量点(授業への貢献度、熱心さなども考慮する)	
【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 基本的なレジメを配り、その内容に基づいて授業を行う。授業ではできるだけ現実と結び付けて説明をする予定なので、頑張って理解するように心掛けてほしい。また、以下の要領で予習と復習をしてほしい。 (予習) 1. 新聞やニュースを読んだり見たりして、経済活動や企業活動に詳しくなること。 2. ミクロ経済学、マクロ経済学の基本的なテキストを読み直しておくこと。 (復習) 3. レジメを読み直し、重要な語句を覚える。重要な理論はその導出過程も確認する。 4. レジメに演習問題がある場合は、それを解く。 5. 理解が不十分な場合は、参考文献の該当箇所を読むこと。	
【実務経歴】 なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか):ガイダンス、産業組織論とは。 内 容:産業組織論の概要 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジメを配布する)
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):ミクロ経済学の復習1 内 容:市場理論(完全競争市場と不完全競争市場) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジメを配布する)
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):ミクロ経済学の復習2 内 容:企業理論(利潤最大化、費用の概念、規模の経済など) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジメを配布する)
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):ミクロ経済学の復習3 内 容:企業理論(規模の経済、組織、日本型経営システム) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジメを配布する)
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場1 内 容:独占市場の行動(日効率性、マークアップ原理、屈折需要曲線) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジメを配布する)

第6回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場2 内 容:複占市場(クールノー・ナッシュ均衡、シュタッケルベルグ均衡、ベルトラン均衡) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第7回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場3 内 容:ゲーム理論1(ナッシュ均衡、マクシミン・ミニマックス均衡) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第8回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場4 内 容:ゲーム理論2(混合戦略、ゲームの木) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第9回	テーマ(何を学ぶか):独占・寡占市場5 内 容:差別価格戦略(グループ別価格差別、二部料金制度など) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第10回	テーマ(何を学ぶか):市場構造1 内 容:参入障壁、参入・退出規制など 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第11回	テーマ(何を学ぶか):市場構造2 内 容:垂直統合、水平統合、参入阻止行動 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第12回	テーマ(何を学ぶか):市場構造3 内 容:市場の失敗と政府の政策(外部性、自然独占) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第13回	テーマ(何を学ぶか):市場構造4 内 容:市場の失敗(公共財、情報の経済学) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第14回	テーマ(何を学ぶか):企業のレジリエンス 内 容:レジリエンスの意義・重要性、企業と業界のレジリエンスの現状 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第15回	テーマ(何を学ぶか):これまでの復習(小テスト) 内 容:第1回から第14回までの復習 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第16回	テーマ(何を学ぶか):産業分析1 内 容:自動車産業、電力産業 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第17回	テーマ(何を学ぶか):産業分析2 内 容:通信産業、航空産業 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第18回	テーマ(何を学ぶか):産業分析3 内 容:アパレル産業 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第19回	テーマ(何を学ぶか):非価格戦略1 内 容:商品の差別化(理論と事例) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)

第 20 回	テーマ(何を学ぶか):非価格戦略2 内 容:市場の集中度、マーケットシェア、インセンティブ戦略 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):技術革新と研究開発 内 容:技術革新のインセンティブ 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 22 回	テーマ(何を学ぶか):規制と競争1 内 容:規制の根拠(外部性など)と規制政策 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 23 回	テーマ(何を学ぶか):規制と競争2 内 容:自然独占産業における規制改革 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 24 回	テーマ(何を学ぶか):ネットワーク経済1 内 容:ネットワーク効果(バンドワゴン効果)、スタンダード、バーゲニングパワー 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 25 回	テーマ(何を学ぶか):ネットワーク経済2 内 容:ネットワーク外部性と企業間競争 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):ネットワーク経済3 内 容:知的財産権保護と競争政策 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):ネットワーク経済4 内 容:情報管理と AI 活用 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):技術進歩と経済成長1 内 容:経済成長の源泉と経済成長理論(ハロッド=ドーマー、新古典派成長理論) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):技術進歩と経済成長2 内 容:技術進歩の重要性(内生的経済成長理論) 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):総復習(小テスト) 内 容:第 16 回から第 29 回までの総復習・問題演習 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
試 験	筆記試験

〔科目名〕 実証経済分析				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 小寺 俊樹		〔オフィス・アワー〕 時間： 授業終了後 場所： 教室				〔授業の方法〕 講義および実習	
〔科目の概要〕 実証経済分析は、2年生の「計量経済学」に続き、計量経済学について学ぶ科目です。 計量経済学を修得することにより、観察されたデータを用いてミクロ経済学やマクロ経済学の経済理論について検討できるだけでなく、データを利用して因果関係を調査し政策の効果を計測することができます。この科目では、これまで学んだ統計学や計量経済学の知識を踏まえて、観察データを使って因果関係を推定する手法を修得することを目指し、重回帰分析、操作変数法、パネルデータ分析等について学びます。計量経済学を修得するためには、実際に分析してみることも重要なため、講義に加えて gretl 等の分析ソフトを使った実習も行っていきます。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 実証経済分析は、経済学科の専門科目です。この科目は計量経済学の手法について学ぶことから、2 年生で学んだ「統計学」、「計量経済学」と関連します。 データを分析することが、ビジネスの多くの場面で活用されてきています。企業で働くことを目指す学生は、計量経済学を修得しているとよいでしょう。また、計量経済学の手法により政策の効果を計測できることは、エビデンスによる政策決定を行っていくための重要な要素です。公務員への就職を希望している学生も、計量経済学の手法を身につけておくといよいでしょう。							
〔科目の到達目標〕 中間目標： 重回帰分析や操作変数法といった計量経済学の分析手法について理解し、分析ソフトを使用して分析できるようになることです。 最終目標： 政策の効果について自ら分析し、分析結果を説明できるようになることです。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 この授業では実証分析に関する理論の学習だけでなく、gretl を利用した実習による分析手法の修得を行えることが、学生の授業評価における授業の優れた点として挙げられていました。							
〔教科書〕 田中隆一(2015)『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』有斐閣							
〔指定図書〕 加藤久和(2019)『やさしい計量経済学 プログラミングなしで身につける実証分析』オーム社							

〔参考書〕 西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮(2019)『計量経済学』有斐閣	
〔前提科目〕 統計学、計量経済学を履修済みであることを望みます。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 実習や講義において、練習問題や課題を複数回提出してもらいます。 複数回の練習問題や課題(70点)と期末課題(30点)の合計点を下の基準で評価します。 A 80%以上、B 70%以上 80%未満、C 60%以上 70%未満、D 50%以上 60%未満、F 50%未満	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 計量経済学を修得するためには、実際に分析してみることが大切ですので、積極的に取り組んでください。	
〔実務経歴〕 製造業での実務経験	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、計量経済学の基本 内 容: 単回帰分析の復習 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』第 5 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 重回帰分析(1) 内 容: 重回帰モデル 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』第 6 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 重回帰分析(2) 内 容: 重回帰モデルによる政策効果の分析 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』第 7 章
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 重回帰分析(3) 内 容: 不均一分散 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』第 7 章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 操作変数法(1) 内 容: 内生性の問題、操作変数のモデル 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』第 8 章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 操作変数法(2) 内 容: 操作変数のモデル 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』第 8 章

第7回	テーマ(何を学ぶか): 操作変数法(3) 内 容: 2段階最小2乗法 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』第8章
第8回	テーマ(何を学ぶか): 質的選択モデル(1) 内 容: プロビットモデル、ロジットモデル 教科書・指定図書『やさしい計量経済学 プログラミングなしで身につける実証分析』第5章
第9回	テーマ(何を学ぶか): 質的選択モデル(2) 内 容: 順序プロビットモデル 教科書・指定図書『やさしい計量経済学 プログラミングなしで身につける実証分析』第5章
第10回	テーマ(何を学ぶか): 質的選択モデル(3) 内 容: 多項ロジットモデル 教科書・指定図書『やさしい計量経済学 プログラミングなしで身につける実証分析』第5章
第11回	テーマ(何を学ぶか): パネルデータ分析(1) 内 容: 差の差の推定 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』第9章
第12回	テーマ(何を学ぶか): パネルデータ分析(2) 内 容: 固定効果モデル 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』第9章
第13回	テーマ(何を学ぶか): パネルデータ分析(3) 内 容: 変量効果モデル 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』第9章
第14回	テーマ(何を学ぶか): マッチング法 内 容: マッチング法 教科書・指定図書『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』第10章
第15回	テーマ(何を学ぶか): まとめ 内 容: 授業のまとめ 教科書・指定図書
試 験	期末試験は実施しません。

〔科目名〕 ファイナンス理論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 山本 俊 Yamamoto Shun			〔オフィス・アワー〕原則、研究室在室時は受付。 時間:授業開始時にお伝えします。 場所:授業開始時にお伝えします。			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 ファイナンス理論では、金融経済学Ⅰで学修したポートフォリオ理論の基礎をもとに、証券市場における証券の価格決定の理論や、証券等の取引から派生する金融商品の価格決定の仕組みを学修します。本科目はファイナンス理論であるため、理論の学修を中心としつつも、実際にどのように応用されているのかという、実践的な視点も取り入れます。 授業では、「何故なのか」という視点を大切にしつつ、学修内容の理解を深めるため、金融系諸資格の試験問題等を練習問題として取り入れ、授業内容に準拠した復習用の確認問題を配布します。授業資料の復習や確認問題を解くことで、考え方や知識を定着させてください。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 1. 他の科目との関連付け ファイナンス理論の第4回から第9日までは、金融経済学Ⅰでの学修をもとにしつつ、統計学の知識や考え方をを用いて、理論を深めていきます。本科目の第10回から13回までに学修する金派生商品の取引では、ミクロ経済学(裁定など)の考え方を応用します。 2. なぜ学ぶ必要があるのか・学んだことが何に結び付くか 証券市場における全ての投資家が最適行動をした場合、市場において証券価格がどのように形成されるのかという理解は、金融機関はもちろん企業や個人の投資家にとっても、合理的な投資意思決定をする上で不可欠です。こうした理解を通じて、企業人や個人として、資産運用の視野を広げることにつながります。							
〔科目の到達目標〕 ・証券市場における証券価格の決定の仕組みを説明でき、それをもとに証券やポートフォリオを評価できる。 ・金融派生商品の仕組みを理解し、それらが果たす役割を説明できる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1 ○	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 この科目を青森公立大学にて担当したことはないため、該当しません。							
〔教科書〕 金融経済学Ⅱでは教科書を使用せず、配布する授業資料に基づいて授業を進めます。 なお、授業資料の作成では、主に、下記の参考書を参照しています。							
〔指定図書〕 なし							
〔参考書〕 参考書1: ツヴィ・ボディ、ロバート・C・マートン『現代ファイナンス論』（原著第2版）ピアソン桐原、2011 年 参考書2: 内田浩史『金融〔新版〕』有斐閣、2024 年 参考書3: 榊原茂樹、青山護、浅野幸弘『証券投資論』日本経済新聞社、1998 年 参考書4: 小林孝雄、芹田敏夫『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』日本経済新聞社、2009 年							

参考書5:伊藤敬介、萩島誠治、諏訪部貴嗣『新・証券投資論Ⅱ実務篇』日本経済新聞社、2009年	
〔前提科目〕 マクロ経済学、ミクロ経済学、金融経済学Ⅰ ただし、上記3科目のいずれかの単位を修得していない学生も、本科目を履修できます。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 以下の方法によって成績評価します。 ①授業内クイズ:30%(第10回目の授業内で実施予定です。理解を深められるよう授業内で解説します。) ②期末試験:70%(択一式と記述式の併用) ※評価の前提として、原則、全授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ①この授業においては、「何故なのか」という視点に立ち、理論的、実証的根拠のある解説を強く意識します。 ②前提科目の基本事項は授業内でも可能な限り補足説明するよう意識します。 ③学生が授業内容を聴き、考える時間と、学生が授業内容を整理する時間を区別するよう意識します。 ④第1回目の授業内ガイダンスにおいて、授業の進め方や評価方法などについて補足説明します。 ⑤学生には、他の受講生を意識した高い受講マナーを期待します。	
〔実務経歴〕 特に、なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、証券市場を形成する金融機関 内 容:証券売買を仲介する金融機関の主な業務と、それらが形成する証券市場を学修します。 参考書2の10章
第2回	テーマ(何を学ぶか): 株式の売買注文における原則と方式 内 容:株式の売買注文について、価格と時間の視点を切り口に俯瞰し、2つの売買方式について学修します。 参考書2の9章
第3回	テーマ(何を学ぶか): 株式の評価指標と配当政策 内 容:割引キャッシュフロー法を応用した株式の評価方法や配当政策が株価に与える影響を学修します。 参考書1の9章
第4回	テーマ(何を学ぶか): ポートフォリオ選択とリスクの分散化(金融経済学Ⅰの復習) 内 容:ここでは、ポートフォリオ選択の過程、期待収益率とリスクのトレードオフ、リスクの効率的な分散化について復習します。 参考書1の12章
第5回	テーマ(何を学ぶか): 証券特性線の意味 内 容:縦軸に特定の個別株式の月次収益率、横軸に株式市場の月次収益率をとり、最小二乗法によって回帰直線(証券特性線)を引いたとき、その傾きと残差の意味を考えてみましょう。 参考書3の3章
第6回	テーマ(何を学ぶか): Capital Asset Pricing Model(CAPM) 内 容:第4回の授業で学修したポートフォリオ理論に従って、全ての投資家が合理的な最適行動をした場合、市場において証券価格はどのように形成されるのでしょうか。こうした問題意識に対する実践的な理論がCAPMであり、ここでは、第5回目の授業内容を踏まえCAPMの基本的な考え方を学修します。CAPMは1960年代にウィリアム・シャープなど複数の経済学者によって提唱された始めた理論であり、シャープは1990年にノーベル経済学賞を受賞しています。 参考書1の13章、参考書3の4章

第 7 回	テーマ(何を学ぶか):CAPM の投資管理への応用(1) 内 容:第 6 回の学修を踏まえ、個別株式の期待収益率と証券市場線上にある均衡期待収益率の差に注目し、個別株式の価格水準の適切性がどのように評価されるのかを考えてみましょう。 参考書1の 13 章、参考書3の4章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):CAPM の投資管理への応用(2) 内 容:第 6 回、第 7 回の学修を踏まえ、:CAPM を応用して、ポートフォリオのパフォーマンスを測る指標を学修します。 参考書1の 13 章、参考書3の4章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):CAPM の修正 内 容:1970 年代頃から、CAPM における証券市場線の妥当性が米国の株式データをもとに検証されるようになってきました。しかし、大きく 3 つの理由により、その妥当性は完全に証明されませんでした。その後、CAPMは様々な修正が加えられており、こうした経緯を振り返ってみましょう。 参考書1の 13 章、参考書3の4章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):金融派生商品の取引(1) 先物取引 内 容:第 9 回までの授業では、株式を中心とした原資産そのものの取引について学修しました。第 10 回以降は、原資産の取引から派生して取引される金融商品の取引について学修します。今回は、予め定められた価格で金融商品を売買することを約束する先物取引について学修します。第 10 回目の授業では、第 11 回目までの内容についてクイズ及び解説を実施します。 参考書1の 14 章、参考書3の7章、参考書4の 7 章、参考書5の 4 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):金融派生商品の取引(2) オプション取引の仕組み 内 容:金融派生商品のうち、権利を売買するオプション取引を学修します。ここでの権利は大きく「買う権利(コール)」と「売る権利(プット)」からなり、投資家はコールやプットを売ったり、買ったりするため、投資家の取引の動機を正しく理解しておくことが重要になります。 参考書1の 15 章、参考書3の7章、参考書4の 7 章、参考書5の 4 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):金融派生商品の取引(3) オプション取引におけるコールの価格決定理論 内 容:第 11 回の学修を踏まえ、コールを売買する際の価格の決定理論を学修します。ここでは、裁定取引の考え方を応用します。 参考書1の 15 章、参考書3の7章、参考書4の 7 章、参考書5の 4 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):金融派生商品の取引(4) オプション取引におけるプットの価格決定理論 内 容:第 11 回の学修を踏まえ、プットを売買する際の価格の決定理論を学修します。さらに、プットの売買価格とコールの売買価格の間に成立する関係についても考えてみましょう。 参考書1の 15 章、参考書3の7章、参考書4の 7 章、参考書5の 4 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):企業の資本構成 内 容:企業の資金調達に関する意思決定を通じて、企業がどのように価値を創造し得るのかを学修します。資本構成の違いを考慮し、企業の設備投資などの評価方法についても学修します。 参考書 1 の 6 章と16章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):ファイナンスと企業戦略 内 容:これまで学修したファイナンス理論が企業戦略上の意思決定にどのように活用されているのか、M&A、スピンオフ、リアル・オプションの視点から考えてみましょう。 参考書 1 の17章
試 験	期末試験(主として択一式で、記述問題もある)を実施します。

〔科目名〕 社会保障論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 大矢 奈美		〔オフィス・アワー〕 時間： 1 回目の授業でお知らせします 場所： 523 研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 社会保障は、近年、その重要性を高めている。この講義では、まず社会保障とは何か、その理念は何かを考える。社会保障制度は、「互いに助けあい支えあう」ことを基本としているものと考えられるが、実際の運用には資金が必要となる。これを誰がどのように負担し、誰に配分するのかは重要な問題だろう。現代社会において所得を得る手段の中心は「雇用労働」にある。失業、休職は社会保障制度による支援を必要とする場面も多く、労働市場とも密接なつながりを持つ。よって、本講義では、日本の社会保障制度を主に経済の側面から分析する。 社会保障は範囲も広く、多岐にわたっているため、残念ながら全ての分野について取り上げることは難しい。そこで個別の制度として公的年金と医療制度、および生活保護を取り扱い、それ以外の制度は授業の中で課される課題などによって受講生が独自に学ぶような仕組みにしたい。 社会保障制度は社会の変化に対応する必要もあるため、政府内でも継続して改正案が検討され、細かな変更が重ねられている。本講義では、制度に関しては 2025 年 3 月時点の現行制度のうち普遍的なものを主な対象とし、適宜、改革案などについて紹介することとする。 本講義では経済学の視点から問題を検討することを基本姿勢とするが、別の視点から問題を検討する機会を設けたい。授業の 14 回目に、青森県立保健大学・権順浩准教授に担当していただく予定である。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 現代日本人の生活は、社会保険を中心とした社会保障制度によって支えられている。たとえば公的年金制度。老齢年金だけでなく、障害年金、遺族年金もある。しかし、人口構成の変化によって給付水準の維持が難しくなり、それが制度に対する国民の不安・不信をもたらすという悪循環や、非正規雇用者など将来の低年金リスクを抱えた層の拡大の懸念など、公的年金制度が抱える問題も多い。社会保障を考えるにあたっては、労働市場、財市場、金融市場の構造を見つめる必要もある。 この講義では社会保障の問題を日本経済と結び付けて検討するというアプローチをとる。よって、1 年時次の日本経済概論およびミクロ経済学、2 年次のマクロ経済学の知識を前提とする。社会保障関連支出を考えるにあたっては、政府の財政状況に関する知識（財政学）、経済統計で扱った統計に関する知識も必要になる。また社会保障制度には雇用・生活扶助に関するものも含まれるので、労働経済学にも重なる分野でもある。							
〔科目の到達目標〕 ・社会保障制度の理念、社会保障制度の仕組みをマクロの視点から理解する ・公的年金制度などの個別制度の仕組みを理解し、これら制度の今後の在り方について自分の意見を持つ							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 提示資料の見やすさについてコメントがあった。機材トラブルへの速やかな対処を心掛けるとともに、今年度も重要な部分は、レジュメ等で配布する。							

〔教科書〕 特に指定しない。	
〔指定図書〕 ・棕野・田中『はじめての社会保障』(第 22 版)有斐閣, 2025 年 3 月末刊行見込み(たぶん) ・小塩隆士『社会保障の経済学』(第 4 版)日本評論社, 2013.	
〔参考書〕 ・清家・風神『労働経済』東洋経済新報社, 2020 年. ・西村淳編著『入門テキスト 社会保障の基礎』第 2 版、東洋経済新報社, 2022. その他、必要に応じて授業中に提示する。	
〔前提科目〕 マクロ経済学、財政学、労働経済学 など (特に財政学) 財政学、労働経済学に関連する分野については講義中に時間的に可能な範囲で説明を加える予定。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・理解度確認のための小テスト(対象:1～6回目) と 雇用保険制度についてのクイズ ・期末試験(対象:1～15 回目。筆記による)	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 受講生の理解度を見ながら進度を決定するので、シラバスの通りには進まない可能性がある(制度変更の状況にも左右される)。また、一つのテーマを複数時間に分けて講義するので、可能な限り出席すること。出席はとらないが、出席していることが基本であるから、それを前提に講義を進める。 限られた授業時間数の中では、個別の社会保障制度について詳細に説明するのは難しく、また受講生にとっても講義のみで理解することは不可能だと思う。すくなくとも制度の概要程度は、指定図書を参考に、自ら把握するよう自習すること。棕野・田中『はじめての社会保障』は制度について詳細かつ丁寧に整理されている。 社会保障は、私達の生活に深い関わりを持っている。自分なりの興味や関心を持って授業に臨んでほしい。	
〔実務経歴〕 なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 社会保障とは何か 内 容: ガイダンス、社会保障の考え方(1) 社会保障とは何か、歴史的展開 教科書・指定図書 棕野・田中(25 年 3 月末刊行予定のため、該当する章については講義で説明。以下同じ), 小塩(第 1 章)
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 社会保障の考え方(2) 日本の社会保障制度の展開と時代背景 教科書・指定図書 棕野・田中
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 社会保障の考え方(3) 政府の介入が必要とされる理由、負担と給付のあり方 教科書・指定図書 小塩(第 1 章)

第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 社会保障と国民負担・財政収支 内 容: 国民経済計算, マクロ統計からみた社会保障, 社会保障制度の実施主体 教科書・指定図書 小塩(第 2 章)
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 所得再分配に対する社会保障の役割 内 容: 日本の所得格差、再分配後の所得格差 教科書・指定図書 小塩(第 3 章)
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): ミクロ経済学の視点から考える 内 容: 労働市場と社会保障 ほか 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 社会保障制度の概要についてのまとめ 内 容: 社会保障制度の概要の確認 および クイズによる理解度の確認
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 公的年金制度 内 容: 公的年金制度の意義と体系、財政 教科書・指定図書 棕野・田中, 小塩(第 4 章)
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 公的年金制度の理念と仕組み 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 公的年金制度の抱える問題点と制度改革 教科書・指定図書 小塩(第 4～6 章)
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 医療保険制度 内 容: 医療保険制度の理念と仕組み(1) 教科書・指定図書 棕野・田中, 小塩(第 7 章)
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 医療保険制度の理念と仕組み(2) 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 医療保険制度の抱える問題点 教科書・指定図書 小塩(第 7・8 章)
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 公的扶助 内 容: 青森県立保健大学・權順浩准教授による講義 教科書・指定図書 棕野・田中
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 生活保護制度の課題 教科書・指定図書 棕野・田中, 小塩(第 10 章)
試 験	授業で扱った内容<u>全て</u>について筆記試験をおこなう

〔科目名〕 経済特殊講義Ⅲ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 堤 静 子 TSUTSUMI Shizuko			〔オフィス・アワー〕 時間:リアクションペーパーかメールで 場所:ー			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 近年、「地域づくり」や「地域活性化」といったフレーズをよく耳にするようになり、地域経済、地域産業に対する興味・関心は高まりをみせているが、地方の人口減少の影響もあり、地域経済を支えてきた産業も低迷していることも事実であり、様々な課題を抱えながらも、新たな産業振興策や地域産業の創出に関する取り組みが進められている。 本講義では、地域と産業の関わりを捉え、地域を支えている産業の現状を把握し、地域資源を活用した新たな取り組み事例を紹介し、地域資源を活かした地域力向上策や地域産業振興に向けた地域ブランドの確立等、地域住民や自治体の政策について学ぶ。また、新たな地域産業として、ビジネスの手法で地域課題を解決する多様な主体も育ってきており、まちづくりも含めた様々な取り組みについても考察する。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 地域産業を通じて地域の特性、市場を知り、地域資源の活用事例や地域産業活性化、振興のための事業活動等について具体的に学ぶことで、地域社会のあり方を考え、自分たちが暮らす地域の課題解決の方策策定や、新たな価値創出に向けた取組に関する思考力を高めることができる。							
〔科目の到達目標〕 地域産業の現状と地域と課題を理解し、自分なりの課題解決策をイメージできる。 ・地域産業を通じて地域資源の活用手法や地域産業振興のための具体的方策について修得する。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○			○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 聞き取りやすい話し方、丁寧な板書を心がける。							
〔教科書〕 毎回の講義でレジュメを配付する。							
〔指定図書〕 なし							
〔参考書〕 講義内で適宜紹介する。							
〔前提科目〕 特になし							
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 青森県はもちろんのこと、学生の皆さんそれぞれの生まれ育った地域など、様々な地域への興味・関心、理解を広げ深めてほしい。また、授業の理解度の確認や質問の受付等、次の授業へ活かすためにリアクションペーパーを毎回配付し記述し提出してもらう。							
〔実務経歴〕 該当なし							

授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか)： イントロダクション・産業とは 内 容： 授業の進め方や学修内容、評価方法などについてのイントロダクション。 産業とは何か？ 講義配付レジュメ
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域とは 内 容： 地域とは何か？地域を学ぶ意義について 講義配付レジュメ
第 3 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域の産業政策 内 容： 産業政策の変遷について 講義配付レジュメ
第 4 回	テーマ(何を学ぶか)： 経済産業政策 内 容： これからの経済産業政策について 講義配付レジュメ
第 5 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域の産業構造 内 容： 人口と産業構造の変化について 講義配付レジュメ
第 6 回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題① 内 容： 農業・林業について 講義配付レジュメ
第 7 回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題② 内 容： 水産業について 講義配付レジュメ
第 8 回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題③ 内 容： 製造業について 講義配付レジュメ
第 9 回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題④ 内 容： 交通・運輸について 講義配付レジュメ
第 10 回	テーマ(何を学ぶか)： 産業の現状と課題⑤ 内 容： 観光業について 講義配付レジュメ

第 11 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域資源の付加価値力 内 容： 地域産業振興に向けた地域ブランドの確立 講義配付レジュメ
第 12 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域資源を活用した事業事例① 内 容： ものづくりの観点から地域産業を考察する。 講義配付レジュメ
第 13 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域資源を活用した事業事例② 内 容： まちづくりの観点から地域産業を考察する。 講義配付レジュメ
第 14 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域産業モデル① 内 容： 海外地域モデル 講義配付レジュメ
第 15 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域産業モデル② 内 容： 国内地域モデル 講義配付レジュメ
試 験	期末試験を実施する。

〔科目名〕 経済演習Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 青山 直人 Aoyama, Naoto						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 環境経済学の基礎的な内容を取り上げ、環境経済学の基本としくみについて学びます。							
〔演習内容〕 私たちは、大気や水、土壌などの汚染問題から酸性雨問題、地球温暖化問題やオゾン層の破壊問題、廃棄物問題、原生林や生物多様性などの自然保護の問題、景観の保全などの文化的ストックの問題等、様々な環境問題に直面しています。なぜ、環境問題が発生するのでしょうか。考えてみましょう。 本演習では、経済演習Ⅰの内容を継続し、1. 環境問題発生の原因とメカニズム、2. 環境問題を解決するための対策、3. 環境の価値評価、4. 企業と環境問題、5. 地球環境問題と環境経済学、これらのテーマに沿って環境経済学の基本的な考え方を学びます。							
〔科目の到達目標〕 ・環境問題発生の原因と環境政策に関する経済理論を理解すること。 ・経済理論に基づいて環境問題や環境政策を考えることができるようになること。							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 「ミクロ経済学」「公共経済学」を履修済であること。「環境経済学」を履修すること。							
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 授業での報告と毎時間の提出課題をもとに総合的に評価する。							
〔教科書等〕 栗山浩一・馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ 第5版』有斐閣、2024年。 その他、配布資料。							
〔実務経歴〕 該当なし							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
授業計画を以下に示す。ただし、受講者の理解度や関心によっては、授業スケジュールやその内容を変更する場合もある。							
時期		テーマと内容					
第1回 ～ 第3回	テーマ 私たちの生活と環境 unit1 経済発展と環境問題／unit2 ごみ問題と循環型社会／unit3 地球温暖化問題						
第4回 ～ 第7回	テーマ 環境問題発生のメカニズム unit4 外部性と市場の失敗／unit5 共有資源の利用と管理／unit6 公共財とフリーライダー						

第 8 回 ～ 第 12 回	テーマ 環境政策の基礎理論 unit7 直接規制と市場メカニズム／unit8 環境税と補助金／unit9 直接交渉による解決／ unit10 排出量取引
第 13 回 ～ 第 17 回	テーマ 環境政策への応用 unit11 政策手段の選択／unit12 廃棄物政策／unit13 地球温暖化政策／ unit14 ナッジと環境政策
第 18 回 ～ 第 22 回	テーマ 環境の価値評価 unit15 環境の価値／unit16 環境評価手法1:顕示選好法／ unit17 環境評価手法2:表明選好法／unit18 費用便益分析
第 23 回 ～ 第 26 回	テーマ 企業と環境問題 unit19 企業の環境対策／unit20 企業に求められる社会的責任／unit21 企業と環境リスク／ unit22 生物多様性と生態系
第 27 回 ～ 第 30 回	テーマ 地球環境問題と環境経済学 unit23 国際貿易と環境／unit24 環境規制と技術進歩／unit25 持続可能な発展／ unit26 エネルギー経済

〔科目名〕 経済演習Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習	
〔担当者〕 大矢 奈美						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 社会保障制度を考える ・日本の現行社会保障制度を知る ・労働市場の変容が社会保障制度に何をもたらしたのか検討する							
〔演習内容〕 2年次の経済演習Ⅰでは、香取照幸(2022)『社会保障論Ⅰ』の前半をテキストとして、経済学および経済発展の過程で、社会保障がどう語られてきたのかを学び、日本の現行の社会保障制度の特徴をみた。また、それを通じて、報告資料作成、プレゼンテーションやディスカッションの方法を身につけてきた。 3年次ではこれらを踏まえた上で、現行制度の問題点を考えるとともに、日本社会や経済の維持・発展のために制度はどうあるべきかという改革の方向性を議論する。たとえば、財源確保の問題、前提となっていた社会システムの変容などの影響、それを受けた制度改革の必要性などである。社会保障制度は、労働政策をはじめとした様々な政策との兼ね合いを考えながら設計されなければならない、関連する分野は広い。したがって社会保障制度を単体でとらえることは意味がない一方で、現行制度の基本的な枠組みを知らずに改革の方向を探ることは不可能である。よって、ゼミ生には、3年次春学期の「社会保障論」の受講を推奨する。							
〔科目の到達目標〕 日本の社会保障制度について、その概要を理解し、課題を見つけ出すことができるようになる 課題に対して、自分なりの対応策を検討できるようになる							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 労働経済学、社会保障論を履修していること、あるいは履修すること。この問題について関心があること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 担当部分の報告の完成度、ディスカッションに向けた準備の程度、その内容によって評価する。							
〔教科書等〕 香取照幸(2022)『社会保障論Ⅰ』東洋経済新報社(経済演習Ⅰの続き)。 香取照幸(2021)『民主主義のための社会保障』東洋経済新報社。 参考書: 椋野・田中(2025)『はじめての社会保障(第22版)』有斐閣(出版の見込み)。							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4月～6月	2年次に使用したテキストの後半を輪読する						

7 月～11 月	香取(2021)を輪読し、日本の経済全体の枠組みの中で社会保障制度のあり方を考える
12 月以 降	各自の問題意識に従って、文献を読み、報告する

〔科目名〕 経済演習 II				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 河野秀孝						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 本演習は、卒業論文執筆準備のためのものでもあったと考えてください。まず論文の課題を設定し、論理的思考の枠組みとしてのモデルを構築してもらいます。 次に、モデルから論理的に導出された仮説の検証をどのように行うかを考えてもらいます。仮説が自分の思い込みでなく、目的とした対象の本質を浮き彫りにしているかを、どのようなデータでもって、どのような方法で、計量的に検証するかを考えてもらいます。							
〔演習内容〕 論文執筆にあたっては、まず、論文のテーマが問題であり、よく絞り込まれていることです。そして、どのような視点から論理の枠組み（モデル）を構築し、どのような方法で仮説の検証をするかを考えてもらいます。							
〔科目の到達目標〕 卒業論文の課題を設定し、論理的思考の枠組みとしてのモデルを構築ができることを目指す。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
〔前提条件〕 ミクロ経済学を履修済みであること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 成績評価は、定期的なレポートの提出とクラスでの発表に基づき、評価する。							
〔教科書等〕 資料を適宜配布。また、参考書として、 1. ハル・R・ヴァリアン著 佐藤隆三監訳『入門ミクロ経済 [原著第9版]』勁草書房、2015 年。 ISBN 978-4-326-95132-1 2. ポール・ミルグロムとジョン・ロバーツ（訳 奥野正寛 他）「組織の経済学」NTT 出版、 1997 年							
〔実務経歴〕 製造業での実務経験を活かし、私たちの生活の身近な事例を考えながら、経済の諸問題を統一的・体系的に理解・分析できるようになることを目的とします							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4月から 5月	論文のテーマ探し。具体的には、興味のある本を読み、本の要約とその感想をクラスで発表する。						

6月から 7月	興味のある本を読み、本の要約とその感想をクラスで発表する。
10月から 11月	幾つかの興味のあるテーマを探し、その中から、卒論に適したテーマを選び内容を絞り込む。
12月から 1月	論文執筆のために、絞り込まれたテーマに沿って、どのような視点から論理の枠組み（モデル）を構築し、どのような方法で仮説の検証をするかを考える。

〔科目名〕 経済演習Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 樺 克裕						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 本演習のテーマは、経済学のあらゆる分析を行う上で基礎となるミクロ経済学について、基本的なテキストを読むことで理解を深めることと、その上で教員の専門である地域経済学、財政学等の領域について理解を深めることである。							
〔演習内容〕 引き続きミクロ経済学の基本的なテキストの輪読を予定している。テキストの輪読が終わり後は、地域経済学もしくは地方財政論のテキストを1冊決めて、輪読する予定である。							
〔科目の到達目標〕 経済学の基本的な知識、技量を身につけること。発表や議論の方法を身につけること。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学を履修していることが望ましい。							
〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等) 発表内容と授業の貢献度で評価する。							
〔教科書等〕 神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社 2014 年 地域経済学、地方財政論のテキストは後日決定します。							
〔実務経歴〕 旧通産省での実務経験を活かし、消費から生産・政府の行動まで、身の回りのさまざまな出来事に 密接に関係している経済学がどのような学問かを 学ぶ授業です。							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4―5月	神取道宏『ミクロ経済学の力』の輪読						
以降	決定したテキストの輪読						

〔科目名〕 経済演習Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 木立 力						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 物価と賃金							
〔演習内容〕 年収の壁が変更され税制が歪められました。これほど注目された原因は実質賃金の低下であったと考えられます。今年度は所得税制を簡単に振り返ったあと、日本の今後の実質賃金の変化について考察します。							
〔科目の到達目標〕 過去 30 年にわたって上昇しなかった日本の物価と名目賃金について教科書を読むことで理解を深める。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
〔前提条件〕 経済演習Ⅰ、ミクロ経済学、マクロ経済学を履修済であること							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 輪読においての報告内容、議論への参加状況							
〔教科書等〕 脇田成(2024)『日本経済の故障箇所』、渡辺努(2024)『物価を考える』							
〔実務経歴〕 費用便益分析を行う研究所に勤務経験あり							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
春学期 1 回目	「年収の壁の誤解」 多くの著名な経済学者が指摘するように年収の壁を巡る政争は合理性を欠いたものでした。いかに税制を歪めたかを解説します。						
春学期 2 回目 以降	「論争の原因」 これほど年収の壁が注目された原因は 30 年ぶりの物価上昇による実質賃金低下であったと考えられます。脇田成(2024)『日本経済の故障箇所』を輪読し、日本での長期にわたる労働分配率低下、労働生産性の変化、企業貯蓄増加、海外直接投資について高齢化と関連させて理解を深めます。適宜論文などで補足解説します。						
秋学期	「物価と賃金のノルム」 日本では 1995 年頃から物価と賃金がどちらも 30 年近く大きな動きを示しませんでした。なぜ大きく動かなかったのか、これから実質賃金は上昇するのか、について渡辺努(2024)『物価を考える』を輪読し、考察します。						

〔科目名〕 経済演習 II				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 工藤 恭嗣						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 本演習では主に、競争政策の理論と実証に焦点を当て、経済学的視点から競争政策の役割と影響を探求します。受講者は、経済理論を基に競争政策が市場の効率性や消費者福祉に与え得る影響について理解を深めるとともに、事例研究を通じて経験的な分析手法についての理解も深めることを目指します。 本演習で触れる独占禁止法は、我が国の司法試験の選択科目である経済法に含まれ、社会に出てからも関わる可能性のある知識と成り得ます。本演習では、経済学的な視点のみならず法学的な視点からも、企業の行動と、それが与える市場への影響について、可能な限り取り上げます。							
〔演習内容〕 本演習で念頭に置く「競争」は、「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(昭和二十二年法律第五十四号)」(いわゆる「独占禁止法」)の第2条第4項に規定される「競争」であり、本演習で取り上げる競争政策とは、この「競争」を保護する政策になります。本演習の参加者は、経済学や経営学(経営戦略論)で扱われる競争戦略などの競争との間にあり得る相違点に留意しながら、次のとおり演習を進めます： ・各テーマについて報告担当者(各班2～4名)を決め、報告担当者はテキストの担当箇所について説明し、 ・報告者以外の参加者も事前にテキストを読んでおき、報告された内容について質問や議論をする。 以上のやり取りを通じて競争政策に関する経済理論の理解を深め、演習の成果として、特定の事例(独占禁止法違反事件や公正取引委員会が審査した企業結合案件のほか、公正取引委員会が職権探知していないもの、同委員会へ相談・申告されていないもの、同委員会への届出要件を満たさない企業結合も含む。)について経済学的に分析したレポートを作成します。							
〔科目の到達目標〕 ・競争政策に関する経済学について理解を深めること。 ・論理的思考(ロジック)と説得力ある表現方法(レトリック)の素養を養うこと。具体的には、 →競争政策に関する経済学の学習を通じて、その時点での自分の考えを整理すること(ロジック) →演習内での討論を通じて、自分の考えを他者(ここには未来の自分も含む。)が理解しやすい形で伝えること(レトリック)							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 必須の条件ではありませんが、次の3条件を満たすことが望ましいです： ・ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、経済数学の3科目を履修済み ・統計学又は計量経済学のいずれか1科目を履修済み ・産業組織論の受講							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 本演習への参加(発表、質問等)、作成したレポート等に基づき、総合的に評価します							
〔教科書等〕 (テキスト) 小田切 宏之『競争政策論[第3版]』日本評論社、2025 (参考書) ・小田切 宏之『産業組織論 ― 理論・戦略・政策を学ぶ』有斐閣、2019							

・大橋 弘『競争政策の経済学 人口減少・デジタル化・産業政策』日本経済出版社、2021 ・公正取引委員会 年次報告 (https://www.jftc.go.jp/soshiki/nenpou/) ・川濱 昇、瀬領 真悟、泉水 文雄、和久井 理子『ベーシック経済法 ― 独占禁止法入門 第5版』有斐閣、2020 ・Gunnar Niels, Helen Jenkins and James Kavanagh “Economics for Competition Lawyers, 2nd Edition,” Oxford University Press, 2016 (又は 3rd Edition (2023))	
〔実務経歴〕	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時期	テーマと内容
春学期	・競争に関する各論点・・・競争は重要か、独占禁止法における競争とそれを制限する手段の類型(排除、拘束、支配)や問題となる競争制限の程度(競争の実質的制限と公正競争阻害性)、競争を政策的に保護する理由、競争の代理人(←例えば、環境汚染と環境保護活動との関係からの類推)等 ・競争を制限する各手段に関する経済分析(単独行為、共同行為、企業結合)、および、それらの経済分析と独占禁止法上の競争制限の程度との関係
秋学期	・引き続き、各手段に関する経済分析(単独行為、共同行為、企業結合) ・経験的手法(統計学又は計量経済学)のおさらい ・レポートのテーマの選定、執筆、発表 ・そのほか、独占禁止法や競争法の実務家(公取委や(時差の問題もあるが)OECD の職員、弁護士など)とのオンライン対話も検討

〔科目名〕 経済演習 II				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 黄 年宏 コウ トシヒロ						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 経済学による経済課題の分析							
〔演習内容〕 本演習では、学生の興味・関心のある経済課題をテーマとして、経済学の知識を活かして現象の背後にある経済メカニズムを解明し、課題を分析する能力を身につけることを目指す。 具体的には、学生が自らテーマを選定する（例えば、『e スポーツ産業の成長とその可能性』（プログラミングやゲーム配信が、新たな経済活動としてどのように発展しているか）、『フードデリバリーサービスの急増と飲食業界への影響』（青森における Uber Eats や出前館などのサービスが、飲食店経営や消費者の食習慣に与える影響））。その後、問題意識を明確にして研究課題を設定する。テーマに関連する文献を調査して整理する。さらに、先行研究の分析手法（例えば、理論分析（比較静学）、実証分析（回帰分析））やデータの種類（例えば、量的調査、質的調査、横断面データ、パネルデータ）を基に、自身の研究方法を策定する。最終的には、データ分析や理論的な議論を展開、研究成果をまとめる。							
〔科目の到達目標〕 自ら興味を持つ経済課題を発見し、研究課題として設定できるようになる。 先行研究や文献の内容を整理し、経済学の基礎理論を活用して研究手法を考案できるようになる。 得られたデータを分析・考察し、論理的にまとめる力を養う。 レポートやプレゼンテーションで研究成果を的確に伝える表現力を身につける。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4	DP1	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 特になし。							
〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等) 研究に対する取り組み姿勢と演習で指導教員が総合的に評価。(100%)							
〔教科書等〕 学生の選択したテーマに合わせて適切なものを演習で指示する。							
〔実務経歴〕 該当なし。							
授業スケジュール							
時期	テーマと内容						
第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション 内 容:本演習の趣旨・進め方の説明、履修者の自己紹介と興味分野の共有						
第2回	テーマ(何を学ぶか): 文献選定&計画立案 内 容:自分が取り組みたい経済課題に関する書籍・論文を見つけ、読み進め方・討論計画を策定						
第3回	テーマ(何を学ぶか):読書・文献共有(1) 内 容:選んだ文献の要点や面白い箇所、疑問点などをグループ内で共有						
第4回	テーマ(何を学ぶか):読書・文献共有(2) 内 容:新たに得た論点・追加で調べたい論文やデータを洗い出し、研究テーマの輪郭を深める						
第5回	テーマ(何を学ぶか): 中間チェック 内 容:各文献の読解進度と理解度を確認、重要な経済学的概念や先行研究の議論を整理						
第6回	テーマ(何を学ぶか): 討論会(1) 内 容:テーマ別に小グループ討論						

第7回	テーマ(何を学ぶか):読書・文献共有(3) 内 容:参考文献を追加調査し、先行研究のアプローチや分析方法についてグループでディスカッション
第8回	テーマ(何を学ぶか):討論会(2) 内 容:研究テーマごとに仮説・課題意識を洗練させる。もし可能なら簡単なデータ検索や統計ソフトの使い方を紹介
第9回	テーマ(何を学ぶか):読書・文献共有(4) 内 容:文献で用いられている分析手法を確認
第10回	テーマ(何を学ぶか):討論会(3) 内 容:前回までの読書・議論を踏まえ、各自の研究課題と関連する論点を発表し合う
第11回	テーマ(何を学ぶか):総まとめ(1) 内 容:これまで読んだ文献の内容を改めて整理し、課題を再定義
第12回	テーマ(何を学ぶか):総まとめ(2) 内 容:グループ内で今後の分析方針や取り組みスケジュールを確認し合い、後半に備える
第13回	テーマ(何を学ぶか):討論会(4) 内 容:前半の文献読解を通じて得られた知見をまとめ、研究テーマ・仮説を明確化
第14回	テーマ(何を学ぶか):発展文献の紹介 内 容:学生同士で、興味をさらに深められる追加文献やデータソースを提案・交換
第15回	テーマ(何を学ぶか):前半振り返り 内 容:文献読解・討論の成果を共有し、後半の分析・レポート作成に向けた準備事項や課題を確認
第16回	テーマ(何を学ぶか):データ収集・整理(1) 内 容:前半で得た研究テーマや仮説に基づき、必要なデータの所在を確認
第17回	テーマ(何を学ぶか):データ収集・整理(2) 内 容:各自あるいはグループで実際にデータを収集・加工し、進捗を共有
第18回	テーマ(何を学ぶか):データ収集・整理(3) 内 容:前回のフィードバックを反映したデータセットの完成を目指す
第19回	テーマ(何を学ぶか):分析方法の確認・討論(1) 内 容:理論分析・回帰分析などの方法論を再確認し、各自の研究テーマに合った分析計画を立案
第20回	テーマ(何を学ぶか):分析作業(1) 内 容:各自の分析進捗を共有。回帰分析や比較静学等の解析を試し、途中結果を見ながら課題を共有
第21回	テーマ(何を学ぶか):分析作業(2) 内 容:前回の課題を踏まえて再分析・再モデル化
第22回	テーマ(何を学ぶか):分析結果の検討(1) 内 容:途中結果をベースに仮説との整合性や追加検証の必要性を討論
第23回	テーマ(何を学ぶか):分析結果の検討(2) 内 容:追加分析の報告や、再度取得したデータ・文献を踏まえた再検証の進捗を共有
第24回	テーマ(何を学ぶか):分析結果の検討(3) 内 容:最終的な解析結果の整理と統合
第25回	テーマ(何を学ぶか):レポートの構成・討論(1) 内 容:序論・先行研究・分析方法・結果・考察など、章立てを確認
第26回	テーマ(何を学ぶか):レポートの作成・討論(2) 内 容:各章のドラフト執筆に着手し、互いにレビュー
第27回	テーマ(何を学ぶか):レポートの作成・討論(3) 内 容:前回のレビューを反映し、結論や考察部分をさらに深める
第28回	テーマ(何を学ぶか):レポートの発表準備(1) 内 容:分析結果をプレゼンテーション用にまとめ、スライドや配布資料を作成
第29回	テーマ(何を学ぶか):レポートの発表準備(2) 内 容:簡単なリハーサルを行い、時間配分や視覚資料の改善点を最終確認
第30回	テーマ(何を学ぶか):最終発表・提出 内 容:レポートもしくは小論文を提出し、発表会形式で口頭報告を実施

〔科目名〕 経済演習Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 七宮 圭						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 統計ソフトを用いた統計分析手法の習得及び経済データの実証分析							
〔演習内容〕 経済データを分析するための統計学の初級及び中級レベルの内容の習得とソフトウェアを利用したデータ解析方法の習得、またそれらの手法を利用した研究を行います。 ①統計学の教科書の輪読 ②統計データを処理・分析するための Excel、R、gretl などの統計ソフトウェアの使い方やプログラミングの基礎とその練習 ③グループワークによる研究とその発表 ※なお、内容に関しては、参加者に応じて適宜変更します。予めご了承ください。 2024 年度の経済演習Ⅱでは、 ・福地純一郎・伊藤有希(2011)『R による計量経済分析』朝倉書店 ・星野匡郎・田中久稔・北川梨津(2023)『R による実証分析[第 2 版]』オーム社 などをもとに統計ソフトウェア R による分析手法を学んでから、個人あるいはグループでテーマを設定し、そのテーマに関連した先行研究の論文等の報告を行っています。							
〔科目の到達目標〕 以下の3つの点を到達目標とします。 ・統計分析の知識を習得すること。 ・ソフトウェアを利用したデータ解析ができるようになること。 ・他者が作成した論文等を読解できるようになること。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 特になし。 ただし、パソコンと数学は使用します(得意である必要はありません)。 また、経済データの統計分析を行う際には経済学の知識が必要となります。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 出席状況を含む授業態度、課題などへの取り組み方などにより、成績を評価します。							
〔教科書等〕 特になし。 参加者の興味を参考にしうえて、適宜紹介します。							

〔実務経歴〕	
なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時 期	テ ー マ と 内 容
春学期 および 秋学期 前半	● 統計学の教科書の輪読 ● 統計データを処理・分析するための Excel、R、gretl などの統計ソフトウェアの使い方やプログラミングの基礎とその練習
秋学期 後半	● グループワークによる研究とその発表

〔科目名〕 経済演習Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 橋本 悟						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 1)ミクロ経済学・産業組織論の知識を身につけること。 2)経済学的な視点から物事を考えること、経済現象の背景が説明できるようになること。 3)調査・研究能力を身につけて、簡単な定量分析ができるようになること。							
〔演習内容〕 前半(春学期)は、主として経済学の基本的知識の習得とデータ分析の方法を身につける。基本的には経済学の文献を輪読して、要点の整理・確認や疑問点・不明点の洗い出しなどを行う。データ分析は、政府のデータベース(e-stat など)からデータを入手して、それを加工して図表作成や簡単な計量分析を行い、新しい発見や疑問点などについて議論する。 後半(秋学期)は、Term-paper 作成や就職後のデータ分析の機会を意識して、調査・研究能力を習得すること、および、論文作成を目標とする。具体的には以下の順で学習する。 ・政府や地方自治体の HP などから適切な資料や統計データを入手する。 ・そのデータを加工して、必要な分析を行う。 ・分析結果を考察し、プレゼンテーションする。 ・分析結果をもとに Term-paper を作成する。 なお、前半、後半を通じて、議論する機会をなるべく多く作って、しっかりと議論できる能力も身につける予定である。							
〔科目の到達目標〕 1)ミクロ経済学・産業組織論の知識を十分に身につける。 2)経済学的な視点から物事を考えることができる、経済現象の背景が説明できるようになる。 3)調査・研究能力を身につけて、簡単な定量分析ができるようになる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2 ○	DP3 ○	
〔前提条件〕 ミクロ経済学とマクロ経済学の知識があることが望ましい。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業内容の理解・分析能力・プレゼン能力などを総合的に評価する。							
〔教科書等〕 使用しない							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
第 1 回	ガイダンス、自己紹介 春休みの課題の解説、経済学の知識の確認など						

第 2 回 から 第 4 回	経済学の復習と問題演習 (消費者理論・生産者理論・市場理論)
第 5 回 から 第 7 回	政府や地方自治体の HP などから適切な資料や統計データを入手する。 エクセルを用いて、データを加工して、必要な分析を行う。
第 8 回 から 第 15 回	グループごとに分析結果をプレゼンする。 プレゼンに対して議論をする。
第 16 回	ガイダンス 夏休みの課題の解説など
第 17 回 から 第 25 回	グループごとにプレゼンをする。 プレゼンに対して議論する。
第 26 回	Term Paper の書き方についてレクチャーする。
第 27 回 から 第 30 回	グループごとにプレゼンをする。 個別に Term Paper を作成する。

〔科目名〕 地域の産業Ⅱ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 (まつだ えいじ) 松田 英嗣		〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 地元金融機関出身者で現在は地域シンクタンク勤務の講師が担当します。 授業前半の 30 分程度は、日本経済新聞などの経済関連記事をもとに、経済社会の現状を理解するとともに、経済の仕組みや当該記事の意味を受講生の皆さんと考えながら、地域経済や産業を見る目を養います。 授業後半は、それぞれの地域産業を概観しながら、地域経済や産業が抱える課題をマクロの視点から学びます。 また、社会に出るにあたり、最低限抑えておくべき経済統計上の基本的な数字はもれなく授業の中で網羅します。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 社会はダイナミックに変化し続けます。現在学生の皆さんが、社会に出て数十年を職業人として過ごす中では、日々数多くの正解のない課題に直面することが想定されます。 そうした局面では、自分なりのしっかりとしたポジション取りをするための論理的な考え方が求められるはず です。 本授業では、産業・経済を切り口としながら、正解のない課題に対応するための論理的な考え方を身に付けま す							
〔科目の到達目標〕 経済系学部の卒業生として、当然に身に付けるべき能力として、日本経済新聞を自力で読む力を習得する。 ⇒読解力は社会で必ず求められます。 多様な経済ニュースに対して、自分なりの解釈ができる応用力を身に付けるとともに、青森県経済が抱える課題 を把握できる。 ⇒自分なりのポジション取りをする際に必要な力です。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○		○			
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 学生への質問や意見を求める機会が多いです。いずれも、回答の成否よりも、自分の考えを論理的に説明する 訓練だと理解下さい。							
〔教科書〕 都度、レジメを用意します。							

〔指定図書〕 ありませんが、新聞(特に日本経済新聞)を継続的に読みこんで下さい。	
〔参考書〕 日本経済新聞	
〔前提科目〕 ありませんが、経済原論(経済基礎科目)等の基本的知識を要します。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 出席状況を含む授業の取り組み姿勢 30%程度、試験成績 70%の割合で、総合的に評価します。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 自分の言葉で、積極的な発言を期待します。	
〔実務経歴〕 地域金融機関および地域シンクタンクでの経済調査	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス 内 容: 授業の進め方 日本経済新聞の読み方 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 経済の見方 I 内 容: 経済とはなにか? 経済にとって重要な視点はなにか? 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 経済の見方 II 内 容: 需要と供給を考える BtoB、BtoC、GとNとL 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 経済の見方 III 内 容: 地域産業と人口減減少(人口減少のインパクト) 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済 1 内 容: 青森県経済を俯瞰する。最新の「県民経済計算」の見方 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 青森県の産業・経済 2 内 容: ビジネスモデルを考える(小売業やりんご産業を中心に) 教科書・指定図書

第 7 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 3 内 容:農林水産業を考える(特化係数の使い方) 教科書・指定図書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 4 内 容:製造業の可能性を考える(経済波及効果の考え方) 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 5 内 容:三次産業をどうとらえるか? 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 6 内 容:観光関連産業をどうとらえるか?(なぜ、成長産業なのか?) 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 7 内 容:IT産業を考える(ITで地域課題解決を図る企業を紹介) 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 8 内 容:地域金融機関の方向性(事業領域を拡大する地域金融) 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):青森県の産業・経済 9 内 容:地方創生 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):復習・まとめ 内 容: 1～13 回の授業内容振り返り 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):復習・まとめ 内 容:1～13 回の授業内容振り返り 教科書・指定図書
試 験	

[科目名] 自然史・地理情報と地域創造				[単位数] 2 単位		[科目区分] 専門科目 展開科目	
[担当者] 三浦 英樹			[オフィス・アワー] 時間：講義後または適宜(事前のメール連絡で時間調整します) 場所：研究室(大学院棟 1203 室)			[授業の方法] 講義	
[科目の概要] 教養科目の「地球科学」や基幹専門科目の「地形地理情報論」では、自然を理解し、把握するための基本となる地形・地質学と地理空間情報学の基礎について学んだ。この講義では、これらの基礎的知識をもとに、さらに自然環境全般とその歴史に視点を広げ、自然と人間との関係はどのようにあるべきかという現代的課題について、「地域」をキーワードに、以下の観点から考えることを目指します。 ① 物理化学の限界を踏まえたうえで、自然史科学の視点で自然と人間との関係を捉えることの意味 ② 世界と日本で生じてきた様々な環境問題の内容と人間との関係 ③ 人文社会科学の視点で見た環境問題の考え方と自然科学および人間との関係 ④ 日本列島と青森県の自然環境・自然史の概要とその意義 ⑤ 青森県の自然公園・保護地域の特徴とそれらの自然史がもつ意義 ⑥ 自然と人と地域を結びつける取り組みと課題							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] これまでに学んだ地球科学、地形地質学や地理空間情報学の知識を基礎として、さらに学問分野の壁を越えて様々な視点で自然環境の価値や読み方、楽しみ方を知ることは、自然と人間との関係を考えていく上で必要な基本的知識になります。それは、持続可能な社会で人類が生き残るための社会的な課題に対する方策を検討し、地域創造への新たな発想やアイデアを生み出す源泉となるはずです。							
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] この講義では、以下の内容に到達することを目標とします。 ① 自然と人間との関係を考える上での「自然史」の意義を理解すること ② 人類が抱えてきた環境問題の内容と対応について理解し、それらの経緯に対する自分の考えを持つこと ③ 自然と人間との関係に関するこれまでの人文社会科学的な考え方の基礎について理解すること ④ 日本列島と青森県の自然環境・自然史に関する知識を習得して、その意義について理解すること ⑤ 青森県の自然公園・保護地域の知識を習得して、その意義について理解すること ⑥ 地域の自然や文化を生かした地域作りに関する基礎知識を得て、自分の考えを持つこと							
[ディプロマ・ポリシー (DP)との関係]							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 紙の配布資料が多いことが苦痛な方には、最初に確認して、今後、資料を配付しないこととしますので、第1回の講義時に申し出て下さい。なお、毎回3時間分の予習・復習のための十分な資料を準備・配布しているにもかかわらず、自習時間が1時間以内かゼロという人がほとんどであったことから、今後、知識の定着と思考の訓練を行うために、多く課して、その内容を成績評価に含めていくようにしたい。							
[教科書] ありません。各回で、必要に応じ、資料を配付します。							
[指定図書] ありません。							
[参考書] 赤坂憲雄 (2020)『民俗知は可能か』.春秋社. 石牟礼道子 (2004)『新装版 苦界浄土』.講談社文庫. 岩田修二 (2018)『統合自然地理学』.東京大学出版会. 大熊 孝 (2020)『洪水と水害をとらえなおすー自然観の転換と川の共生』.農山漁村文化協会. 小野有五 (2013)『たたかう地理学-Active Geography』.古今書院. 加藤尚武 (2000)『環境倫理学のすすめ(増補新版)』.丸善出版. 加藤尚武 (2000)『新・環境倫理学のすすめ(増補新版)』.丸善出版. 門田岳久 (2023)『宮本常一〈抵抗〉の民俗学: 地方からの叛逆』.慶應義塾大学出版会.							

清水 展・飯嶋秀治 (2020)『自前の思想 時代と社会に応答するフィールドワーク』.京都大学学術出版会.
 社団法人 全国地質調査業協会連合会・特定非営利活動法人 地質情報整備・活用機構編 (2010)『ジオパーク・マネジメント入門』. オーム社.
 菅 豊 (2013)『「新しい野の学問」の時代へ』. 農山漁村文化協会.
 高木仁三郎 (2003)『市民科学者として生きる』. 岩波新書.
 谷 誠 (2023)『矛盾の水害対策—公共事業のゆがみを川と森と人のいとなみからたどす』. 岩波新書.
 武内和彦・鷺谷いずみ・恒川篤史編著 (2001)『里山の環境学』. 東京大学出版会.
 羽生淳子・佐々木剛・福永真弓編著(2018)『やま・かわ・うみの知をつなぐ 東北における在来知と環境教育の現在』. 東海大学出版部.
 平野 勇 (2008)『ジオパーク 地質遺産の活用・オンサイトツーリズムによる地域づくり』. オーム社.
 松下和夫 (2022)『1.5℃の気候危機』. EHESC 出版局.
 松田裕之・佐藤 哲・湯本貴和編著 (2019)『ユネスコ エコパーク 地域の実践が育てる自然保護』. 京都大学学術出版会.
 村澤真保呂・牛尾洋也・宮浦富保 (2015)『里山学講義』. 晃洋書房.
 レイチェル・カーソン(青樹築一訳) (2019)『沈黙の春』. 新潮文庫.

〔前提科目〕

教養科目の「地球科学」と専門科目の「地形地理情報論」(基幹科目)を必ず先に履修して下さい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

- ① 第1回の講義で、講義全体の目的や評価方法を説明するので、履修を検討する場合も、第1回の講義には必ず出席して下さい。理由なく15回中4回以上欠席した場合は、F評価とします。出欠は、毎回、学生証を用いて機械的に行うので、学生証を忘れないように注意して下さい。
- ② 授業終了後には、「リアクションペーパー」を1週間以内に提出してもらいます(授業直後の休憩時間内でも研究室1203室前の回収箱のどちらでも可)。「リアクションペーパー」には、授業を受けて感じたこと、自分が考えたこと・感想、講義内容への質問や意見などを自由に記述してください。文章は、他人が読むことを前提に、わかりやすく論理的に書いてください。おもしろい、又は重要な意見・質問は、次の授業冒頭で紹介・回答します。
- ③ 「期末レポート」は、配付資料を十分に読み込み、指示する課題に対して記述してください。一般論や他人の借り物の考えではなく、自分の中にある問題意識と照らし合わせて、自分自身の深い考えや自分が思うところ、感じた事を記述することが大切です。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

人類の歴史 700 万年の中でも、ここ 50 年程の人類を取り囲む変化は、地球規模でも、日本という国レベルでも、過去に例を見ないようなものになっています。人間活動全般に関する広範な課題は環境問題に収束し、それは、人間活動の具体的な場所である「地域」にとっても重要な意味を持ちます。なぜ、異常であることを理解するためには、自然と人間の歴史を見つめ直して、両者の関係について考えていく必要があります。また、身近に存在する自然や現象の不思議さや美しさを知ることが、自然の中で生かされている人間というものの存在を再認識する原点にもなります。この講義で何らかの刺激を受けて、地球の中で生きている人間、自然の一部である人間という立場で、自分を客観視して、そのうえで、自分たちが暮らす地域の役割を考え、地域研究に関する「良き問い」を立てられるような人になって欲しいと思います。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): (1)イントロダクション: 自然史とは何か、地域創造との関わり 内 容: 全体のイントロダクションとして、この講義の目的と内容、背景について概説します。主なキーワードは、第四紀の生態系・環境変動、自然と人間の関係、自然観、ネイチャーライティングとエコクリティシズム、地球規模の課題と地域の課題の関係、人新世、地理情報システムの活用。
第2回	テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ①日本の公害問題と地域と自然保護(1) 内 容: 日本における公害、原子力災害を中心とした環境問題の歴史とそれに対する国家、地方自治体、企業、市民の対応、地域のあり方について考えます。
第3回	テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ①日本の公害問題と地域と自然保護(2) 内 容: 日本における公害、原子力災害を中心とした環境問題の歴史とそれに対する国家、地方自治体、企業、市民の対応、地域のあり方について考えます。

第4回	テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ①日本の公害問題と地域と自然保護(3) 内 容: 日本における公害、原子力災害を中心とした環境問題の歴史とそれに対する国家、地方自治体企業、市民の対応、地域のあり方について考えます。
第5回	テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ①日本の公害問題と地域と自然保護(4) 内 容: 日本における公害、原子力災害を中心とした環境問題の歴史とそれに対する国家、地方自治体、企業、市民の対応、地域のあり方について考えます。
第6回	テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ②地球規模の環境問題とプラネタリーバウンダリーと人新世(1) 内 容: 地球規模の環境問題である気候変動、生物多様性、循環経済に関連する概念を考えます。
第7回	テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ②地球規模の環境問題とプラネタリーバウンダリーと人新世(2) 内 容: 地球規模の環境問題である気候変動、生物多様性、循環経済に関連する概念を考えます。
第8回	テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ③自然と人間の関係に関する様々な考えと国内外の様々な取り組み(1) 内 容: 風土、里山と農業遺産、文化の多様性、伝統知、在来知、生態知、自然災害、およびそれらに関する国内外の対応について概説します。
第9回	テーマ(何を学ぶか): (2)世界と日本の環境問題の歴史と内容: ③自然と人間の関係に関する様々な考えと国内外の様々な取り組み(2) 内 容: 風土、里山と農業遺産、文化の多様性、伝統知、在来知、生態知、自然災害、およびそれらに関する国内外の対応について概説します。
第10回	テーマ(何を学ぶか): (3)環境倫理学と環境経済学と環境人文学の基礎 内 容: 地球という惑星の中での自然と人間の関係を考察するための環境倫理学と環境経済学と環境人文学の基礎について概説します。
第11回	テーマ(何を学ぶか): (4)日本列島と青森県の自然環境と自然史: 多様な地形・地質・土壌・気象・雪氷・海洋・植物・動物・昆虫・考古遺跡とその歴史(1) 内 容: 日本列島の自然環境と自然史を理解するための第四紀地史の基礎をおさらいした上で、青森県を中心とした自然史について概説します。
第12回	テーマ(何を学ぶか): (4)日本列島と青森県の自然環境と自然史: 多様な地形・地質・土壌・気象・雪氷・海洋・植物・動物・昆虫・考古遺跡とその歴史(2) 内 容: 日本列島の自然環境と自然史を理解するための第四紀地史の基礎をおさらいした上で、青森県を中心とした自然史について概説します。
第13回	テーマ(何を学ぶか): (4)日本列島と青森県の自然環境と自然史: 多様な地形・地質・土壌・気象・雪氷・海洋・植物・動物・昆虫・考古遺跡とその歴史(3) 内 容: 日本列島の自然環境と自然史を理解するための第四紀地史の基礎をおさらいした上で、青森県を中心とした自然史について概説します。
第14回	テーマ(何を学ぶか): (5)青森県の自然公園・保護地域と自然史: ①概要、十和田・八幡平国立公園 ②津軽国定公園と世界自然遺産・白神山地、③下北半島国定公園と下北ジオパーク、④三陸復興国立公園、⑤ 青森県立自然公園 内 容: 自然公園・自然保護地域の概要と国立公園、国定公園、県立自然公園、ジオパーク、世界遺産の概要と各々の自然史について学び、その価値と意味について考えます。
第15回	テーマ(何を学ぶか): (6)様々な課題を背景とした自然と人と地域を結びつける取り組み: エコミュージアム・エコパーク・エコツーリズムの考え方、自然体験教育と地域の魅力の発見 内 容: エコミュージアム、エコパーク、エコツーリズムの事例を紹介し、地域における導入の可能性について考えます。
試 験	レポートのため筆記試験はなし

〔科目名〕 地域みらい特殊講義 II				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 柏谷 至 KASHIWAYA Itaru			〔オフィス・アワー〕 時間：授業開始前・終了後各 30 分程度 場所：非常勤講師控室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 この授業のテーマは、「エネルギーから見た地域社会論」です。 エネルギーは、私たちの生活に必要な不可欠な要素であり、エネルギーの利用形態によって地域社会のありようは大きく変化します。近年では、地球温暖化や原発事故のようなグローバルな課題だけでなく、エネルギー費用が地域外に流出することによる地域経済への影響なども問題視されるようになってきました。こうした状況のもとで、地域にあるエネルギー資源を活かし、地域に利益が残るかたちで利用する「エネルギー自立」の考え方が広まりつつあります。 青森県は、冬期間の暖房を中心にエネルギー消費量が全国より多く、特に化石燃料への依存度が高いという特徴があります。豊かな自然環境を背景に再生可能エネルギーのポテンシャルが高い一方で、地域外資本による開発事例が多く、地域社会に利益が十分に還元できていないことも課題です。 授業担当者は環境社会学者として教育・研究に従事しながら、再生可能エネルギーや省エネルギーを通じた地域活性化を目指す活動に取り組んできました。この授業では、県内外の事例を紹介しながら、地域のエネルギー自立に向けた現状と課題、将来展望を考えます。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 エネルギーというと、科学技術の問題（=いわゆる「理系」の人が考えること）と考えられがちですが、地域のエネルギーを考える際には、人々の意識から生活、組織、経済や制度・政策にわたるさまざまな側面を、トータルに考える必要があります。この授業は「特殊講義」のひとつとして、地域の社会・経済・政策に関して皆さんが今まで学んできたことを活用し、地域の未来について自ら考える機会と位置づけられます。							
〔科目の到達目標〕 最終目標： ・エネルギーの観点から地域の現状・課題を把握し、解決策を提案できるようになる 中間目標： ・エネルギーと地域社会との関係についての基本的な知識を身につける ・「エネルギー自立」の考え方とその手法を理解する ・自らが住む地域の現状や課題を、エネルギーの問題と結びつけて考えることができるようになる							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○	○	○		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 2024 年度の授業評価アンケートでいただいた意見を踏まえて講義内容を精選し、授業の進行に時間的余裕を持たせるとともに、参加者からの質問・相談に十分に応じられるようにします。							

〔教科書〕 特に指定しません。	
〔指定図書〕 特に指定しません。	
〔参考書〕 枝廣 淳子 2018『地元経済を創りなおすー分析・診断・対策』岩波書店. 藻谷 浩介・NHK 広島取材班 2013『里山資本主義ー日本経済は「安心の原理」で動く』角川書店. 田中 信一郎 2018『信州はエネルギーシフトするー環境先進国・ドイツをめざす長野県』築地書館.	
〔前提科目〕 特に指定しません。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 各回の授業では、次回の授業の予習となる課題を出します。課題の内容としては、テーマに関する短いテキストや動画を見たり、皆さんの身近なエネルギーについて調べたりして、ワークシートに記入し提出してもらう予定です。 また、毎回の授業の最後には、その日の講義内容に関する質問の時間を取ります。質問者には、質問内容とそれへの答え、質問をしてみたの感想を提出していただきます。15回の講義の中で、2回以上質問することを義務づけます。 この授業の最終評価物として、再生可能エネルギーや省エネルギーを活用して地域の課題を解決するための企画提案を、レポートとしてまとめてもらいます。15回の授業の後半は、レポート作成に向けたワークシートを作成・提出してもらいます。 これら4つの課題について、予習ワークシートの提出10点、授業中の質問20点、企画提案ワークシートの提出10点、最終レポートの内容60点で点数化します。なお、最終レポートは、(1)テーマ設定の独創性、(2)企画としての実現可能性、(3)レポートの文章力と資料活用の適切性、から評価します。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 この授業では、単にエネルギーに関する知識を伝えるだけでなく、地域の課題に取り組むことの面白さや難しさを学生に体験してもらいたいと思っています。そのため、授業方法として講義形式のほか、ワークショップや学生による企画立案・プレゼンテーションを取り入れる予定です。 受講する学生の皆さんには、授業中および授業外学習での主体的な参加を期待します。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーから地域社会を考える(イントロダクション) 内 容： エネルギー自立を目指す地域の取り組みの実例を紹介し、この授業全体のねらいを示すとともに、授業の進め方や学修内容、評価方法などについてイントロダクションを行う。
第2回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会(1)・エネルギー自立の考え方 内 容： エネルギー自立の考え方が登場してきた背景や先駆的な実践例を紹介し、エネルギー自立の基礎概念について学ぶ。

第3回	テーマ(何を学ぶか): エネルギーと地域社会(2)・風力 内 容: 代表的な再生可能エネルギーとしての風力発電の特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。
第4回	テーマ(何を学ぶか): エネルギーと地域社会(3)・太陽光と太陽熱 内 容: 代表的な再生可能エネルギーとしての太陽光発電の特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。
第5回	テーマ(何を学ぶか): エネルギーと地域社会(4)・バイオマス 内 容: 代表的な再生可能エネルギーとしてのバイオマスエネルギーの特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。
第6回	テーマ(何を学ぶか): エネルギーと地域社会(5)・省エネルギー 内 容: 代表的な省エネルギーの取り組みとして、住宅の高気密・高断熱化によって快適性と省エネルギーとを両立させる取り組みについて学ぶ。
第7回	テーマ(何を学ぶか): エネルギーと地域社会(中間まとめ) 内 容: これまでの講義を振り返りながら、エネルギーと地域社会との関わりや、再生可能エネルギー・省エネルギーを地域課題の解決に結びつける方法論を学ぶ。
第8回	テーマ(何を学ぶか): ワークショップ(1) 内 容: ワークショップを通じて、再生可能エネルギーと省エネルギーを地域課題の解決に役立てる手法を自ら体験する。
第9回	テーマ(何を学ぶか): 地域エネルギー事業の実際(1) 内 容: 地域事業の企画・立案の出発点となる地域資源の種類や規模、資源利用に当たっての制約条件について学ぶ。
第10回	テーマ(何を学ぶか): 地域エネルギー事業の実際(2) 内 容: 地域エネルギー事業を運営していく際のビジネスモデルや収益構造・コスト構造や、資金計画について学ぶ。
第11回	テーマ(何を学ぶか): 地域エネルギー事業の実際(3) 内 容: 地域エネルギー事業を運営する主体と組織形態、ステークホルダーとの関係、法的規制と政策について学ぶ。
第12回	テーマ(何を学ぶか): ワークショップ(2) 内 容: ワークショップを通じて、最終レポート作成に向けた企画のアイディア出しと相互評価を行い、エネルギーを通じた地域課題の解決を実践するためのトレーニングをする。【企画提案ワークシート提出日(予定)】
第13回	テーマ(何を学ぶか): エネルギーから見た地域社会の未来(1) 内 容: 受講者が企画立案した地域エネルギー事業プランを発表し、最終レポートに向けたブラッシュアップを図る。
第14回	テーマ(何を学ぶか): エネルギーから見た地域社会の未来(2) 内 容: 受講者が企画立案した地域エネルギー事業プランを発表し、最終レポートに向けたブラッシュアップを図る(第14回の続き)。
第15回	テーマ(何を学ぶか): エネルギーから見た地域社会の未来(3) 内 容: 前回までに発表された地域エネルギー事業プランを振り返りながら、この授業で学んできたエネルギーと地域社会との関わりについて、総括的な議論を行う。
試験	最終レポート

〔科目名〕 経営革新論Ⅰ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 生田泰亮 Ikuta Yasuaki		〔オフィス・アワー〕 時間:後ほど指示します。 場所:1305 研究室（大学院棟）				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 新たな視点や価値を見出すものとしてのイノベーションは、その実現可能性や持続可能性をも問わなくてはならない。こうした意味から「事業創成のプロセスとしてのイノベーション」を学ぶことは、やがてビジネス・リーダーとして期待されるみなさんにとって、学んでおくべき重要な内容である。 前半は、シュンペーター、ドラッカー等をもとに、イノベーション本来の意味、イノベーションが経営や経済に与える影響について講義する。中盤からは、「事業創成の理論（小林敏男『事業創成 イノベーション戦略の彼岸』有斐閣、2014 年。）」をもとに「イノベーションと事業の関係」を講義する。様々な事業での実践例をもとに、創造的な技術やアイデアが持続可能な事業として確立されるまでのプロセスを学び、真のイノベーションとは何かを考える。また、ビデオ学習により、学んだ概念やモデルの理解度を深めることとする。 なお、秋学期開講の「経営革新論Ⅱ」と大いに関連性があるので、両講義ともに受講することを強く推奨する。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 経営経済の問題を考える際に「イノベーション」は、よく耳にする言葉であるが、本講義では、イノベーションの本来の意味を理解し、現代企業の事業戦略をしっかりと学習し、戦略的発想力、戦略策定力を身につけてほしい。							
〔科目の到達目標〕 中間目標:様々な企業の事業戦略を読み解くことができる。 最終目標:事業創成のために、事業の創造から実行可能性、持続可能性までを考えることができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4	DP1 ○	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 理論の解説だけではなく、ケーススタディやビデオ学習等を行い、技術や企業の最新動向についても読み解く力を身につけてもらえるように、努めていきます。							
〔教科書〕 小林敏男『事業創成 イノベーション戦略の彼岸』有斐閣、2014 年。 ※経営革新論Ⅱでも使用する。他、適宜資料を配布する。							
〔指定図書〕 P.F.ドラッカー著、上田惇生編訳『イノベーションと企業家精神【エッセンシャル版】』ダイヤモンド社、2015 年。 C.クリステンセン著、玉田 俊平太 監修、伊豆原 弓 翻訳『イノベーションのジレンマ—技術革新が巨大企業を滅ぼすとき〔増補改訂版〕』翔泳社 2001 年。 A.ガワー、M.A.クスマノ著、小林敏男監訳『プラットフォーム・リーダーシップ—イノベーションを導く新しい経営戦略』有斐閣、2005 年。 G.A.ムーア著、川又政治訳『キャズム Ver.2 増補改訂版 新商品をブレイクさせる「超」マーケティング理論』翔泳社、2014 年。							

〔参考書〕 なし	
〔前提科目〕 経営学基礎論を履修し、単位取得していること。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 80%以上 A 79-70% B 69-60% C 59-50% D 49%以下 F 小レポート (50%) ※複数回実施する予定。詳細は講義内で説明する。 学期末の定期試験 (50%) ※無断欠席は評価の際に減点とする。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 事例においては、技術や業界の動向について取り上げることになります。専門技術や未知の分野に対して学習する基礎力が身につくについて欲しいと考えています。丁寧に説明するよう心がけますが、予習をしっかりとしてください。様々なイノベーションの事例を学び、柔軟な思考力を養って欲しいと考えています。 質問や学習相談などは遠慮なく。	
〔実務経歴〕 なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): イン트로ダクション 内 容: 講義内容と進め方について ※配布資料
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): シュンペーターのイノベーション論(1) 内 容: 経済発展と経営者、企業者の役割 ※配布資料
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): シュンペーターのイノベーション論(2) 内 容: 新結合としての5つのパターン ※配布資料
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): ドラッカーのイノベーション論(1) 内 容: イノベーションのための7つの機会 ※配布資料
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): ドラッカーのイノベーション論(2) 内 容: イノベーションと企業家精神 ※配布資料
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 事業創成の理論(1) 内 容: 教科書 第1章 古典的戦略論
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 事業創成の理論(2) 内 容: 教科書 第2章 イノベーションのジレンマ①
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 事業創成の理論(3) 内 容: 教科書 第2章 イノベーションのジレンマ②

第 9 回	テーマ(何を学ぶか): ケース・スタディ(1) 内 容: ビデオ学習を予定
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): ケース・スタディ(2) 内 容: ビデオ学習を予定
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 事業創成の理論(3) 内 容: 教科書 第 3 章 オープンイノベーションへの展開①
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 事業創成の理論(3) 内 容: 教科書 第 3 章 オープンイノベーションへの展開②
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 事業創成の理論(4) 内 容: 教科書 第 4 章 プラットフォーム・リーダーシップ①
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 事業創成の理論(4) 内 容: 教科書 第 4 章 プラットフォーム・リーダーシップ②
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 講義全体のまとめ 内 容:
試 験	筆記試験を行う(詳細は後日、指示する)

〔科目名〕 財 務 会 計 論 II				〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 専門科目 基幹科目		
〔担当者〕 金 子 輝 雄		〔オフィス・アワー〕 時間： 初回にアナウンスします 場所： 513研究室			〔授業の方法〕 講 義		
〔科目の概要〕 ～現代の会計基準を学ぶ～ キャッシュって？ 経営の状況を知る手段として会計はなくてはなりません。会計に関する情報は、マネジメントでの活用はもとより、配当額や課税所得の算定基礎となり、また証券投資における重要な情報となっています。 会計情報は簿記データを基礎としているわけですが、企業活動の進展にともない多様な取引が出現し簿記処理もますます複雑になってきます。またそれに合わせて会計基準も新設・改廃がなされています。ともあれ、現代の会計基準が見据えているものは、投資家のための「純資産簿価モデルの会計」といえるでしょう。 他方、会計の世界でも持続可能な社会(SDGs)の実現に向けて模索が続けられています。今日、従業員への給与がコストとされ、また、「人材投資」という言われ方をしますが、そもそも人間がコスト削減や投資の対象というのは奇妙な話です。つまり従来の会計は株主・投資家のための会計であり、これを改めなければなりません。「新しい付加価値会計」も提唱されています。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ・財務会計論Ⅰは簿記の背景にある会計の考え方を学びましたが、「Ⅱ」では最近公表された新しい会計基準の解説を行います。ここでの学修が、財務分析、管理会計、監査論、税務会計等へと展開していきます。 ・日商簿記検定試験2級以上の内容。そして難関とされる1級、公認会計士試験の財務会計論(短答式)・会計学(論文式)、税理士試験の財務諸表論、国税専門官採用試験の会計学の受験準備にも役立ちます。							
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 (中間目標) 日商簿記2級のリース会計や外貨換算、連結会計等をマスターする。 (最終目標) キャッシュ・フロー計算書、減損処理、退職給付会計等、アドバンストの内容をマスターする。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
○						○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 試験範囲を明確してほしいとの要望を受け、試験問題の予告をするようにしています。							
〔教科書〕 桜井久勝『財務会計講義＜最新版＞』中央経済社 ＊財務会計論Ⅰで上記テキストを購入した人はそのまま使用してください。							
〔指定図書〕 藤井・内藤・吉岡編著『フランス会計の歴史と制度』白桃書房 2024 年							

〔前提科目〕	
「会計学基礎論」	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)	
①	確認テスト (45%)
②	期末テスト (45%)
③	ミニツツペーパー(出席カード) (10%)
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕	
本学でも公認会計士試験合格者や税理士試験科目合格者が誕生している。受講者が会計プロフェッション(国税専門官等も含む)の道にチャレンジすることを期待している。	
〔実務経歴〕	
銀行業及び税理士事務所	
授業スケジュール＜目安です！＞	
第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス 内 容: 講義の進め方とキャッシュ・フロー会計の意義 利益とキャッシュの違い！ 教科書・指定図書 本シラバスおよび配布プリント
第2回	テーマ(何を学ぶか): キャッシュ・フロー計算書 内 容: キャッシュ・フロー計算の作成とその解釈 (特に直接法と間接法の違いを理解すること) キャッシュ・フロー分析で倒産予知！！ 教科書・指定図書 第5章第5節 配布プリント
第3回	テーマ(何を学ぶか): 無形固定資産の会計と減損会計 内 容: のれんとは。ソフトウェアの取り扱い。減損処理のポイント。 ブランド・ノウハウ・ロイヤルティこそ資産！ 教科書・指定図書 第8章 第2・3節
第4回	テーマ(何を学ぶか): リース会計と繰延資産 内 容: リース会計とは。繰延資産と前払費用の違いについて。 え～借り物でも資産？ 教科書・指定図書 第9章 第4節 と練習問題
第5回	テーマ(何を学ぶか): 負債会計(負債の概念と社債の会計処理) 内 容: 負債の概念と分類・評価(測定)についての基本的な考え方。社債の会計処理。 国の借金は国債、会社の借金は社債 教科書・指定図書 第10章 第1節および第5章第1～3節のうち負債に関するところ
第6回	テーマ(何を学ぶか): 引当金について 内 容: 引当金とは何か。引当金の設定要件。引当金の分類。退職給付について。 暗記すべし4つの要件！ 教科書・指定図書 第10章 第1・2節
第7回	テーマ(何を学ぶか): 退職給付会計 内 容: 退職給付見込額、退職給付債務、年金資産等と退職給付引当金の関係。資産除去債務。 公的年金と私的年金、退職一時金、退職年金の処理 教科書・指定図書 第10章 第3・4節

第8回	テーマ(何を学ぶか): 資産除去債務の会計、これまでの確認 内 容: 資産除去債務の処理と確認テストの実施 廃炉費用はいくらか? 教科書・指定図書 第10章第5節 プリント配布
第9回	テーマ(何を学ぶか): 純資産会① 内 容: 純資産の部の区分とその内容、授權資本制度と債権者保護について。 純資産と資本の違い。企業の存続と資本の維持について。 教科書・指定図書 第11章 第1節 プリント配布
第10回	テーマ(何を学ぶか): 純資産会計② 内 容: 自己株式の会計処理、配当制限および株主資本等変動計算書 配当財源と分配可能額の計算。 教科書・指定図書 第11章 第2・3節 プリント配布
第11回	テーマ(何を学ぶか): 財務諸表の作成と公表 内 容: 損益計算書の概要、包括利益計算書、損益計算の基本原則、工事契約の会計処理他。 財務諸表の体系と連結会計の必要性。 教科書・指定図書 第12章 プリント配布
第12回	テーマ(何を学ぶか): 連結財務諸表① 内 容: 連結会計の概要と連結貸借対照表における資本連結。 連結の基礎の基礎! 教科書・指定図書 第13章 第1・2節
第13回	テーマ(何を学ぶか): 連結財務諸表② 内 容: 連結損益計算書の作成と未実現利益の消去 押し込み販売も一網打尽! 教科書・指定図書 第13章 第3節
第14回	テーマ(何を学ぶか): 連結財務諸表③ 内 容: 連結第2年度以降の会計処理と総合計算問題演習。 簿記検定試験の過去問を解く。、持分法も紹介する。 教科書・指定図書 細13章 第5節および章末練習問題 プリント配布
第15回	テーマ(何を学ぶか): 外貨建取引等の換算 内 容: 外貨建取引と為替予約、在外支店・在外子会社の換算、および期末試験について予告 換算のパラドックス! 教科書・指定図書 第14章 プリント配布
定期試験	期末試験を実施する

〔科目名〕 マクロ経済学		〔単位数〕 4 単位	〔科目区分〕 専門科目 基礎科目
〔担当者〕 今 喜典	〔オフィス・アワー〕 時間： 第 1 回講義時に説明する 場所：		〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 一国全体の経済活動水準とその変動を説明するマクロ経済学の基本と日本のマクロ経済の現状を学ぶ。マクロ経済活動のメカニズムを知ることにより、生産量（GDP）、国民所得、物価、利子率、雇用、国際収支、為替レートなど、主要な経済指標が変化する仕組みを理解できる。 近年の日本経済は、リーマンショックから派生した世界金融危機（2008 年）、新型コロナウイルス感染症によるコロナ禍（2020 年）などによって大きな打撃を受け、所得の低迷、失業の増加などを経験した。1990 年代なかば以降のバブル経済崩壊から続く「失われた 30 年」といわれる長期の不況は、いまようやく回復の動きが見える状況にある。 経済変動の理由には、コロナ禍や大震災のような自然現象要因、ロシアのウクライナ侵攻のような政治要因もあるが、企業投資や家計消費など経済主体の活動自体に内在する変動要因があり、また市場経済の調整プロセス、相互連関の中にも大きな変動をもたらす要素が含まれている。 講義の一つの焦点は、銀行など金融が果たす役割の説明である。日本銀行は過去十年ほど継続してきた「異次元の金融緩和」という金融政策を 2024 年に大きく変更した。授業では、企業や家計の行動と金融の関連を説明し、資産市場の分析とあわせて金融政策の効果を検討する。 もう一つの焦点は、開放経済要因である。日本の経済は自動車などの貿易が拡大し、また企業の海外進出が増加するとともに、金融の領域でも国際化がすすみ、金融市場は世界的に一体化している。為替レート、国際収支などを扱う開放マクロ経済学は、現代経済の動きを理解するためには、不可欠である。 授業は 4 つの段階から構成される。第 1 は一国経済の生産量、物価、雇用など全体の動きを体系的かつ整合的に把握するための観察・測定の枠組みの説明である。第 2 はモノ、カネ、ヒトの市場を定式化する「基本マクロモデル」の説明である。第 3 に貿易や国際金融など海外との取引を考慮した開放経済のマクロ理論を学ぶ。最後の段階で、各国の経済成長率の格差の理由など、長期の視点からマクロ経済の変動パターンを明らかにする。			
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 マクロ経済学はミクロ経済学とならんで、経済学の体系の根幹をなしている。応用分野の「公共経済学」、「金融経済学」、「労働経済学」、「地域経済学」などの展開的な科目を学ぶ上で基本となる。 授業では国民所得、物価、失業、金利、為替レートなどの変動を説明するが、これらは日々の新聞や TV ニュースで報道される基本的な用語である。マクロ経済用語の意味と、ごく基本的なマクロ経済学を知らなければ、経済の動きを大きく見誤ることになる。社会人、企業人対象にさまざまな経済講演会が行われているが、それらの多くが「これからの景気の動き」をテーマにしていることは、マクロ経済がいかに実社会の日常の動きに深くかかわっているかを示している。マクロ経済学の理解により、経済の動きについてある程度筋道だった予測を行うことができるようになる。社会人としての日々の仕事の意味の理解、経営者の行動の分析、また地域社会の動きの認識と評価、さらに政治の場面で話題にのぼる多くの政策の議論においても、マクロ経済学の知識は欠くことができない。			
〔科目の到達目標〕 到達目標は、国民所得、物価、雇用、為替レートなどを変動させている基本的仕組みを学び、またさまざまなマクロデータの見方を学ぶことにより、日本経済の現状とこれまでの動きの理解を深めることである。			

〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学部				学科		
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕						
〔教科書〕 平口良司，稲葉大著 『マクロ経済学-入門の「一步前」から応用まで』 (第3版)、有斐閣ストゥディア、2023年						
〔指定図書〕 吉川 洋著 『現代経済学入門 マクロ経済学』 (第4版)、岩波書店、2017年						
〔参考書〕 (1) オリヴィエ・ブランシャール著 『ブランシャール マクロ経済学 上 (第2版) 基礎編』、『ブランシャール マクロ経済学 下 (第2版) 拡張編』、東洋経済新報社、2020年 (2) 福田慎一・照山博司著『マクロ経済学・入門 (第6版)』有斐閣アルマ、2023						
〔前提科目〕 経済学基礎論を履修済みであることが望ましい。						
〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等) 期末試験のほか、授業中に小テストを行う予定である。小テストを実施する回は、原則として事前に連絡する。小テスト 40 点，期末試験 60 点の合計点で評価する。						
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 受講生はマクロ理論の基本を学ぶことにより、経済活動の因果連鎖を推論する楽しみを味わってほしい。理解を深めるため理論の難解な部分をとくに丁寧に解説し、また最新の日本経済の動きをデータとともに紹介し、理論と現実の経済と関連づける。 学習において、教科書の熟読がきわめて有用である。とくに講義のあとの復習を奨励する。関心を持ったテーマについては、指定図書の関連部分を読み、理解を一層深めてほしい。授業で取り上げたマクロ経済のテーマについては、新聞やテレビのニュースも参考に、自分で考える習慣をつけてほしい。さらに一層深く学びたい学生は、若干レベルが高いが、参考図書に挑戦してほしい。						
〔実務経歴〕 公的中小企業支援機関						
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル						
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): マクロ経済学とは何か 内 容: マクロ経済学のテーマの導入、日本経済のマクロ的側面の紹介 教科書・指定図書 教科書 序章					
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): GDP の計測 (1) 内 容: 一国全体の経済の大きさを、どのように測るか。付加価値、三面等価 教科書・指定図書 教科書 第 1 章 指定図書 第 1 章					
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): GDP の計測 (2) 内 容: 実質 GDP 教科書・指定図書 教科書 第 1 章 指定図書 第 1 章					
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 物価など 内 容: 物価指数、失業、景気動向 教科書・指定図書 教科書 第 1 章 2 章 指定図書 第 1 章					

第5回	テーマ(何を学ぶか): 金融市場と貨幣 内 容: マクロ経済と金融市場、金利、銀行、信用創造、貨幣の定義 教科書・指定図書 教科書 第3章 第4章 指定図書 第3章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 中央銀行 内 容: 中央銀行の機能 貨幣と物価、金融政策の手段、非伝統的金融政策 教科書・指定図書 教科書 第4章
第7回	テーマ(何を学ぶか): 財政 内 容: 政府の予算 税制 国債 政府債務の累積 教科書・指定図書 教科書 第5章
第8回	テーマ(何を学ぶか): GDP の決まり方 (1) 内 容: 消費関数 GDP の決定 教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第2章
第9回	テーマ(何を学ぶか): GDP の決まり方 (2) 内 容: 均衡GDP の変化 乗数 教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第2章
第10回	テーマ(何を学ぶか): 投資、金利とGDP 内 容: 投資関数 貨幣市場と金利の決定 教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第4章
第11回	テーマ(何を学ぶか): IS 曲線と LM 曲線 内 容: 財市場の均衡と貨幣市場の均衡 教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第4章
第12回	テーマ(何を学ぶか): IS-LM モデルの応用 (1) 内 容: IS-LM モデルによる政策効果の分析 教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第4章
第13回	テーマ(何を学ぶか): IS-LM モデルの応用 (2) 内 容: IS-LM モデルによる政策効果の分析 教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第4章
第14回	テーマ(何を学ぶか): IS-LM モデルの応用 (3) 内 容: IS-LM モデルによる政策効果の分析 教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第4章
第15回	テーマ(何を学ぶか): 復習と小テスト 内 容: 第1～6章で学んだことの要点の復習 教科書・指定図書
第16回	テーマ(何を学ぶか): 総需要と総供給 (1) 内 容: 物価水準の決定 教科書・指定図書 教科書 第7章 指定図書 第6章
第17回	テーマ(何を学ぶか): 総需要と総供給 (2) 内 容: 物価水準の変化 教科書・指定図書 教科書 第7章 指定図書 第6章
第18回	テーマ(何を学ぶか): 総需要と総供給 (3) 内 容: コロナ禍の分析 教科書・指定図書 教科書 第7章 指定図書 第6章

第 19 回	テーマ(何を学ぶか): インフレとデフレ (1) 内 容: AD/AS によるインフレ分析 インフレ期待 フィッシャー効果 教科書・指定図書 教科書 第 8 章 指定図書 第 6 章
第 20 回	テーマ(何を学ぶか): インフレとデフレ (2) 内 容: インフレコスト インフレと失業 フィリップス曲線 オークン法則 教科書・指定図書 教科書第 8 章 指定図書 第 6 章
第 21 回	テーマ(何を学ぶか): オープン・エコノミーのマクロ経済学 (1) 内 容: 開放経済 国際収支 外国為替市場 外国為替レート 教科書・指定図書 教科書 第 9 章 指定図書 第 5 章
第 22 回	テーマ(何を学ぶか): オープン・エコノミーのマクロ経済学 (2) 内 容: 為替レートの決まり方 金利平価 教科書・指定図書 教科書 第 9 章 指定図書 第 5 章
第 23 回	テーマ(何を学ぶか): オープン・エコノミーのマクロ経済学 (3) 内 容: 開放経済での金融政策 教科書・指定図書 教科書 第 9 章 指定図書 第 5 章
第 24 回	テーマ(何を学ぶか): 経済成長 (1) 内 容: 成長要因 ソローモデル 教科書・指定図書 教科書第 10 章 指定図書 第 10 章
第 25 回	テーマ(何を学ぶか): 経済成長 (2) 内 容: 貯蓄の効果 人口成長 技術進歩 教科書・指定図書 教科書第 10 章 指定図書 第 10 章
第 26 回	テーマ(何を学ぶか): 経済成長 (3) 内 容: 経済成長の要因分解 成長会計 全要素生産性 教科書・指定図書 教科書第 10 章 指定図書 第 10 章
第 27 回	テーマ(何を学ぶか): 資産市場 (1) 内 容: 資産価格の決まり方 割引現在価値 教科書・指定図書 教科書 第 11 章 指定図書 第 3 章
第 28 回	テーマ(何を学ぶか): 資産市場 (2) 内 容: バブルの発生と崩壊 教科書・指定図書 教科書第 11 章 指定図書 第 3 章
第 29 回	テーマ(何を学ぶか): 後半の復習 内 容: 物価の決定以降の要点復習 教科書・指定図書 教科書第 7～11 章
第 30 回	テーマ(何を学ぶか): 全体の復習 内 容: 全体の要点復習 教科書・指定図書 教科書: 1 章～11 章の復習
試 験	筆記試験

〔科目名〕 知の挑戦 II				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 足達健夫						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 卒業研究の基礎および共同プロジェクト							
〔演習内容〕 来年度の卒業研究(卒業論文執筆)に向けた、論文の書き方、テーマの模索、調査を行う。複数メンバーによる共同プロジェクトがある場合は、それも合わせて行う。							
〔科目の到達目標〕 ・テーマ設定に関して、自分のリサーチ・クエスチョンが何かを考えることができる ・共同プロジェクトが地域にとってどのような意味を持つのかを説明できる							
〔ディプロマ・ポリシー (DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 特になし							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 上記到達目標に関して随時行う口頭試問、また共同プロジェクトでの貢献度により評価する。							
〔教科書等〕 随時紹介する。							
〔実務経歴〕 該当なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
春学期	共同プロジェクト 7、卒業研究の基礎 3 の割合で行う。具体的なスケジュールは授業時に決定する。						
秋学期	共同プロジェクト 3、卒業研究の基礎 7 の割合で行う。具体的なスケジュールは授業時に決定する。						

〔科目名〕 知の挑戦Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 生田 泰亮						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 『手足を動かし学ぶ経営経済学』							
〔演習内容〕 2年・3年の共通の研究課題は（１）「伝統的工芸品（こぎん刺し）のマーケティング」（２）「地域資源を活用したものづくりへの挑戦」です。研究成果の報告も兼ねて10月の大学祭等で展示販売会を行います。2年次の演習は、みなさんが地域をよく知り、地域のために知恵を絞って考えて行動する「基礎学習の期間」だと思ってください。地域の産業を活性化させるためにご尽力されている方々と交流し「ものづくり」「マーケティング」「マネジメント」について学びます。2年次の成果を基礎としつつ、3年次からは後輩となる2年生と活動し、徐々に各自の卒業論文にも取り組んでもらいます。 先輩と後輩との交流会、親睦会なども毎年実施しています。その他、地域のことを知り、考え、学ぶためであれば、ゼミ生による企画、フィールドワーク等の積極的な「提案と行動」は大歓迎です。							
〔科目の到達目標〕 ・経営経済学の知識を活かし、地域をよく知り、地域のために知恵を絞って考えて行動することができる。 ・自ら学んだこと、経験したことを後輩に伝え、指導しながら、計画的に協働することができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 「知の挑戦Ⅰ」を単位取得し、合格していること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 適宜指示する。長期休暇期間にはレポートを課す。学期中の活動を総合的に判断し評価する。							
〔教科書等〕 適宜指示する。							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
春学期	商品開発、企画会議、作業 各種伝統工芸、物産展等への調査						
夏季 休暇	伝統工芸を学ぶためのフィールドワーク 卒業論文に向けた課題レポート						
秋学期	商品開発、企画会議、作業 卒業論文に向けた課題レポート						
春季 休暇	卒業論文に向けた課題レポート、進捗状況についてのプレゼンテーション						

〔科目名〕 知の挑戦Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 佐々木てる						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 青森ねぶた祭、運行団体調査。各自テーマの研究報告。							
〔演習内容〕 青森ねぶた祭の運行団体について、それぞれアポイントをとり、取材し、まとめる。その結果を HP に掲載する。 また大学祭にてねぶた展示を行う。 これらの作業は、聞き取りの実践、その結果のまとめ方の学習、資料の収集、保存、展示方法などを学ぶことある。秋学期中盤からは、各自研究テーマを設定し、報告を行う。							
〔科目の到達目標〕 みずから調査を設定し、聞き取りを行うことができる。 聞き取り調査をもとに、レポートが作成できる。 みずからの研究テーマを設定でき、それに基づく論文執筆の手順を理解できる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○	○	○		
〔前提条件〕 2 年次、地域みらい学科において佐々木ゼミを履修していること。聞き取り調査の経験があること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 年間を通じた演習の出席、HPの作成、研究内容報告によって総合的に判断する。							
〔教科書等〕							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
春学期	祭礼に関する文献講読 運行団体調査。 HPの作成。						
夏期	ねぶた祭への参加を通じた、祭礼の比較研究。 大学祭のデザイン、設定。展示の内容準備。						
秋学期	大学祭でのねぶた展示。 各自の研究テーマの報告、先行研究報告。						

〔科目名〕 知の挑戦Ⅰ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 野坂 真						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 「地域の個性を生かした地域づくり:東日本大震災の被災地で学び考えたことを、自分の研究に生かす」							
〔演習内容〕 2年次に行ったフィールドワークなどで学んだこともふまえて各自の問題関心をさらに具体化し、洗練させた上で、研究テーマと自分の調査したい・関わりたい地域を決めて、卒業研究に向けた調査を各自行ってもらおう。そのために授業内では、先行研究の文献調査の結果や対象地域での調査の進捗状況を定期的に発表してもらい、ディスカッションを行う。なお、自分で研究テーマを設定し調査企画を立てることがもっとも望ましいが、もしそれが難しい場合は、3年生の間は講師が行う研究プロジェクトに協力することでそれに代えても良い。自分で調査企画を立てて実施する場合、講師が行う研究プロジェクトに協力する場合、いずれを選んでも、本年度の研究成果について秋学期開始時点で中間報告を、そして秋学期終了時点で最終報告を行うことを必須とする。 また、必要に応じ、2年生の「知の挑戦Ⅰ」で行う共同調査(大槌町、むつ市での調査を予定)に参加したり、講師や3年生が調査対象としている地域へ2・3年生のゼミのメンバーで一緒に行って調査することも考えている。							
〔科目の到達目標〕 2年次と比較して、以下の能力がさらに身につく。 (1) 具体的な地域でどのような課題が、なぜ起こっているか、客観的かつ多面的に調べ分析することができる。 (2) 具体的な地域で生じている課題への向き合い方や関わり方を、地域の個性と自分の能力をマッチングさせる形で考え、行動に移すことができる。 (3) 組織的にコミュニケーションを取り、行動する能力を身につける。 (4) 具体的な地域で行った調査や実践の結果をまとめ公表することで、情報リテラシーやプレゼンテーション能力を身につける。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○		○		
〔前提条件〕 ・授業中は、自分が考えたこと、他の学生や講師からの発言で重要と感じたことなどは、忘れないうちにノートなどにまとめておくこと。また、ディスカッションやグループワークの時間を設けるので、積極的に講師や他の受講者とコミュニケーションを取るよう心掛けること。 ・複数名で共同して行う調査・実践を伴うため、学生同士で、あるいは講師と、コミュニケーション(報連相)をよく取り合い協力しながら、参加すること。 ・授業中にエクセルでのデータ処理やワードでの原稿執筆などの具体的な事務作業が生じることもあるため、オフィスソフトがインストールされ、かつタイピング可能なノートPCやタブレット端末などの情報端末を毎回授業に持参すること。 ・授業時間外にも、調べものや報告の準備など、各自多くの作業時間を要する。共同および個別でのフィールドワーク等を行うため、長い調査期間や複数の調査回数を設定する必要がある。各自、研究や調査に費やす時間を十分確保できるようにスケジュール管理をすること。 ・学外の人々と関わり合う場面では、大学の看板を背負っているという責任感と、学ばせていただいているという							

謙虚さを常を持って行動すること。	
*「知の挑戦Ⅱ」の履修者は、必ず「フィールドリサーチⅡ」「フィールドリサーチⅢ」も履修すること。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・授業への参加の主体性(授業に関わるグループワークにおける貢献度や積極性など)＝30% ・授業内報告のために作成した資料と報告の内容、ディスカッションでの発言の内容(着眼点の鋭さ、調べものの的確さなど)＝30% ・最終成果物の内容(検討方法や検討結果の妥当性など)＝40% ※毎回の出席は前提とする(冠婚葬祭、出席が難しいほどの病気や怪我などは、事前に連絡すれば欠席可)。 ※授業に関わるグループワークへ参加しない場合、最終成果物を提出しない場合、卒業研究に向けた調査を実施しない場合、いずれも単位は取得できない。 ※単位 A、B、C、D、F いずれかになるかを判断する基準は大学による基準にもとづく。	
〔教科書等〕 教科書と指定図書は特になし。以下、参考書を挙げる。 文貞實・山口恵子・小山弘美・山本薫子編著『社会にひらく 社会調査入門』(ミネルヴァ書房)2023 年 村田晶子・箕曲在弘・佐藤慎司編著『フィールドワークの学び方』(ナカニシヤ出版)2022 年 谷富夫・山本努編著『よくわかる質的社会調査法 プロセス編』(ミネルヴァ書房)2010 年 佐藤郁哉著『社会調査の考え方 上・下』(東京大学出版会)2015 年 2024 年度「知の挑戦Ⅰ」の調査報告書(非売品、授業の第1回で配布) *そのほか、各自の研究テーマに関わる重要な先行研究を授業内で適宜提示する。	
〔実務経歴〕 なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル *受講者の理解度や実際の作業の進捗などにより各回の内容や順番が変更となる可能性あり	
時期	テーマと内容
春学期 前半	テーマ:リサーチクエストとリサーチデザインの検討、先行研究の精読や調査対象地に関する事前調査 内容:2年次の調査のふりかえり、リサーチクエストとリサーチデザインや調査対象地の候補について受講者各自から発表する、重要な先行研究の概要を紹介するとともに自分の研究にどのように使えるかや調査対象としたい地域の基礎情報を受講者各自から発表する、等
春学期 後半	テーマ:調査企画の検討、フィールドワークの準備 内容:夏季休講期間中に向けて受講者各自がどのような調査・研究の計画を立てているか発表する、2年生ゼミの準備状況を講師から共有しつつ2・3年生合同での共同調査の可能性を検討する、夏季休講期間中のスケジュールを確認する、等
夏季休 講期間	テーマ:フィールドワークの実施、調査記録の作成とデータベース化 内容:受講者各自が決めた調査対象地での現地調査を実施する、受講者各自で文字起こし記録や観察記録や写真などをまとめてデータベース化しておく、お礼状を作成し発送する、等
秋学期 前半	テーマ:調査のふりかえりと今後の計画の確認、調査結果のとりまとめと中間報告、フィールドワークの可能性の検討 内容:受講者各自で調査から分かったことやそこから言えることを暫定的にまとめる、まとめた内容を中間報告として大学祭で展示することを検討する、2年生ゼミの準備状況を講師から共有しつつ2・3年生合同での共同調査の可能性を検討する、等
秋学期 後半	テーマ:分析レポートの執筆、調査協力者への原稿内容の確認、最終報告 内容:受講者各自で調査結果をもとに分析レポートの原稿を執筆しその内容を授業内で発表する、調査協力者へ原稿内容の確認を依頼する、調査協力者からの原稿確認の結果をもとに原稿を修正する、最終的な調査結果報告会を開催し調査結果を受講者各自から発表する、等

〔科目名〕 知の挑戦 II				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 三浦英樹						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 演習テーマ「自然地理学と歴史学の視点から自然と人間の関係(環境史)を探り、地域の未来について考える」 ① 現在の人類の位置づけを知り、自然と人間の相互関係について考えること ② 持続可能な社会を作るための自然を生かした技術や文化について考えること ③ 人間がもともと持っていた生態知、在来知、暗黙知の記録・評価を行い、現代社会への活用について考えること							
〔演習内容〕 自分が興味を持った課題に関する先行研究の紹介・批判的検討とその内容の発表、課題に関連するテーマのフィールドワークの計画と調査結果の発表、および卒業論文の課題設定と研究計画案の作成と執筆の指導を行う。							
〔科目の到達目標〕 「風景と自然を読む技術」、「人間と自然の関係性とその歴史を読む技術」、「調べたこと、観察したことを他人に伝える技術」を習得すること。「地理空間情報学(地図の読み方)」、「地形地質学」、「自然環境学」、「地域の自然と人間の歴史」の基本をもとに自分の興味・課題を絞り込み、先行研究を批判的に読み込むこと。卒業論文の課題設定と研究計画案を作成すること。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 ・専門科目の「自然史・地理情報と地域創造」を合わせて履修すること。 ・風景(地形)の成り立ちに強い興味がある人、自然が大好きで山や森に出かけたいという志向がある人、自然の成り立ちやそれと関わる人々の歴史や伝統文化・技術に興味がある人、地図を読むのが大好き(になりそう)という人。 ・① 対象とする地域の自然の成り立ちやそれと関わる人々の歴史を明らかにして、それを人にわかりやすく説明しようとする意欲があり、② その知識をどのように、地域の魅力に繋げていくかというアイデア創出を楽しめる人。 ・難しい数学や科学の知識は必要ないが、それらの説明を理解しようと前向きに取り組める人、野外を長時間歩いたり、穴を掘ったり、崖を記載したり、植物を丹念に調べて地図に落とす、顕微鏡観察など、泥臭い仕事を黙々と根気強く行う能力を持っている人。 ・文献をきちんと読んでまとめて発表できる意欲と能力がある人。あるいはそれを身につける努力をいとわない人。 ・夏休みや土日を含めて、長く(あるいは頻繁に)フィールド調査に出られる時間の余裕、フィールドワークに係る経費の自己負担が必要になるので、その余裕がある人。 ・演習やフィールドワークで必要となる「地形を感じる3D地図アプリ『スーパー地形』」(iOS版:960 円、Android版:年間750 円、パソコン版:年間1680 円)を購入してもらうので、それが可能な人。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) レポートの内容、演習・フィールドワークへの取り組み状況にもとづいて総合的に評価する。							

〔教科書等〕 貝塚爽平他編(2019)『写真と図で見る地形学 増補新装版』東京大学出版会 他は、その都度指定する	
〔実務経歴〕 なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時期	テーマと内容
第1回 ～ 第3回	テーマ:「地理空間情報学」、「地形地質学」、「自然環境学」、「地域の自然と人間の歴史」、「青森県を中心とした北東北地域の地理学的知識」の習得 内容: テキスト『写真と図で見る地形学 増補新装版』を分担・発表を行う。
第4回 ～ 第8回	テーマ:「地理空間情報学」、「地形地質学」、「自然環境学」、「地域の自然と人間の歴史」、「青森県を中心とした北東北地域の地理学的知識」の習得 内容: 自分が興味のある地域の地形発達史、自然環境、人の歴史の紹介・発表。
第9回 ～ 第15回	テーマ: 卒業論文の課題の絞り込み 内容: 自分が興味のある課題についての先行研究の紹介と発表。
夏休み	自分の興味がある地域と課題に関するフィールドワークを行い、地形や自然環境と人間の生活・文化・歴史に関する調査を行う。
第16回 ～ 第30回	テーマ: 卒業論文の課題の絞り込みと研究内容の議論 内容: 自分が興味のある課題についての紹介と発表。

〔科目名〕 知の挑戦Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 安田公治						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 農業と6次産業化							
〔演習内容〕 実地での農作業、農業従事者への聞き取り、アンケート調査 データ処理および分析手法について学ぶ。							
〔科目の到達目標〕 実地の農業生産及び販売を通して、経済学における生産や消費の意思決定行動を理解する。 独自にアンケートや聞き取り調査を企画し、データを入手して分析する力を身に着ける。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2	DP3	
〔前提条件〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 農作業や聞き取り調査を通して、課題や改善策を積極的に提案する能力を評価する。 また得たデータの適切な処理の方法を身に着けているかも評価する。							
〔教科書等〕 新しい農業経済論 ― ミクロ・マクロ経済学とその応用 新版、山口三十四、衣笠智子、中川雅嗣.(2020). 有斐閣ブックス							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4月～5月初旬	経済学と農業の関係についての説明 農作業の詳細な生産計画を立てる。						
5月中旬～10月	実地での農作業を行う。 あおりマルシェでの出展、出展者や運営者への聞き取り調査 学祭での販売 卒業論文についてのテーマを各自考える。						
11月～2月	生産計画と実際の収益との比較、次期の生産計画への改善点について考える。 農作業や販売活動から得たデータをまとめる。 自分で仮説を立て、必要なデータを入手したうえで統計学的な分析を行えるようにする。						
3月	卒業論文テーマの確定 卒業論文に向けたデータの入手						

〔科目名〕 知の挑戦 II				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 長岡朋人						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 1.健康寿命延伸に関する実態の調査と改善案の策定 2.地域の文化財の保全と活用に関する基礎的研究 3.防災に関する聞き取り調査 4.遺跡出土人骨の古病理学的研究							
〔演習内容〕 アカデミックスキルの習得、保健行政や文化財行政の担当者への聞き取り調査、生物統計学の習得							
〔科目の到達目標〕 1.先行研究を渉猟し、論点を整理できる 2.研究デザインの構築とそれに対する適切なアプローチを立案できる 3.データの分析技術を習得し、再現性のある結果を導き出すことができる 4.自身が得た結果を先行研究と比較を行い、考察することができる 5.研究倫理を遵守し、研究によって社会の差別を助長しないようにする							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) レポートによる評価を行う。講義回数の 3 分の1の欠席は F 評価とする。							
〔教科書等〕 なし							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
第1回 ～ 第5回	アカデミックスキルの習得 レポートの書き方、先行研究のまとめかたを習得する						
第6回 ～ 第 10 回	先行研究のレビュー 書籍や論文を5点収集し、論点を整理する						
第 11 回 ～ 第 15 回	研究計画の構築 学生が関心のあるテーマを絞り、適切な研究方法を検討する						

第 16 回 ～ 第 21 回	データの分析 学生が収集したデータの分析方法を習得する
第 22 回 ～ 第 24 回	小論文の執筆 先行研究のレビューを行う
第 25 回 ～ 第 27 回	小論文の執筆 学生の分析結果を文章化する
第 28 回 ～ 第 30 回	小論文の添削

〔科目名〕 知の挑戦Ⅰ				〔単位数〕 4 単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 渡部鮎美						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 地域の自然・文化資源の生活のなかでの利用に関する民俗学的研究							
〔演習内容〕 本演習では地域の人びとの生活を見つめ、日常生活のなかで人びとがどのように自然と向き合い、文化を生み出してきたのかを考える。その上で自然・文化資源の観光利用や地域振興への活用事例を検討し、新たな資源の発見、資源の保護・再利用の過程について考察をする。							
〔科目の到達目標〕 1) フィールドワークの手法や理論を習得し、自身で問いを立て、調査を実践することができる。 2) フィールドワークで得たデータから地域の人々の自然利用やそこから生まれる文化について論述し、地域に成果を還元することができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○	○	○		
〔前提条件〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 指定された提出物および報告書の作成、報告会での成果発表。詳細は授業時に指示する。							
〔教科書等〕 指定しない。必要な資料は印刷して配布する。							
〔実務経歴〕 なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
第 1 回	テーマ：オリエンテーション 内容： 科目の概要やフィールドワークのスケジュール、注意点等について説明をする						
第 2 回	テーマ：フィールドワークの手法と理論① 内容： フィールドワークを行う上で必要となる倫理的配慮について学ぶ						
第 3 回	テーマ：フィールドワークの手法と理論② 内容： フィールドワークで必要となる参与観察の手法について学ぶ						
第 4 回	テーマ：フィールド演習①山林資源の利用 内容： 学内で山林資源の利用に関するフィールドワークを行う						
第 5 回	テーマ：フィールドワーク演習のふり返り(論文講読) 内容： 山林資源の利用に関する論文を購読し、フィールド演習をふり返る						
第 6 回	テーマ：フィールドワークの手法と理論③ 内容： フィールドワークで必要となる聞き取り調査について実習形式で学ぶ						
第 7 回	テーマ：フィールドワークの手法と理論④ 内容： フィールドワークの成果を地域に還元する方法について実習形式で学ぶ						
第 8 回	テーマ：フィールド演習②食文化 内容： 地域の食材を用いて、食文化に関するフィールドワークを行う						
第 9 回	テーマ：フィールドワークのふり返り(論文講読) 内容：地域の食材や食文化に関する論文を購読し、フィールド演習をふり返る						

第 10 回	テーマ: フィールドワークの事前学習 内容: 蓬田村の自然と文化について学び、事前に必要な知識を得る
第 11 回	テーマ: フィールドワークの計画 内容: 蓬田村でのフィールドワークに向けて各自でテーマを設定し、調査計画を発表する
第 12 回	テーマ: 質問表の作成と発表 内容: 蓬田村でのフィールドワークに向けて各自で質問表を作成し、発表する
第 13 回	テーマ: フィールドワークの説明と最終確認 内容: 蓬田村でのフィールドワーク実施に向けた説明と最終確認を実施する
第 14 回	テーマ: フィールド演習③保存食 内容: 地域の食材を用いて、保存食に関するフィールドワークを行う
第 15 回	テーマ: フィールドワークのふり返し(論文講読) 内容: 保存食に関する論文を購読し、フィールド演習をふり返る
第 16 回	テーマ: フィールドデータの整理① 内容: 調査カードの作成と利用について学び、調査カードを作成する
第 17 回	テーマ: フィールドデータの整理② 内容: 調査カードを共有し、フィールドデータの整理を行う
第 18 回	テーマ: 報告書作成計画 内容: 報告書の作成方法について検討し、各自で報告書原稿の作成計画を立てる
第 19 回	テーマ: フィールドデータの記述①(論文講読) 内容: 報告書を購読し、自身の報告書原稿の記述について考える
第 20 回	テーマ: フィールドデータの記述②(論文講読) 内容: 報告書を購読し、自身の報告書原稿の記述について考える
第 21 回	テーマ: フィールド演習④地域資源の販売 内容: 地域資源の商用利用に関するフィールドワークを行う
第 22 回	テーマ: フィールドワークのふり返し(論文講読) 内容: 地域資源の商用利用に関する論文を購読し、フィールド演習をふり返る
第 23 回	テーマ: 報告書原稿の検討① 内容: 各自で作成した報告書の 1 稿を共有し、図表による表記や記述方法を検討する
第 24 回	テーマ: フィールド演習⑤行事食 内容: 地域の食材を用いて、行事食に関するフィールドワークを行う
第 25 回	テーマ: フィールドワークのふり返し(論文講読) 内容: 行事食に関する論文を購読し、フィールド演習をふり返る
第 26 回	テーマ: 報告書原稿の検討② 内容: 各自で作成した報告書をインフォーマントと読み合わせ、適宜、記述を修正する
第 27 回	テーマ: 報告書原稿の検討③ 内容: 各自で作成した報告書の 2 稿を共有し、図表による表記や記述方法を検討する
第 28 回	テーマ: フィールドワーク報告会の準備① 内容: 蓬田村でのフィールドワーク報告会の準備をする
第 29 回	テーマ: フィールドワーク報告会の準備② 内容: 蓬田村でのフィールドワーク報告会の準備をする
第 30 回	テーマ: フィールドワーク報告会 内容: 蓬田村で研究成果を地域に還元するフィールドワーク報告会を実施する